

# 新潟市文化財センター年報

## 第4号

—平成27（2015）年度版—

2017

新潟市文化財センター

# 新潟市文化財センター年報

## 第4号

—平成27（2015）年度版—



秋葉区 史跡古津八幡山遺跡（北東から）

2017

新潟市文化財センター

## 新潟市文化財センター

### 【設置】

新潟市文化財センターは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、これらに対する市民の关心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

### 【事業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究のこと。
- ② 発掘調査等により出土した考古資料の収集及び保存並びに公開その他の活用のこと。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用のこと。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る700か所以上の遺跡が知られています。平成17（2005）年の14市町村による広域合併後の各種開発事業等の増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどり、新たに発見される遺跡も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

文化財センターは各種開発事業や史跡整備等に伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月にオープンしました。

文化財センターには、民俗資料収蔵庫も併設されており、併せて市指定文化財の旧武田家住宅を移築復元しています。



市指定文化財旧武田家住宅及び蓄動舎外観

## 例　　言

- ・本書は、文化スポーツ部新潟市文化財センター（以下「文化財センター」）及び歴史文化課埋蔵文化財担当（以下「埋蔵文化財担当」）の主に埋蔵文化財に係る平成27年度の業務年報である。Iに新潟市の埋蔵文化財保護行政の概要、IIに各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査、IIIに文化財センター業務年報、IVに新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場（以下「古津八幡山遺跡歴史の広場」）業務年報、Vに資料紹介や研究ノート等の研究活動について収録している。
- ・「新潟市文化財センター年報」（以下「年報」）は平成25年から刊行され、本書は第4号にある。文化財センター開館までの新潟市の埋蔵文化財行政の概要及び経緯、文化財センターの概要については、第1号（渡邊・八幡後付2014）に記載されている。
- ・本書は文化財センター・埋蔵文化財担当職員が分担執筆した。執筆者の氏名は各文章の末尾に記載した。なお、全体の統一をはかるために内容が変わらない範囲で編集者が字句の修正を行った。Vについては研究論文の側面があるため、編集は書式等の統一に止め、極力修正を行っていない。
- ・引用・参考文献は巻末にまとめて掲載しているが、Vについては先述の理由により各節の末尾に記載している。
- ・本書に記載されている施設名及び所属等については、本書刊行当時のものである。
- ・II、III 2の試掘・確認調査、本発掘調査、工事立会は主要なもののみを掲載した。
- ・II 2、III 2の各概要の図「調査地点の位置」は、国土基本図（2500分の1）を使用しており、縮尺は10,000分の1、または15,000分の1（II (5)・(7)）で掲載した。地図の上位が北である。
- ・図・表番号は、各章毎に1から付けている。しかし、II 2、III 2は項（真要）毎に、Vは節毎に番号を付けている。
- ・掲載遺物の実測・トレース等は文化財センターで行った。
- ・本書の編集は金田拓也・八幡後智人が行った。

## 目　　次

I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について	1
II 開発事前審査	2
1 事前審査内容	2
2 平成27年度の事前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会の概要	7
III 新潟市文化財センターの事業	21
1 本発掘調査の概要	21
2 平成27年度の本発掘調査	22
3 整理作業の概要	26
4 資料の収蔵・保管	27
5 資料の公開・展示	28
6 教育普及活動	34
7 保存処理	39
8 新潟市文化財センター運営協議会	40
9 決算額	40
IV 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場	41
1 資料の公開・展示	41
2 教育普及活動	51
3 古津八幡山古墳復元整備の概要	53
V 研究活動－資料紹介・研究ノート等－	54
1 新潟市文化財センターの来館者数から見た現状と課題	54
2 チューバ・デコレーション技法の再現実験 －縄文時代前期末土器に見られる環状浮雕文の施文法について－	56
3 西蒲大沢遺跡の縄文時代遺物	62
引用・参考文献	65
付録（各表）	66

## I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について

**概 要** 新潟市では、「文化財に関する事項」は行政組織規則により市長部局の歴史文化課が主に補助執行している。そのうち埋蔵文化財については、歴史文化課及び文化財センターが所管している。

事務分掌としては、開発事前審査、試掘・確認調査、工事立会、古津八幡山遺跡を除く史跡管理を歴史文化課が、本発掘調査、保存処理、収蔵・保管、展示・活用、史跡古津八幡山遺跡の保存・活用等を文化財センターが行っている。

**開発事前審査** 開発事前審査では、民間開発や公共工事に対する事前協議を行い、「新潟市試掘確認調査基準」(平成19年4月1日施行)に基づいて試掘・確認調査の要否を判断している。また、本市は政令指定都市のため、「文化財保護法」(以下「法」)第93条及び第96条に基づく事務については、新潟市教育委員会が「新潟市埋蔵文化財取扱要綱」(平成19年4月1日施行)に基づいて「法」に伴う指示を行っている。

**本発掘調査** 本発掘調査は、民間や国・県などの原因者から新潟市が受託して「埋蔵文化財本格発掘調査事業」として実施している。また、本市の原因者の場合は関係各部署からの依頼を受託し、同様に実施している。

平成27年度の埋蔵文化財本発掘調査と整理作業に係る事業費は表1の通りである。内容に本発掘調査と表示されているものが、今年度に本発掘調査を実施した事業である。また、本発掘調査と表示されていないものは、前年度以前に本発掘調査が行われた事業である。

**埋蔵文化財** 新潟市内には、埋蔵文化財包蔵地が、736か所存在する(平成28年3月31日時点)。平成27年度は、試掘調査による新発見遺跡が5か所、近世新潟町跡(近世新潟町跡の取扱いは「年報」1号(渡邉2014a)に記載)の周知化地点が3か所ある。今後も試掘調査等による増加が見込まれる。

新潟市で近隣市町村との合併(平成17年度)が行われてから平成27年度までの新発見遺跡数は表2の通りである。11年間で60遺跡が新たに見つかり、平均すると1年間で5遺跡程度見つかっていることになる。

各区では江南区・秋葉区・西蒲区で多くの遺跡が見つかっており、これは新潟市に所在する道路の分布傾向とも一致している。しかし、この11年間でどの区からも遺跡が見つかっていることから、分布密度の偏りは存在するが新潟市全域に未発見の遺跡が存在する可能性はあり、

今後も試掘調査を継続して実施し、埋蔵文化財の保護に取り組んでいく必要がある。

各区の新発見遺跡数の偏りは、各区の開発事業数に大きく左右されている。その中で、遺跡の多くは砂丘上や丘陵上、自然堤防等の微高地で発見される傾向がある。このような遺跡が存在する可能性が高い地形では、密な範囲での確認が必要である。しかし、中に干拓耕地の埋没自然堤防等の現在の地形では当時の地形が分からぬ場所もあるため、広い範囲でもある程度狭い間隔で確認していくことも重要な要素となる。

(金田拓也)

表1 平成27年度本格発掘調査・整理作業事業費一覧

事業名	実施年	事業名	施設名	内 容	予算額(万円)	実績額(万円)	割合
2015001	2016	戸内遺跡 本格発掘調査事業	白山城	本格発掘調査事業	16,000,000	9,617	60.1%
2016001	2017	本格発掘調査事業	白山城	本格発掘調査事業	8,712	—	—
2016002	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	10,632,000	—	—
2016003	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016004	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	11,290,000	3,894	34.5%
2016005	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016006	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016007	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016008	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016009	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016010	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016011	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016012	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016013	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016014	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016015	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016016	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016017	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016018	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016019	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016020	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016021	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016022	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016023	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016024	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016025	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016026	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016027	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016028	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016029	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016030	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016031	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016032	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016033	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016034	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016035	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016036	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016037	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016038	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016039	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016040	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016041	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016042	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016043	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016044	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016045	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016046	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016047	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016048	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016049	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016050	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016051	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016052	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016053	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016054	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016055	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016056	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016057	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016058	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016059	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016060	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016061	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016062	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016063	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016064	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016065	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016066	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016067	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016068	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016069	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016070	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016071	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016072	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016073	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016074	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016075	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016076	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016077	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016078	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016079	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016080	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016081	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016082	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016083	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016084	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016085	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016086	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016087	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016088	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016089	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016090	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016091	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016092	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016093	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016094	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016095	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016096	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—
2016097	2017	本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	新潟市立歴史博物館 本格発掘調査事業	—	—	—

## 1 事前審査内容

事前審査の概要については既刊の『年報』(廣野2014など)に記載されている。これまでの記載に則り、平成27年度の事前審査内容を述べる。

### (1) 開発事前審査

**概要** 貴重な国民共有の歴史的財産である遺跡(埋蔵文化財包蔵地)を将来にわたり適切に保護していく必要がある。そのためには、開発事業やその他の行為等に伴う掘削または他の要因によって遺跡が何らかの対処が行われずに破壊されないための十分な措置を講じなければならない。そこで、「法」第93条及び第94条によって、開発事業等に伴う掘削等については事前の届出・通知が事業者に義務付けられている。「法」に則り実際に行っていく上では、事業の計画段階から試掘・確認調査を実施し、その結果を踏まえて事業内容の調整を行いう、長期の期間が必要となることが多い。そのため、可能な限り早期から事前協議を行うよう努めている。

そこで、新潟市では土木工事等の事業について、公共・民間の別を問わず全て事前審査を行い、必要なものについて事前協議の対象としている。

具体的な審査等の進め方についてはさまざまな形態の事業があり、具体的な進め方も異なるため、公共事業と民間事業に大きく分けて述べる。

**公共事業** 国や県の機関が実施する土木事業については、毎年12月に新潟県教育厅文化行政課が一括して関係機関に照会し、得られたデータを新潟市の各市町村に提供することで、審査及び事業者との協議を依頼している。

新潟市が実施する事業については、毎年3月に府内全部署へ照会をかけ、その回答を基に協議している。全ての市事業を収拾するため、審査件数が数百件と膨大になり、短期間での審査・協議が困難となっている。事業主体からも自発的に歴史文化課へ協議するよう各種の機会をとらえて声掛けを行っている。

**国・県事業や市事業のいいずれも年に1度の照会で把握しているため、年度途中で突然的に行われる小規模事業を把握できない場合がある。**このような事業に対して事前協議を行っていくための把握方法が継続した課題であるが、現状で改善できていない。

**民間事業** 民間事業の中で最も多い建築事業につ

いては、建築確認申請を提出する際、新潟市独自の施策として同申請書に「建築確認申請事前調査報告書」の添付を義務付けている(担当は建築部建築行政課)。その事前調査項目に「埋蔵文化財の有無」があることから、建築主は全ての案件について歴史文化課窓口へ照会して確認番号を取得する必要があり、その時点で遺跡に該当するかどうか把握できる仕組みとなっている(なお、公共の建築事業についても「計画通知」段階で同様の措置を取っている)。

開発行為については、各区の「開発事前審査協議会設置要領」に規定されている通り「都市計画法」第32条による事前協議書が各区役所建設課に提出された後、歴史文化課を含む府内関係各課に意見照会されるため、全ての案件について取扱い方針の審査と協議を行っている。

また、新潟市では土木事業が農地内で行われることが多く、その時は事前に『農地法』に係る転用申請・届出が提出される。そのため、市内に存在する6か所の農業委員会事務局(北区・中央・秋葉区・南区・西区・西蒲区)に歴史文化課への情報提供を依頼し、全件について審査上の、取扱い方針を決定し、必要なものについて事業者と協議を行っている。

このように、民間事業者の行う各種開発等については、許認可業務を担当する府内各課と緊密に連携し、事前把握を行っている。

その他、不動産鑑定評価や土地売買検討時の事前調査に伴う遺跡の有無の照会も相当数にのぼっている。

しかし、試掘・確認調査結果を踏まえて協議を行うには日数が足りないことがあるため、各事業者が事前照会をより早い段階で自発的に行うよう、各種の機会をとらえて周知する等の声掛けを行っている。また、開発行為事前協議時の事前相談が開始された段階で、各区建設課から事業者に対し歴史文化課へも連絡を取るよう指導する対策が取られている。

さらに、事前照会にあたっては窓口対応の他、FAXを活用する等、遠隔地の事業者の負担を少なくし、隨時照会が行えるよう工夫している。

**平成27年度** 国・県事業のうち、平成27年度の新潟市開通分は57件であった(表1)。平成26年度は49件のため8件の増加である。国事業が11件、県事業が46件である。国事業では取扱いが必要となったものはなかった。県事業では、圃場整備及び農道関係がほとんどで

あった。県事業中の8件は圃場整備事業に係る事業で、平成26年度から引き続き協議を行っている。事業実施に際し「法」第94条通知が行われている。

特に、秋葉区両新地区圃場整備が大きな割合を占めている。他にも、西蒲区内で複数の圃場整備事業が採択段階に上がってきており、採択された順に可能な限り試掘調査を実施した。計画中の事業地域が複数あり、各地域とも予定面積が広大であることから、今後も試掘・確認調査が大幅に増加する見込みである。

市事業の審査件数については、平成26年度の434件から827件と前年度比較約190%の増となっている。

主な内訳としては、水道関係145件（全体の約17%）、道路関係375件（約45.3%）、下水道関係57件（同6.9%）、公共交通関係156件（同18.9%）である。公共施設関係はほとんどが改修工事や設計であったため、遺跡に該当したり、試掘調査の協議を行なう必要がなかった。傾向としては道路や農業基盤整備等の公的投資が伸びている。

民間事業に係る事前審査については表2に示した。平成26年度とはほぼ同傾向であるが、案件毎の重複を除いた実数は7,526件（平成26年度7,591件に比して約1%減）であった。

内訳をみると、開発行為は約65%に減少（平成26年度の72件から47件）、農地転用は約72%に減少（同668件から481件）。建築確認申請に係る審査件数は約98%に減少（同4,261件から4,196件）した。

## （2）試掘・確認調査

**概要** 市事業事前審査・協議において、周知遺跡となっており開発計画等の対象範囲で遺跡の詳細な内容が不明な場合は確認調査、遺跡の有無が不明であり事前に把握する必要があると判断した場合は試掘調査を実施している。経費は市の事業「市内遺跡範囲等確認調査事業」として公費から支出し、原則として事業者に一切の負担を要求していない。なお、事業費は国の補助（文化厅補助割50%）を受けている。

試掘調査については、公共事業はもちろん、民間事業の場合もほとんどは事業者の理解と協力を得て実施している。近年はほぼ全ての案件で承認が得られている。

平成27年度 表3～5の通り、確認調査が32件、試掘調査が42件の計74件を実施した。平成26年度の件数と比較すると確認調査が2件増、試掘調査が5件の減となっており、平成26年度から件数では大きく変化していない。しかし、試掘・確認調査には道路建設や農業基盤整備事業等の1件あたりの事業規模（調査対象面積）が大規模なものもあり、1件あたりにかかる調査日数には差がある。平成27年度は農業基盤整備事業等の調査対象面

表1 平成27年度公共事業事前審査事業主体別内訳

事業主体	件数	過跡に誤当	試掘調査の協議をしたもの		「法」94条通知
			未登録	登録	
国	11	0	3	0	0
都	10	1	2	8	8
県	827	10	10	10	15
計	884	18	15	15	23

表2 平成27年度民間事業事前審査内訳

区名	件数	審査登録		審査・原付 登録による 登録件数	「法」 94条通知
		未登録	登録		
北区	11	26	735	336	1,148
中央区	11	37	902	745	1,695
江南区	3	1	431	266	790
北区	4	1	397	230	641
西区	2	61	237	88	177
南区	11	171	831	531	1,547
西区	4	52	234	221	502
計	67	481	4,196	2,894	7,018
過跡に誤当	0	11	10	408	520
確認したもの	4	12	0	307	413

申請登録された実数（登録登録等）については現行道路の範囲に係るものの申請の対象としているか、届出として試掘調査ははじまない。

表3 平成27年度試掘・確認調査、工事立会件数

試掘・確認調査、工事立会件数	区分	内訳	事業者	件数	既往実績		割合 (%)
					既往登録件数	既往実績件数	
北区	確認調査	公 置	0	1	0	0	0
北区	確認調査	公 施	1	2	3	1	50
北区	工事立会	公 施	2	2	2	0	0
東区	確認調査	公 施	0	3	2	67	
東区	確認調査	公 施	3	1	12	0	0
東区	工事立会	公 施	2	9	9	0	0
東区	確認調査	公 施	0	1	1	0	0
東区	確認調査	公 施	0	0	0	0	0
中央区	確認調査	公 施	3	8	8	3	38
中央区	確認調査	公 施	5	2	5	3	60
中央区	工事立会	公 施	2	5	5	3	60
江南区	確認調査	公 施	3	9	15	5	56
江南区	確認調査	公 施	1	6	6	2	33
江南区	工事立会	公 施	11	11	11	1	9
秋葉区	確認調査	公 施	6	14	20	7	50
秋葉区	確認調査	公 施	3	6	6	1	17
秋葉区	工事立会	公 施	2	8	8	1	13
南区	確認調査	公 施	0	1	0	0	0
南区	確認調査	公 施	0	1	2	0	0
南区	工事立会	公 施	0	0	0	0	0
西区	確認調査	公 施	0	0	0	0	0
西区	確認調査	公 施	0	0	0	0	0
西区	工事立会	公 施	1	2	2	0	0
西区	確認調査	公 施	2	4	8	2	50
西区	確認調査	公 施	3	4	4	1	25
西区	工事立会	公 施	1	6	6	0	0
合 計	確認調査	公 施	92	32	74	16	50
合 計	確認調査	公 施	111	42	8	8	19
合 計	工事立会	公 施	121	35	35	5	14

表4 平成27年度試掘・確認調査、工事立会金額

調査内訳	工事立会金額	審査登録料	金額	
			既往登録料	既往実績料
既往登録料			17,052	
確認調査			5,886	
審査登録料 (工事立会)			1,025	
その他			1,322	

表5 平成27年度試掘・確認調査一覧（調査番号順）

<sup>95</sup> 陈其南：《中国区域化与工业化》，以新阶段的区域化为题，见《中国区域化与工业化》，第22页。关于区域化与工业化，陈其南认为区域化是工业化的一个方面，工业化是区域化的另一个方面，两者不可分离。

註2：此段的內容是從前兩段的「政治化」和「經濟化」兩方面來分析的。雖然內容有強調了某一方面，但其實兩者是互相關連的。



確認調查風景 (2015104 - 平進勝)



試掘調査風景 (2015188・東区寺山字前沢)

表6 平成27年度工事立会(管内調査)一覧(調査番号順)

調査番号	遺跡名	所在区	工事区域	調査担当	査定期間	提出期限	出土遺物	
205109	西・北区	西・北区	西・北区	西・北区	6/27	6/28	×	
205112	秋葉道跡	西・北区	西・北区	西・北区	6/27	6/28	×	
205113	斎藤山古墳跡	西・北区	西・北区	西・北区	5/7	5/8	×	
205115	坂ノ下遺跡	江南区	個人住宅	渕山よりか	5/30	5/31	×	
205118	福ノ門遺跡	西・北区	木造	渕山よりか	5/19	5/20	×	
205128	高井御跡	秋葉区	木造	渕山よりか	5/27	5/28	×	
205130	(木造) 墓・古墳	西・北区	野原町	明治政府	5/8	5/9	×	
205131	近世新潟城跡	中央区	瓦	渕山よりか	6/9	6/10	○	
205139	近世新潟城跡(古町八番町)	中央区	新輪町	渕山よりか	6/7	6/8	○	
205141	石坂下町遺跡	西・北区	個人住宅	明治政府	7/10	7/11	×	
205145	土手遺跡	江南区	個人住宅	渕山よりか	7/29	7/30	×	
205148	近世新潟城跡(古町八番町)	中央区	吉田町	渕山よりか	7/1	7/2	○	
205151	古河遺跡	西・北区	個人住宅	渕山よりか	7/1	7/2	×	
205152	魚梁場跡	北・北区	個人住宅	渕山よりか	9/1	9/2	×	
205155	鳥居前遺跡	中央区	ガラス賣	野野井町	8/20	8/21	×	
205165	上越城跡	西・北区	瓦・瓦礫	明治政府	10/9	10/10	○	
205166	三輪山遺跡	西・北区	瓦・瓦礫	渕山よりか	10/30	10/31	×	
205167	道ノ上遺跡	秋葉区	瓦・瓦礫	渕山よりか	11/4	11/5	×	
205171	鶴巣山古跡・追跡	秋葉区	鶴巣山古跡	渕山よりか	11/5	11/6	○	
205173	白木遺跡	江南区	白木	野野井町	11/20	11/21	×	
205184	細堀遺跡	西・北区	コムニティセンター	明治政府	1/8	1/9	×	
205231	近世新潟城跡(本町1丁目)	中央区	真田住宅	朝雲	6/9	6/10	×	
205236	瓦・瓦礫	秋葉区	瓦・瓦礫	明治政府	2/15	2/16	×	
205247	網切遺跡	西・北区	網切	木子宿	明治政府	3/25	3/26	×
205248	古半身像遺跡	北・北区	木造	渕山よりか	4/1	4/2	×	
205249	坂ノ下遺跡	江南区	八幡町	渕山よりか	4/38	4/39	×	
205250	沖ノノ上遺跡	秋葉区	周囲施設	渕山よりか	12/7	12/8	×	
205251	寺内遺跡	秋葉区	資材貯蔵	渕山よりか	6/11	6/12	○	
205252	寺内遺跡	江南区	個人住宅	—	※2	—	—	
205254	三輪山遺跡	西・北区	個人住宅	—	※2	—	—	
205255	三輪山遺跡	西・北区	個人住宅	—	—	—	—	
205256	寺内遺跡	西・北区	個人住宅	—	—	—	—	
205257	個人住宅跡	西・北区	個人住宅	野野井町	10/24	10/25	×	
205258	三輪山遺跡	江南区	個人住宅	—	※2	—	—	
205259	大沢谷内遺跡	秋葉区	ハイバス	明治政府	2/27	2/28	×	

※1 調査等の記述をまとめたもので、工事立会にも発掘調査番号が付与されている。

※2 工事実施日の遅れがなく工事実施時に工事立会ができるかった。

積が広い試掘・確認調査が複数あったこともあり、市職員の現地調査日数は平成26年度以上となっている。

地域別では、例年通り秋葉区と江南区が多い。遺跡数も多いが両区は公共事業・民間事業共に他の区よりも多い。

平成28年度の試掘調査で新たに発見された遺跡は、亀田道下遺跡(江南区)・上郷北遺跡(江南区)・繁ノ木原遺跡(西蒲区)・天ヶ沢上谷内遺跡(秋葉区)・浦木東遺跡(北区)の5遺跡で、近世新潟城跡推定地(中央区)では3地点が追加登録された。亀田道下遺跡・繁ノ木原遺跡・天ヶ沢上谷内遺跡・浦木東遺跡は公共事業に係る試掘調査、上郷北遺跡は民間開発事業に係る試掘調査で発見された。

### (3) 工事立会

**概要** 工事立会は、遺跡の範囲内で行われる各種土木工事等に対し、原則として事前の試掘・確認調査で遺跡の内容を十分把握したうえで、「歴史文化財の保護と発掘調査の円滑化について(通知)」(平成10年9月29日付府令第75号 各都道府県教育委員会教育長規定制序長通知)及び「発掘調査の要否等の判断基準」(平成11

年9月10日付文教第578号)に従って実施している。具体的には、

・土木工事等により、明らかに遺跡の一部が破壊されるが、掘削範囲がきわめて狭小(「発掘調査の要否等の判断基準」により原則として掘削幅1m以下)であるため、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が困難であるもの。

・掘削が遺物包含層に及ばず、保護層も確保できる見込みであるが、施工が設計通りであるか立会によって確認する必要が認められる場合、等である。

工事立会にあたっては、「法」第93条の届出・同第94条の通知に対する取扱い指示文を返送する際に、工事日程が決定次第連絡でもらい、事業者の工程に従って新潟市の埋蔵文化財担当専門職員が現地に訪れている。

ただし、直前の連絡だけでは工事日程との調整が難しかったために、特に長期間にわたる大規模な工事の場合、事業者の協力を得て、あらかじめ施工者代理人をえた打合せを密縮に行なうようしている。これにより、工事立会による工程の一部変更等、施工者側が対応できることが多くなっている。

工事立会により遺物や遺構が発見された場合は、その場で記録を取り、出土遺物や記録類は、試掘・確認調査に準じた取扱いをしている。ただし、遺跡によっては相当量の遺物が出土することがあり、多量の遺物の注記を外部に委託することがある。一定期間遺物が外部にあることで、遺物の確認等を早期に効率的に行えないこともありますので、市職員で整理できるような体制を目指していく必要がある。貴重な遺跡の情報としての工事立会結果を十分に生かすため、現状では重要と判断したものは「年報」で報告している。

また、大規模開発や圃場整備等に関わる長期間の工事立会では、限られた人數の市職員での対応に困難な場合があり、人員の体制等今後検討していく必要がある。さらに、民間事業者に対して工事立会指示が出ているにもかかわらず、施工業者との連絡不足から掘削日の連絡がないまま工事を行い、事業者へ注意を行った事案も発生していることから、事業者への注意喚起の徹底についても課題が出てきた。

**平成27年度** 表5の通り35件の工事立会を行った。平成26年度の51件から約69%の大軒な減少である。秋葉区での圃場整備関係が対象面積も大規模で長期間に及んでいる。個人住宅関係等の建物の案件が多い。

事前査査に係る主要な試掘・確認調査の概要を次節に示した。

(朝岡政康)

## 2 平成27年度の事前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会の概要

### (1) 山ノ家遺跡 第6次調査(2015105)

所 在 地 新潟市江南区駒込一丁目185番1

調査の原因 個人住宅建設(民間事業)

調査期間 平成27年5月8日(1日間)

調査面積 12.88m<sup>2</sup>(敷地面積251.47m<sup>2</sup>)

調査担当 朝岡政

処 置 債重工事

調査に至る経緯 周知の遺跡内で個人住宅建設(建築面積96.06m<sup>2</sup>)の届出がされた(平成27年4月9日付)。基礎工事内容は布基礎部分を幅50~60cm、深度45cmで掘削するほか、柱状改良(直径60cm、長さ23~31m)を44か所で行う計画であった。協議により、既存基礎を除却後に取扱いを判断するための確認調査(第6次・2015105)を実施した(新規B第4号5、図1)。

調査の結果、遺物包含層が確認されたが、布基礎工事に伴う掘削が小規模で盛土内でとどまるため遺跡への影響は軽微であると判断し、債務工事の取扱いとされた。

位置と環境 いわゆる亀田砂丘前列(1~1列あるいは1~2列)の南側に舌状に張り出した場所に位置する。南には農道を挟んで水田が広がっており、周辺の標高は約2.2mを測る。遺物包含層は砂丘上は砂取りや宅地化で残っていないが、竹林や砂丘間低地、砂丘南側縁辺には遺存しているものと考えられる。

本遺跡では、主要地方道新潟港横越線の拡幅工事に伴う確認調査(1989109~1997130)と本發掘調査(1992006)[川上1993]、今回の計画地前面の砂丘南側縁辺を通る農道拡幅工事に伴う確認調査(2000117)等が行われております。繩文時代前期・中期、弥生時代中期、奈良・平安時代の遺物が出土している。

亀田砂丘前列上には弥生時代前期から中期後葉にかけての遺跡が多数分布するが、後期になると殆どの遺跡が廢絶されることを特筆される(図2・表1)。

**概要と層序** 2か所のトレンチを設定した(図3)。基本層序は、I層: 黒色~黒褐色砂層(盛土)、II層: 灰黄色シルト層、III層: 暗灰色砂層(遺物包含層)、IVa層: 黄色~灰色砂層、IVb層: 灰~灰白色砂層である(図3)。1TではII・III層が検出されなかった。

2Tで検出されたII層はシルト層で水性堆積層。III層の遺物包含層は、1Tでは削平され遺存していなかったが、2Tでは表土より約16mの深度から層厚約40cmで確認された。IV層は砂丘基盤層である。

2Tでは盛土が厚く堆積しており、旧地形は1Tから



図1 開発位置図(1/10,000)



2T西壁土層堆積状況(東から)

2Tに向かって急激に傾斜していたものと考えられる。当該地は砂丘南側斜面の縁辺にあたり、III層遺物包含層は南側の水田面にかけて急激に下がっているものと推測される。なお、1Tと2Tの間は6m程離れており、その間にても遺物包含層が存在した可能性があるが、工事立会を行っていないために不明である。

**検出遺構** 遺構は検出されていない。

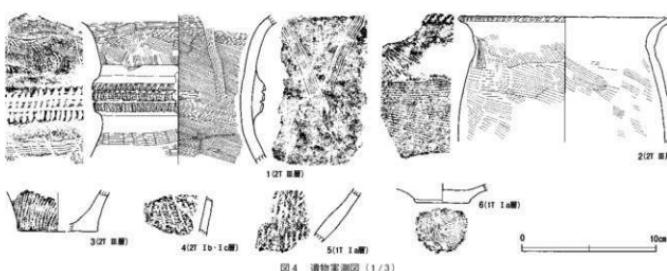
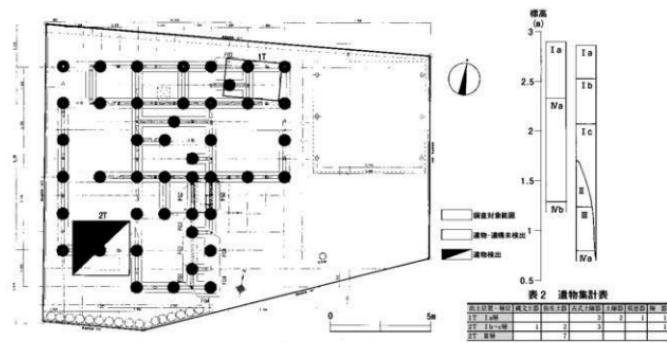
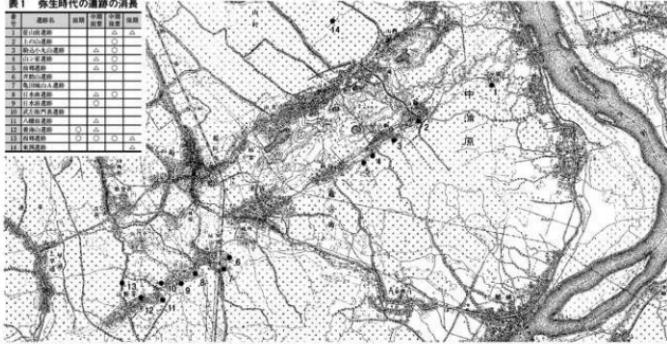
**出土遺物** 出土遺物の内訳は表2の通り。1~3は2T III層から出土した弥生土器で、中期後葉の小仏式(図4)。1は壺部、幅3cm程の粘土帯に2条の平行沈線を引き、その後にハケメ刻みを加える。その下には廉状文を2段以上入れる。2・3は甕、内外面ハケメ調整、口縁端部にはハケメ刻みを入れる。4は附加条2種の原体を施すする縹文土器。器壁が薄く後期か。5は土師器鍋。6は17世紀後半から18世紀前半頃の肥前陶器Ⅲ。

**まとめ** 亀田砂丘上の遺跡から弥生時代の遺物包含層が確認された意義は大きい。他の遺跡よりも砂丘縁辺から周辺の水田面に埋没した砂丘上には遺跡が遺存している可能性が高いと考えられる。今後、未周知範囲の遺跡取扱いに注意する必要がある。

(渡邊朋和)

表1 発生時代の道路の消長

番号	地名	時期	現状
1	大字御所	古墳	○△
2	大字御所	古墳	△○
3	大字御所	古墳	△○
4	大字御所	古墳	△○
5	大字御所	古墳	△○
6	大字御所	古墳	△○
7	大字御所	古墳	△○
8	大字御所	古墳	△○
9	大字御所	古墳	△○
10	大字御所	古墳	△○
11	大字御所	古墳	△○
12	大字御所	古墳	△○
13	大字御所	古墳	△○
14	大字御所	古墳	△○



## (2) 森田遺跡 第6次調査(2015.12)

所在地 新潟市秋葉区朝日字森田190番1 外  
調査の原因 共同住宅建設(民間事業)  
調査期間 平成27年6月3日(1日間)  
調査面積 18.28m<sup>2</sup>(調査対象面積985m<sup>2</sup>)  
調査担当 朝岡政府  
処置 墓石

調査に至る経緯 共同住宅建設に伴う「法」第93条の届出が提出された(平成27年5月15日付)。基礎工事内容は、布基礎部分を幅15cm、深度50cmで掘削し、計画建物内に柱状改良(ビュアバイ工法)を139か所(直径20cm、長さ6.5~8.8m)行う計画である。取扱いを決めるため、同年6月1日付で着手報告を提出し(新歴B第47号の3)、確認調査(第6次・2015.12)を実施した(図1)。

位置と環境 森田遺跡は新津丘陵西側の麓の旧金津川等によって形成された扇状地に立地する。調査地は遺跡範囲の南東端に位置する。現地標高は9.3m前後である。現況は住宅地となっている。これまでの調査で、弥生・古墳時代及び古代の土器等が確認されている。

周辺は舟戸遺跡や塙辛遺跡等の同時代の遺跡が同じ扇状地上に集中しており、近隣の新津丘陵上にある古津八幡山遺跡や古津八幡山古墳との関係が注目されている。

**概要と層序** レンチを3か所設定した(図2)。基本層序は、I層:盛土、IIa~c層:旧表土及び日本水田土、III層:暗灰色砂混シルト(遺物包含層)、IVa層:灰白色シルト(遺物確認面)、IVb層:緑灰色砂質シルト、IVc層:灰黄色粘土、V層:オリーブ色粘土、VI層:にぶい黄色~青灰色粘土、VII層:灰色砂(川砂)である(図3)。

検出遺構 T2 IVa層上面より小土坑1基を検出した。また、1T IVa層とV層の間から自然流路と考えられる堆積を検出している。

**出土遺物** III及びIV層より破片数で42点出土した。内訳は土師器28点、須恵器6点、青磁1点、中世陶器1点、近世陶磁器2点(混ざりこみ)、近代の磁器1点(混ざりこみ)、石3点である。うち4点を陶化した(図4)。1は土師器無台椀の底部破片資料である。2は須恵器無台杯の底部破片資料である。3は須恵器の体部破片資料である。外間に平行タキメ、内面に平行当て具痕がある。4は青磁碗の体部下半破片資料である。比較的の色調が薄い。1~3は平安時代、4は中世と考えられる。

まとめ 古代から中世の遺物包含層及び遺構確認面の残存が確認された。調査の結果、遺跡の範囲が拡大した。取扱いは布基礎工事による遺跡への影響がほんなく、柱状改良による掘削は小規模にとどまるため慎重工事としたが、今後は検討の余地がある。(金田拓也)

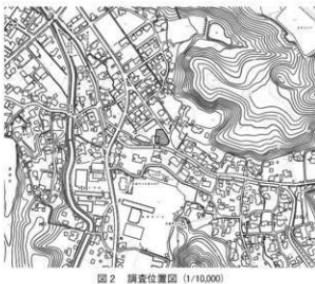


図2 調査位置図(1/10,000)

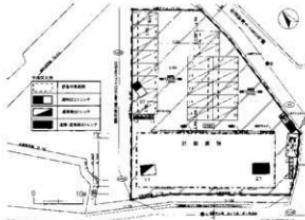


図2 レンチ位置図(1/800)



図3 土層柱状図(1/40)

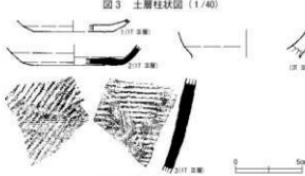


図4 遺物実測図(1/3)

## (3) 上郷北遺跡 第1次調査(2015143)

所在地 新潟市江南区横越中央五丁目3443番1  
外  
調査の原因 宅地造成(民間事業)  
調柀期間 平成27年7月23日・9月29日(2日間)  
調柀面積 43.58m<sup>2</sup>(調査対象面積1,297.46m<sup>2</sup>)  
調柀担当 朝岡政府  
処置 工事立会

調柀に至る経緯 平成27年5月に歴史文化課に宅地造成(区域内に幅員6mの道路を設け、8区画の分譲地を造成)に伴う協議があり、平成27年7月16日付新歴B第51号の5で報告して試掘調柀(第1次:2015143)を実施した。

位置と環境 阿賀野川左岸から約100m離れた自然堤防上に立地する。現況は宅地で、標高は5.3m前後である。遺跡付近には、北東側500mに下郷南遺跡(相澤2015)、南西側800mには上郷遺跡(上野・春日1997)等、古代から中世の遺跡が存在する。

概要と層序 7月23日に建物等の障害物を避けて設定可能な3か所、住宅撤去後の9月29日に新たに3か所のトレンチを設定した(図2)。基本層序は、I層:灰褐色砂シルト(表土)、II層:褐灰色シルト、IIIa~c層:にぶい黄色~黄褐色~灰褐色シルト、IVa~c層:にぶい橙色~灰褐色~青灰色シルト~砂質シルト、Va~d層:黒褐色~青灰色~灰褐色シルト~粘土(Va層:遺物包含層)、VI層が緑灰色~黄灰色混泥シルトである(図3)。3T~5Tでは、Va~c層が単層となり、3T・5Tにおいて遺物が出土した。

検出遺構 遺構は検出されなかった。

出土遺物 土師器食器具・煮炊具、黑色土器食器具が、3Tで11点、5Tで6点、合計17点出土している。3点を国化した(図4)。1・2は3Tで出土した土師器無台碗である。1は口径11.8cm、焼成堅微で、2は底径4.6cm、焼成軟質で胎土に赤色粒子を多く含む。底部に糸切り痕が残る。3は5T出土の裏面が黒色処理された無台碗で、底径4.8cm、底部に糸切り痕が残る。丁寧な調整が施され、焼成堅微である。この他、縦位のハケメ調整が施された土師器煮炊器具部片も出土しており、ややさかのはるものとを含む可能性があるが、1~3の形態から9世紀代を主体とする資料と判断した。4TのⅢ層では、18世

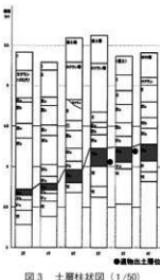


図3 土壠柱状図(1/50)



図1 調査位置図(1/10,000)

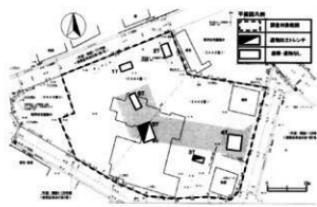


図2 トレンチ位置図(1/1,000)



5T北壁土壠堆積状況(南から)

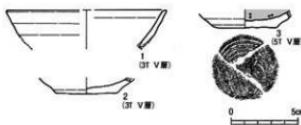


図4 遺物実測図(1/3)

紀後半以降の磁器も出土している。

ま と め 調査地の一部で遺物が発見され、遺物包含層の残存が確認されたことから、「上郷北遺跡」として周知化した。今回の調査地は、遺物の出土量が少なく、遺構が検出されなかったこと、包含層の埋没深度が深いこと等から、追跡北側線辺にあたるとの所見がなされている。取扱いは、道路への影響が軽微であることや道路が私道であることから工事立会とした。(遠藤恭雄)

## (4) 牡丹山諏訪神社古墳 第3次調査 (2015.15)

所在地 新潟市東区牡丹山三丁目39番外

調査の原因 共同住宅建設（民間事業）

調査期間 平成27年9月16日～18日（3日間）

調査面積 33.44m<sup>2</sup>（調査対象面積993.22m<sup>2</sup>）

調査担当 朝岡政康

処置 繼続協議

**調査に至る経緯** 平成27年8月に不動産会社から歴史文化課に共同住宅の建設計画に伴う照会があった。計画地は平成26年度の新潟市大橋本博文教授を中心とする「牡丹山諏訪神社古墳発掘調査」による試掘（学術調査（第1次・2014.9.6）によって古墳であることが確定した牡丹山諏訪神社古墳の周知範囲に一部含まれていたことから、歴史文化課と新潟県教育委員会及び橋本教授など関係者間で調整を行い、平成27年9月11日付新歴B第11号の2で報告をして確認調査を実施した（図1）。

**位置と環境** 信濃川と阿賀野川に挟まれた新砂丘Ⅱ-4の北側に位置する。現在の海岸線からは約3km内陸に位置し、調査地の現標高は約0.0～0.7mを計る。現況は畑地及び公園であるが、以前は水田としても一部利用されていた。なお、調査範囲の南側には住宅が建っていた。同じ砂丘列上の西側約700mには、古墳時代から中世の遺物や遺構が確認されている山木戸道路が存在する。

**概要と層構成** 2か所のトレーナー（1T・2T）を設定した（図2）。このうち1Tで古墳の周濠が確認された。なお、1T東端は深掘りを行っている。

基本層序は、Ia・b層：暗褐色砂～灰色シルト（表土、畑・水田耕作土）、IIa～d層：黄灰色砂～オリーブ黒色シルト～灰色砂～黄灰色シルト（人為層）、III層：暗灰黄色砂（自然堆積層）、IV層：灰色砂（自然堆積層・古墳時代の墓壙層）である（図3）。なお、ボーリング3・ボーリング4地点でのボーリング調査では、IV層下端以下1mはIV層が認められることから、IV層が砂丘基盤層と推定される。周濠覆土は1～5層に細分した。

公園区域に該当する1Tでは、基本層序の上に鉄筋コンクリートなどの産業廃棄物からなる造成盛土（図3の造成土1・2）が約1.2mの厚さで存在し、さらにその上は公園整備時の盛土（図3の盛土1・2）が認められた。

**検出遺構** 1Tで古墳の周濠が確認された（図3）。1Tの東端と西端でIV層が検出されており、西端のIV層の方が東端で検出されたIV層よりも標高が約0.5m高いことから、西端のIV層の立ち上がりが、周濠外側の立ち上がりにあたる可能性が推測される。2Tでは遺構は確認されなかった。なお、調査中に橋本教授から現地を確認して頂いた。



図1 調査位置図 (1/10,000)



1T近景 (南西から)



1T北壁土層堆積状況 (南西から)



1T西端北壁土層堆積状況 (南から)

**出土遺物** 1T 東側において、周濠覆土である1層から円筒埴輪1点（図4）と骨片1点が出土した。円筒埴輪は基部の破片で、内面下端は捕まれて突出している。外面の調整はタテハケで、下端はヨコナデによりタテハケが消えている。内面調整はヨコハケである。底部はナデ調整で、粘土様の接合痕を残す。胎土には径1mm程の石英、長石、角閃石、雲母の他、径1~3mm程の赤色粒子、砂礫を含む。これらの特徴から、これまでに牡丹山源訪神社古墳において採集、出土している円筒埴輪と同種のものと考えられる。骨片は長軸長約4.5cm、短軸長約1.5cmである。分析等はしておらず詳細は不明である。

**まとめ** 1Tで周濠が確認され、牡丹山源訪神社古墳の墳形や墳丘規模を推定するデータが得られた。

なお、本確認調査に並行して実施された牡丹山源訪神社古墳発掘調査団による確認（学術）調査（第2次・2015年6月、平成27年9月12日～23日）では、3トレンチの南西側に設定した拡張区において周濠外側の立ち上がりが確認されている〔橋本・平形ほか2016〕。1T西側で確認された周濠外側の可能性のある立ち上がりの位置は、第2次調査の成果と矛盾しない（図2）。

取扱いについては継続協議とした。その後、計画地は別の不動産会社に転売され、計画範囲を花壇西側に縮小する形で再度共同住宅の建築計画が提示された。これを受け、平成28年度に追加の確認調査（第4次・2016年4月）

を実施した。最終的に遺構・遺物が確認された計画地東側は駐輪場・駐車場の計画となり、工事の影響が表層部分に限定されることから慎重工事とし、建物部分の計画地西側については、工事立会となった。（相田泰臣）



2 T近景（北西から）



2 T北西土壠堆積状況（南西から）

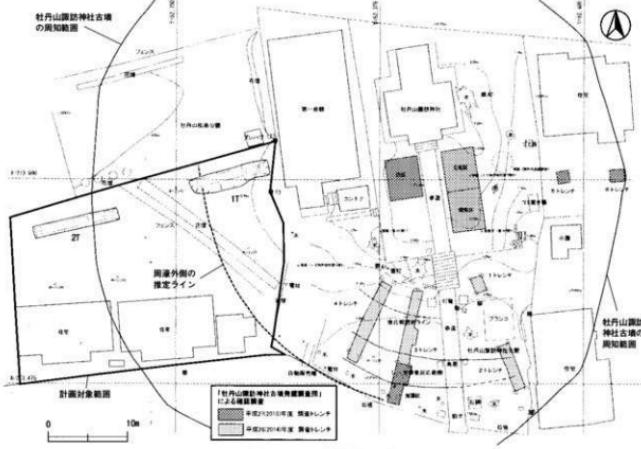
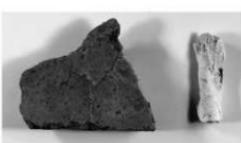
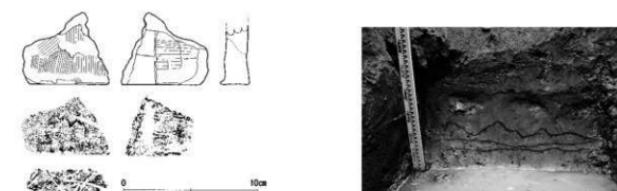
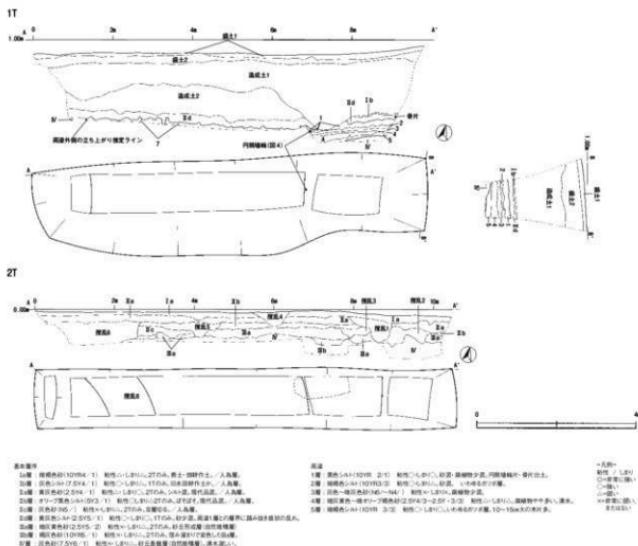


図2 トレンチ位置図(1/500)



(5) しげのきはら  
繁ノ木原遺跡 第1次調査 (2015161)

所在地 新潟市西蒲区打越字繁ノ木原甲179番  
 調査の原因 打越地区県営圃場整備事業（公共事業）  
 調査期間 平成27年10月26日～11月12日（11日間）  
 調査面積 約416m<sup>2</sup>（調査対象面積1920,000m<sup>2</sup>）  
 調査担当 朝岡政府  
 処置 繼続協議

調査に至る経緯 県営圃場整備事業（打越地区）に伴い、平成27年9月24日付で新潟県地域振興局より埋蔵文化財の調査依頼書が提出された。対象地区が192haと広大なことから、事業の進捗を考慮して今年度の試掘調査エリアを地区東側の一部に設定した。着手報告を10月22日付で提出し、埋蔵文化財の有無を調べるために試掘調査に着手した（第1次・2015161、図1）。

**位置と環境** 調査地は、中ノ川左岸の打越集落が所在する自然堤防の東側である。昭和30年代後半に耕地整理が行われており、現地標高は1.6～33mを測る。この自然堤防上には打越館跡や宇智古志神社遺跡など中世の遺跡が所在するが、今回の調査対象地に周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていない。

**概要と層序** 67か所のトレンチを設定した（図2）。基本層序は、I層：耕作土・床土、II層：黄～灰黃褐色粘質シルト（砂質強・ラミナ状堆積）、IIb層：黄灰～綠灰色シルト、III層：灰色砂と灰黃褐色シルト混層（ラミナ状堆積）、IV層：灰～青灰色砂（粗砂・川砂）、V層：暗灰黄色シルト、VI層：黒色シルト（腐植質土層、いわゆるガツギ層）、VII層：褐灰色シルトである（図3）。I層以下の層序は様々でトレンチ毎に一様ではなく、各層は水平方向のラミナ状堆積が明瞭であった。深度約2.0mを目途に調査を行った。

**検出遺構** 遺構は検出されなかった。

**出土遺物** 38Tで地表面下約45cmのIIb層から珠洲焼が1点出土し固化した（図4）。甕の体部だが、小片のため詳細は不明瞭である。割れ口はいずれも新しい。

**まとめ** 調査結果を受け、「繁ノ木原遺跡」として新しく周知化された。調査地一帯は、腐植質土層の堆積やラミナ状堆積が明瞭な点から、氾濫原のような環境下で、洪水等の規模の大きな水流により堆積が進んだ場所と考える。今後、今回の結果を踏まえて示される圃場整備の具体的な計画を基に、遺跡に係る土木工事について引き継ぎ協議を行うこととした。

（龍田優子）



図4 遺物実測図 (1/3)

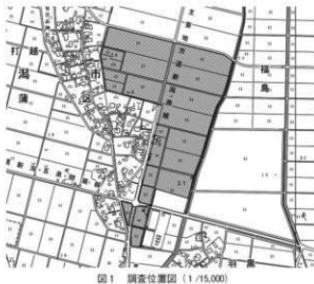


図1 調査位置図 (1/15,000)



図2 トレンチ位置図 (1/1,000)

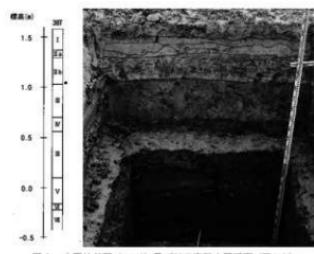


図3 土層柱状図 (1/40) 及び38T未壁土層断面 (西から)

## (6) 三王山遺跡 第17次調査(2015232)

所在地 新潟市江南区所島一丁目800番8

調査の原因 土地売却(民間事業)

調査期間 平成28年2月8・9日(2日間)

調査面積 9.0m<sup>2</sup>(調査対象面積264.62m<sup>2</sup>)

調査担当 謙山えりか

処置 繼続協議

調査に至る経緯 三王山遺跡は昭和48年に分布調査によって発見された遺跡である。これまでに3度の本発掘調査が行われている。

土地売買に伴い埋蔵文化財の状況を確認するため、発掘調査が依頼された(平成28年1月18付)。そのため、1月15日付で着手報告を提出し(新歴B第208号の3)、確認調査(第17次・2015232)を実施した(図1)。

位置と環境 三王山遺跡は亀田砂丘(新砂丘1・1列)の南側斜面及び根部に立地する。遺跡の中央東寄りをJR信越本線が南北に貫く。遺跡面積の5割強を市立亀田中学校が占めている。調査地は遺跡範囲の南東端に位置する。現地標高は27m前後、現況は宅地である。

これまでの本発掘調査は、線路東側の宅地造成に伴う調査(第1次・1979004)と線路西側の市立亀田中学校改築に伴う調査(第4次・2007010、第7次・2008004)が行われている。出土遺物は中学校側では古代が主体、線路以東の宅地では中世が主体となる。

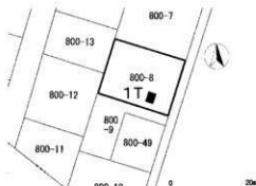


図2 トレンチ位置図(1/1,000)

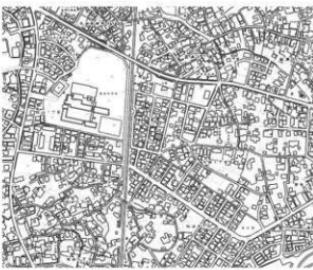


図1 開発位置図(1/10,000)

**概要と層序** トレンチを1か所設定した(図2)。基層はIa・b層: 盛土(耕作土作成土)、II層: 暗褐色シルト質粘土、III層: 灰色粘質シルト(遺物包含層)、IV層: 灰褐色粘質シルト(遺構確認面)である(図3)。

**検出遺構** IV層より直徑20cmと直徑30cmの小土坑2基を検出した。

**出土遺物** III層より須恵器の体部破片1点が出土した(図4)。外面は平行縞文のタタキメで木目が彫り込みに対し直行する。内面は同心円文のあて具模で木目が見られない。胎土は精良で焼成は堅緻である。

**まとめ** 平安時代の遺物包含層及び遺構確認面が良好に残っていることが確認されたため、土地売却後の開発には再度協議が必要である。  
(相澤裕子)

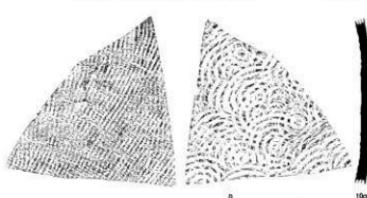


図4 遺物実測図(1/3)

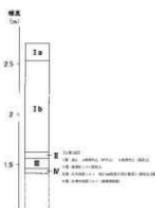
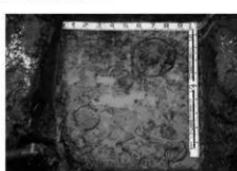


図3 土壠柱図(1/40)



1T南壁土壠堆積状況(北から)



1T遺構横断状況(北から)

(7) 近世新潟町跡第23・24・27次調査 (2015116・2015140・2015148・2015240)

A 近世新潟町跡の周知化と取扱い

新潟町は日本海有数の湊町である。17世紀半ばに現在の信濃川左岸の河口付近へ移転し、その後拡大しながら現在に至るが、その移転当初の町を「近世新潟町跡」としている。

現在、近世新潟町跡の周知化は、試掘調査によって江戸時代の土層が確認された地点について行っている。平成27年度末で周知化された地点は18か所である。

B 平成27年度の試掘・確認調査

平成27年度に実施された試掘・確認調査は、公共事業に伴うものが2件、民間事業に伴うものが3件である。このうち、江戸時代の遺物包含層が確認され周知化を行ったのは3件である。

(a) 古町通6番町昭和新道地点試掘調査

第23次調査 (2015116) (図2-4・8)

所在地 新潟市中央区古町通六番町外

調査の原因 下水道敷設（公共事業）

調査期間 平成27年7月27日～30日（4日間）

調査面積 5.28m<sup>2</sup>（調査対象面積705.37m<sup>2</sup>）

調査担当 謙山えりか

処置 工事立会

**調査概要** 下水道敷設に伴い、幅11m、延長192.2m、最大掘削深さ1.8mでの掘削が行われることとなった。そこで、推定地内の状況を確認するために試掘調査（第23次・2015116）を行った。調査地は現況が道路である。しかし、江戸時代の町建当時は地割されており、その後昭和14年頃に道路となつた。このため通称「昭和新道」と呼ばれている。調査では道路上にトレレンチを2か所設定した（図2）。狹小地の為、四方で板で開いた調査を行つた。既ね地表下0.8～1.0mまでは、近代以降の層で、その下に江戸時代の遺跡が確認された（図3・4）。1Tでは地表下1.8mで土留めと見られる板材と杭が確認された。この土留めの東側が屋敷地であると考えられる。板の上部からは18世紀後半の陶磁器が見つからつた。2Tでは地表下0.8mのところで、木枠状の構造及び東西に仕切るように設置された板材が見つかった。遺物は、18世紀から19世紀のものが多く一部を図化した（図8）。產地不明の鉄軸の灰落とし（1）や肥前磁器の段重（2）、戸車（3）、仏壇器（4）が出土している。また石製品として鏡（28）が出土している。この鏡は両面共に使用されており「又市」の刻字が見られる。使用者の名であろう。

当該地は18世紀代江戸期の遺物包含層が残っていることが確認されたことから、近世新潟町跡の範囲として周



図1 調査位置図 (1/15,000)

知化された。調査結果により、工事の内容を開削工法から推進工法へと変更し平成29年度に着工することとなつた。着工時には工事立会で対応する。

(b) 古町通6番町978-1地点試掘調査・工事立会

第24次調査 (2015140・2015148) (図5・8・9)

所在地 新潟市中央区古町通六番町978番1

調査の原因 店舗建設（民間事業）

調査期間 平成27年7月16日（2015140）

8月24日～10月1日（工事立会・2014148）

調査面積 21m<sup>2</sup>（調査対象面積400m<sup>2</sup>）

調査担当 謙山えりか

処置 工事立会

**調査概要** 店舗（ビル）建設計画に先立ち、推定地内の状況を確認するための試掘調査（第24次・2015140）を行つた。調査地内にトレレンチを2か所設定して（図5）、試掘を行つた所、既ね地表下1.5mの層から17世紀末から18世紀の遺物が出土した。このため、当該地を近世新潟町跡の範囲として周知化した。工事はビル（約100m<sup>2</sup>）建設範囲に鋼管杭（直径40cm、長さ18m）を30本打ち、地中梁（最大幅50cm）を伏せる内容であり、遺跡への影響が少ないと判断されたため、工事立会とした（2014148）。そして、8月24日から10月1日にかけて工事立会を行つた。この工事立会において、コンテナ30箱程度の近世陶磁器等が出土した。図示した遺物は全てこの工事立会時に出土したものである（図8・9）。陶器と石製品、木製品、金属製品が出土している。特筆すべき遺物としては、肥前の有田で生産された鶴形の水滴（14）がある。色々の製品で上手と言える。木製品では円形底板（25）、板状木製品（26）がある。どちらも墨書きで文字が書かれているが、断片的で判読できない。金属製品では青銅の手鏡（28）が出土した。柄が欠損しているが、残存状態も良好で模様がはっきりと残る。鏡の「藤原金次」は江戸

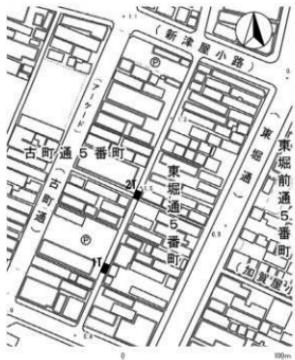
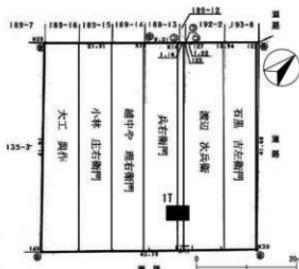


図2 第23次調査トレンチ位置図 (1/2,500)



地番号、人名は『新宿市史』資料編 2(小野・中村、1990)記載  
「明治 2 年地子帳(年上)」より引用

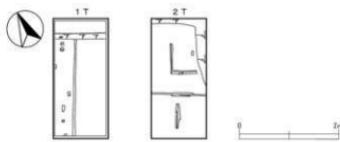


図3 第23次調査トレンチ平面図(1/80)

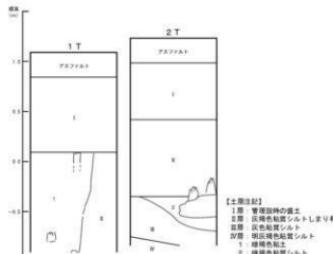


圖4 第23次調查土壤樣本圖 (1/40)

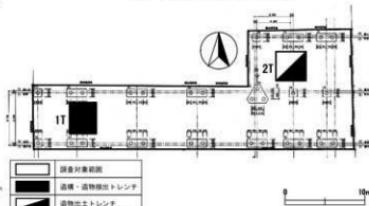


図5 第24次調査トレンチ位置図(1/500)

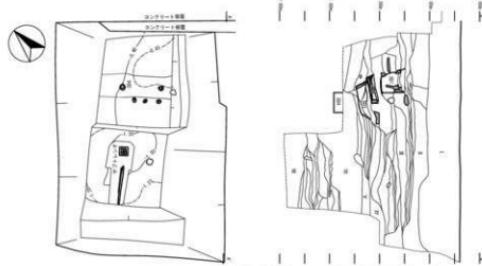


図7 第27次調査 トレンチ平面図・断面図 (1/80)



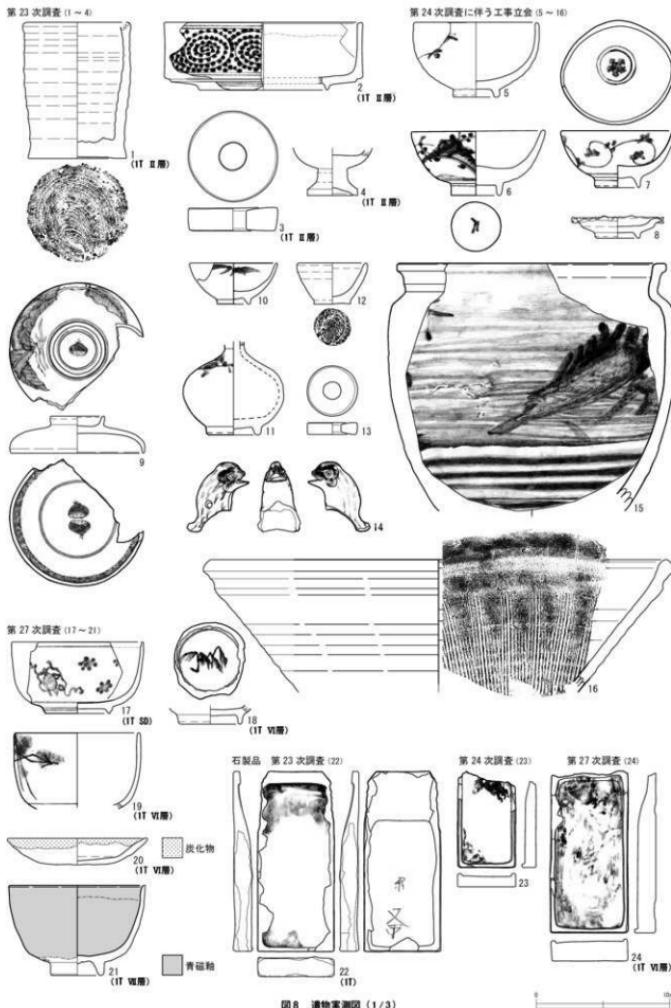
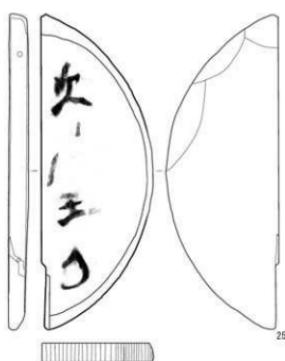
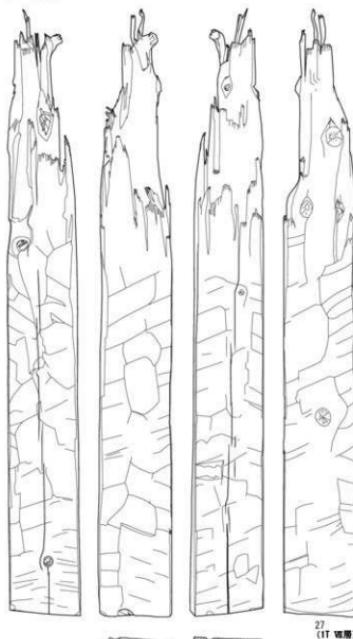


図8 遺物実測図 (1/3)

木製品 第24次調査に伴う工事立会(25・26)



第27次調査(27)



II

開発事業部

金属製品 第24次調査に伴う工事立会(28), 第27次調査(29・30)

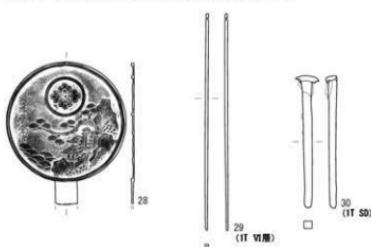
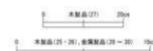


図9 遺物実測図(1/3・1/10)



時代後期の築跡である。

(c) 上大川通 2番町135番地 1地点試掘調査

第27次調査 (2015240) (図6～9)

所 在 地 新潟市中央区上大川前通二番町135番1

調査の原因 市有地売却 (公共事業)

調査期間 平成27年3月9～11日 (3日間)

調査面積 14.85m<sup>2</sup> (調査対象面積1824.74m<sup>2</sup>)

調査担当 謙山えりか

処 置 工事立会

調査概要 市有地の競売に伴い事前に試掘調査(第27次・2015240)を実施した。調査地は、江戸時代には信濃川の川岸に近く、明暦2(1656)年の新潟町地子帳による東一之町東側にあたり、東から石吉左衛門、渡辺次兵衛、間口一間の小路を挟んで兵右衛門、越中や理右衛門、小林庄右衛門、大工與作と間口四間の屋敷地が6軒あった。この小路のある場所にかかるようレンチを1ヶ所設定した(図6)。地表下1.5mまでは概ね近代の層であるが、その下には江戸時代の層が良好に残っていた(図7)。



第24次調査 1 T西壁土塁堆積状況 (東から)

特に小路と予測した部分には江戸時代から近代まで同じ場所に4回溝を作り替えた痕跡が認められた。近世新潟町の町割りが近代まで踏襲されている証左と言えよう。またこの溝の南側では18cm角(6寸)の柱が出土した(図9-27)。上部が欠損しており残存する長さは1.5mであった。柱の底部は地表下4m(標高-20m)にもなり、柱の底部付近からは1630～1640年代の青磁碗(図8-21)が出土しており、町建て当初からこの場所に人が居住していたことが窺われる。

遺構・遺物共に良好に残っていることから近世新潟町の範囲として周知化された。調査後は、建築解体時に工事立会をし、遺跡であることを前提に入札することになった。

なお一部の陶器器については大橋康二氏(佐賀県立九州陶磁文化館)、相羽重徳氏(依渡市世界遺産推進課)より御教示いただいた。遺物の产地・年代観に係る責任は全て筆者にある。

(今井さやか)



第27次調査 1 T溝検出状況 (北西から)

表1 土器・陶磁器観察表

番号	測量点	測量点名	層	層厚	地質	特徴	目視調査		目視調査・工具・検査	
							層厚	地質	目視調査	工具・検査
1	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
2	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
3	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
4	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
5	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
6	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
7	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
8	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
9	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
10	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
11	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
12	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
13	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
14	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
15	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
16	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
17	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
18	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
19	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
20	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
21	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
22	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
23	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
24	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
25	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
26	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
27	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
28	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
29	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
30	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
31	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
32	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
33	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
34	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
35	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
36	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
37	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
38	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
39	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
40	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
41	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
42	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
43	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
44	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
45	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
46	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
47	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
48	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
49	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
50	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
51	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
52	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
53	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
54	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
55	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
56	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
57	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
58	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
59	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
60	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
61	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
62	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
63	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
64	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
65	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
66	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
67	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
68	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
69	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
70	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
71	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
72	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
73	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
74	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
75	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
76	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
77	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
78	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
79	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
80	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
81	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
82	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
83	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
84	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
85	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
86	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
87	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
88	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
89	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
90	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
91	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
92	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
93	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
94	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
95	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
96	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
97	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
98	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
99	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
100	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
101	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
102	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
103	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
104	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
105	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
106	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
107	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
108	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
109	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
110	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
111	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
112	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
113	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
114	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
115	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
116	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
117	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
118	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
119	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
120	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
121	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
122	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
123	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
124	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.5	柱	柱
125	220	1T	土	0.5	粘土	灰白色	0.5	0.		

### III 文化財センターの事業

## 1 本発掘調査の概要

### (1) 本発掘調査について

試掘・確認調査で埋蔵文化財が確認され、その埋蔵文化財が土木工事等により破壊される等、現状保存が不可能な場合、記録による保存を目的とした本発掘調査を実施する。本発掘調査は報告書の刊行をもって完了とする。

新潟市では、「法」第94条に係るものについては、文化庁の示した標準（「歴史文化財の保護と発掘調査の実施基準について（通知）（平成10年9月29日付文保第75号）各都道府県教育委員会教育長規制令長次長通知）及びそれを受けて細目を設定した新潟県教育委員会の基準（「歴史文化財の調査等の判断基準」（平成11年9月10日付教文第578号））に即して取り扱いに関する意見を付して副申している。一方、「法」第93条に係るものについては、新潟市が定めた「新潟市埋蔵文化財事務取扱要綱」（平成19年4月1日施行）に則して判断している。

試掘・確認調査で遺跡の内容を十分に把握した後、本发掘調査が必要な場合でも最小限の規模を目指して開発事業者等と遺跡の取扱いについて協議している。しかし民間の宅地開発事業における道路部分（私道は含まれない）や、公共事業でも道路や大規模な圃場整備等では開発事業内容を変更し遺跡の現状保存を図ることが困難であり、本发掘調査を実施する場合が多い。

本发掘調査実施は、「法」第99条により、新潟市教育委員会が直轄の体制で対応している。新潟市では、歴史文化課が教育委員会事務を補助執行をしており、歴史文化課が本发掘調査に係る全体協議会、文化財セミナー等が本发掘調査を担当している。しかし、調査の件数・規模に対し、現体制では調査担当はもちろん、その下に入れる調査員となる市職員も人數が限られる。また、現場作業と並行して整理・報告書作成も進める必要があるため、安定的に本发掘調査を行える、定めたようによく

ていかなければならぬ。解決手段の一つとして、民間調査組織の適切な導入と監理体制の構築が挙げられる。

## (2) 平成27年度の本発掘調査

表1に示した通り、3遺跡で本発掘調査を行った。

公共事業である圃場整備関係で2件、民間事業である宅地造成関係の1件である。

秋葉区両新地区柵場整備事業に係る細池寺道上遺跡の調査面積が約8,712.9m<sup>2</sup>で、西蒲区巻東町地区柵場整備事業に係る島灘瀬遺跡の調査面積が59.9m<sup>2</sup>、秋葉区古津の宅地造成に係る舟戸遺跡の調査面積が905.7m<sup>2</sup>（上層684.9m<sup>2</sup>、下層220.8m<sup>2</sup>）であった。（朝聞政府）

### (3) 平成27年度の本発掘調査現地説明会

平成27年度は舟戸遺跡と細池寺道上遺跡で現地説明会を開催した(表2)。いずれも100名を超える参加者があり、市民の現地説明会への関心の高さが窺える。なお、島灘瀬遺跡については面積が狭小のため現地説明会は行わなかった。

(今井さやか)

III 文化財センターの事業



現地説明会風景（細池寺道上道路第46次調査）

表2 平成27年度登録調査現地説明会参加者数

開催日	道跡名	参加者数(人)
2015/9/6 (日)	鬼戸道跡	101
2015/10/17 (土)	網走寺道上道跡	102

表1 平成37年度本發掘調査一覧（調査番号）

調査会員	道府県名	調査回数 (回)	調査面積 (ha)	調査地名	調査の範囲	調査担当者	発見 調査会員	発見の時期	主な遭難	主な特徴
2015001	鹿児島県	25	905.7 7,604.9 7.7	霧島市古川 宇津原町口山2丁目	荒地造成	田中裕也	-	7月~9月	落石、 土砂崩れ、 蛇行川、 急斜面等	上履き(登山靴)、手袋、上着、 下着、帽子、腰袋、 登山杖、登山用具等
2015002	福島県喜多方市	46	8712.9	喜多方市 宇多野町29番地	開拓整備	水元正義	白井哲也 (登山向日葵)、石川博一 (登山向日葵)、柳澤洋一 (登山向日葵)、 (登山向日葵)、山中和 (登山向日葵)	3/27~2/29 4月~6月 (雨季)	落石、 土砂崩れ、 蛇行川、 急斜面等	上履き(登山靴)、 手袋、帽子、 登山杖、登山用具等
2015003	鳥取県	5	509	因幡町高瀬 宍道町今里	開拓整備	高瀬雅之 (登山向日葵)	-	11/20~12/24	落石、 古河、 土堆、溝等	上履き(登山靴)、 手袋等

## 2 平成27年度の本発掘調査

平成27年度本発掘調査の概要を次項より記す。概要是、調査番号である。概要掲載道路の位置を図1、一覧を表3に、試掘・確認調査の概要掲載道路と併せて示す。

した。各項目は、調査名であり、末尾括弧内は調査番号である。

各項の図1「調査位置図」は、国土基本図(2500分の1)を基に作成しており、地図の上位が北である。

(金田拓也)

III  
文部省の事業

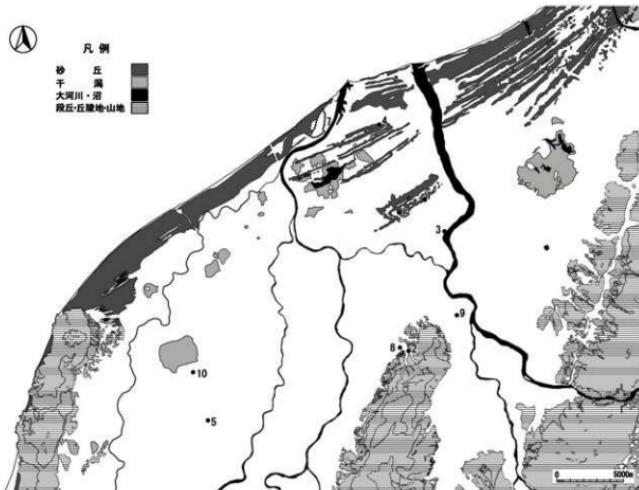


図1 平成27年度概要掲載発掘調査位置図(1/300,000)

表3 平成27年度概要掲載発掘調査一覧

平成27年度予算審査会に係る試掘・確認調査及び工事一覧

道路番号	道路名	調査回数(次)	調査番号	位置番号(測量)	開削段
362	山ノ家道路	6	2015105	1	7
218	森川道路	6	2015124	2	9
709	上郷北道路	1	2015143	3	10
767	井丹山御詠神社 古墳	4	2015137	4	11
771	船ノ木坂道路	1	2015161	5	14
419	三山川道路	17	2015202	6	15
575	云世新町道路	23 - 24 - 27	201516 - 201540 - 201541 - 201528	7	16

平成27年度本発掘調査

道路番号	道路名	調査回数(次)	調査番号	位置番号(測量)	開削段
132	寺戸道路	25	2015001	8	24
151	細池今道上・下道路	36	2015002	9	25
623	島瀬原道路	5	2015003	10	26



本発掘調査風景(舟戸道路第25次調査)

## (1) 舟戸遺跡 第25次調査 (2015.01)

所 在 地 新潟市秋葉区古津字北郷2157番2 外

調査の原因 宅地造成(民間事業)

調査期間 平成27年7月6日～9月19日

調査面積 905.7m<sup>2</sup>

調査担当 金田拓也

処 置 記録保存

**調査に至る経緯** 宅地造成工事に伴い、平成26年度に確認調査(第24次・2014.7)を実施した。その結果、遺跡の残存が確認されたため、工事に際しては遺跡範囲内の市道及び区画道路、擁壁基礎の範囲について本发掘調査が必要と判断された。そこで、事業者より『法』第93条の通知が提出され(平成27年4月30日付)、平成27年7月1日付新歴F第20号の8で着手報告を提出し、本发掘調査を実施した(図1)。

**位置と環境** 舟戸遺跡は新津丘陵西側の金津川によって形成された扇状地及び自然堤防、後背湿地に立地している。調査地は遺跡範囲の南端に位置し、現地標高は5m前後である。調査地は近世以降水田(一部畠)として利用され、工事予定地として取得した後は荒地だった。

これまでの調査で、弥生時代から近世まで各時代の遺構や遺物が重層的に確認され、特に弥生・古墳時代の遺構や遺物が豊富に認められる。また、舟戸遺跡が所在する扇状地には塙辛遺跡等の同時期の遺跡が複数近接して存在しており、近似した性格の遺跡と評価できる。さらに、舟戸遺跡には新潟県最大の古津八幡山古墳を築造した豪族が暮らしていたと考えられる。

**概要と層序** 基本層序は大きく13の層に分かれ、その中で弥生時代の上層(遺物包含層:Ⅲ・Ⅳ層、遺構確認面:Ⅹ層)と縄文時代の下層(遺物包含層:Ⅹ・Ⅺ層、遺構確認面:Ⅺ・Ⅻ層)が確認されている。

**検出遺構** 上層は土坑3基、性格不明遺構1基、小土坑36基が検出された。遺構の分布密度は薄く、集落の中心から外れていると考えられる。

下層は性格不明遺構3基、小土坑66基が検出された。上層同様に分布密度は薄く、集落の可能性は低い。むしろ近隣の丘陵上の集落に暮らす人々が活動した痕跡と考えられる。

**出土遺物** 上層は弥生土器138点(破片数)、石器・石製品1点、木製品1点が出土した。遺構からは木製品の杭だけが出土し、弥生土器と石器・石製品は遺物包含層からの出土である。弥生土器は中期後半から後期にかけての時期のものと考えられ、後期が主体である。

下層は縄文土器34点(破片数)、石器・石製品2点、木製品2点が出土した。全て遺物包含層からの出土であ



Kuroyama Pottery Site Excavation Status (Southwest side)

る。縄文土器は粗製の深鉢が2ないし3個体と考えられ、後期前半の可能性が高い。

**まとめ** 今回の発掘調査では舟戸遺跡で初めて縄文時代の遺物が確認された。また、弥生時代についてもこれまで希薄だった中期後半の土器が改めて確認でき、遺構・遺物とともに検出量や出土量は多くないが、舟戸遺跡を理解する上で重要な成果となった。

なお、第25次調査の報告書は、平成28年度に刊行した【金田・早川2017】。

(金田拓也)

## (2) ほせいげてらみちうえ 細池寺道上遺跡 第46次調査 (201502)

所 在 地 新潟市秋葉区東金沢字家浦90番外  
調査の原因 両新地区圃場整備事業(公共事業)  
調査期間 平成27年7月27日～平成28年2月29日  
調査面積 8712.88m<sup>2</sup>  
調査担当 立木宏明  
調査員 奈良佳子、  
細野高伯・石川博行・重留康宏・  
吉澤 学・北村和徳・松井 智  
(㈱シン技術コンサル)

処 置 記録保存

調査に至る経緯 新潟市地域振興局から平成27年6月11日付で本発掘調査の依頼文書が提出され、これを受け圃場整備工事により保険層(20cm)が確保できない範囲を対象とした調査を、平成27年7月27日付で報告し、本発掘調査を実施した(図1)。

位置と環境 細池寺道上遺跡は、新津丘陵の東側を流れる能代川と阿賀野川に挟まれた冲積地に立地する古代から近世の遺跡である。遺路の広がりは南北1.7km・東西1.2kmにおよぶ。現地表面標高は9～10mである。

これまでに複数回の調査が行われており、古代・中世の遺物やそれらと同時代と考えられる遺構が確認されている(前山2014ほか)。

検出遺構 掘立柱建物20棟、井戸4基、土坑80基、溝95条、道路状遺構3か所等に代表される計3,598の遺構が検出された。

古代の遺構としては土坑・溝・烟が確認された。土坑中からは土器類無台輪・長甕等がまとまって出土した。

中世の遺構としては掘立柱建物が3棟確認され、その他に井戸・土坑・溝・道路状遺構・烟等が確認された。道路状遺構は南北長さ100mにわたって検出され、道路両脇に側溝が掘られている。複数回の道路補修に伴う側溝付替え工事が行われており、最大道路幅は約7mである。

近世では古代・中世の遺構を切る形で、17世紀後半から18世紀前半の遺構が確認された。調査区南側から、北西側の薬研状遺構と北東側の道路状遺構に囲われた方形区画の中に1間×3間以上の両廻の大形建物を持つ屋敷地が確認された。

出土遺物 今回の本発掘調査では、コンテナ102箱を数え、古代では9世紀代の須恵器無台輪・大甕、土師器無台輪・其甕等が出土した。

中世では13～14世紀代の珠洲焼大甕・片口鉢・青磁碗が出土した。近世では16世紀後半から18世紀前半の肥前系の陶器が主に出土した。その他に鉄釘等の鉄製品



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区遠景 (北西から)



道路状遺構3703全景 (北東から)

や砥石・磨石等の石製品が出土した。

ま と め 平安時代から江戸時代を通じて集落・生産域であったと判断される。中世においては集落間を結ぶ重要な幹線道路とその周辺の集落と考えられる。

報告書は平成29年度以降に刊行予定である。

(立木宏明)

## (3) 島瀬瀬遺跡 第5次調査 (201503)

所在地 新潟市西蒲区巻東町字小寺潟

調査の原因 巷東町地区県営圃場整備事業

調査期間 平成27年11月20日～12月24日

調査面積 59.9m<sup>2</sup>

調査担当 遠藤恭雄

調査員 藤本博康(㈱吉田建設)

処置 記録保存

調査に至る経緯 島瀬瀬遺跡は昭和54年の分布調査を契機に古墳時代の遺跡として登録された。その後、平成22・23・26・27年度に県営圃場整備事業巻東町地区的計画に伴って試掘・確認調査が行われた。全部で363か所の試掘を行った結果、主に平安時代の遺構・遺物が出土した。この調査結果から、現在の巻東町集落から旧館潟方面に向かう南北約350m、東西約500mの範囲を遺跡としている。この遺跡内の用排水路新設工事を行う幅25m、延長225mの範囲で本発掘調査が必要と判断した。

圃場整備工事に先立って新潟県新潟地域振興局から平成27年9月11日付で本発掘調査の依頼文書が提出され、平成27年11月18日付で報告し、調査を実施した(図1)。

位置と環境 遺跡は、西川と中ノ口川に挟まれた低地の自然堤防上に立地している。角田山東麓から約7.5kmの距離にあり、調査地の北西約1kmには、昭和40年代初頭まで館潟が広がっていた。現在、潟は干拓されて水田になっており、現地の標高は約1.3mである。

**概要と層序** 基本層は3層に分けられる。Ⅰ層は農道盛土層及び旧水田耕作土層で、層厚30cmほどである。Ⅱ層黒褐色土は中央の一部のみに残存し、確認調査で遺物が出土している。Ⅲ層の灰オーリーブ色～灰色シルト層が基盤層で上面が遺構確認面である。

**検出構構** 溝2条、土坑4基が確認された。溝のうち1条と調査区中央部の高くなれた部分は、昭和30年代に圃場整備が行われるまで存在した水路と道路にあたる部分で、昭和25年に米軍が撮影した航空写真で状況が確認できる。調査区中央から南寄りのやや低い部分を中心で分布する4基の土坑は、いずれも浅い皿状に掘り込まれており、炭化物が多く含む。

**出土遺物** 非クロコ形の土師器壺のはか、杯や高杯が出土した。8世紀代を主体とすると考えられる。

**まとめ** 今回の調査区は狭くて、住居跡は未検出であるが、遺構・遺物に一定のまとまりを有することから、居住域の一部と考えられる。島瀬瀬遺跡周辺では、春日編年記～Ⅲ期(7世紀後葉～8世紀前葉)に遺跡数が増加することが指摘されており([春日2014]、近年、追認するように下新田遺跡(龍田・長澤ほか2015)等同期の調査



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区遺跡 (東から)



SK 4 遺物出土状況 (西から)



出土遺物

成果が示されている。島瀬瀬遺跡もこうした遺跡数増加の動きに連動した集落の様相を示す一例といえよう。

なお、第3次調査の報告書は、平成28年度に刊行した([遠藤・藤本ほか2016])。

### 3 整理作業の概要

平成27年度に文化財センターが実施した発掘調査等整理作業の一覧を調査番号順に表4に示した。整理作業のうち、主要なものについて以下に記述する。

#### (1) 試掘・確認調査、工事立会、本発掘調査の 再整理事業

平成27年度の試掘・確認調査、工事立会に伴う遺物について収蔵のための再整理を行い、コンテナ約40箱を収蔵した。

試掘・確認調査、工事立会は歴史文化課で実施し、出土遺物については文化財センターで水洗・注記・収蔵作業を行っている。

報告書刊行済みの調査資料については、接着剤や充填材の経年劣化により破損した資料の再接合等を適宜行っている。

平成24年度より実施している馬場屋敷遺跡等再整理では、前年度に引き続き下層出土の木製品実測図のトレース作業を進めた。また、馬場屋敷遺跡出土の陶磁器についてデジタルトレースを業者に委託した。(相澤裕子)

(2) 細池寺道上遺跡第29・31・32・38・41・44・  
46次調査の整理作業

**整理作業の概要** 細池寺道上遺跡は、県営圃場整備事業に伴い、平成19年度から毎年本発掘調査を行っている。南北1.8km、東西1.1kmに及ぶ広大な範囲内を継続して発掘調査することで、新津丘陵と阿賀野川に挟まれた沖積地における古代から中世の様相が明らかになってきている。

平成20年度調査分までは『細池寺道上遺跡Ⅱ』(潮田2014)『同Ⅲ』(立木・相澤(高野)ほか2014)として報告書を刊行済みである。平成21・22年度調査の報告は一冊に

まとめて刊行する計画で、平成27年度は金属性製品の実測図作成、及び外部（縮不二出版）委託して土器・土製品の実測図デジタルトレース、同図版作成を行った。

平成23～25年度調査は、同じく調査整備に伴って平成24年度に発掘調査した西江浦遺跡第6次調査もあわせて一冊の報告書として刊行する計画のもと、平成20年度に報告書編集作業までを終了していたため、平成22年度は報告書の印刷に関わる校正作業を行ない、「廻船寺道遺跡・西江浦遺跡第6次調査報告書」(立木・鶴井共著2015)として9月に印刷・刊行した。

平成26年度調査分は、現場作業と並行して遺構図面校正、遺物水洗・注記・分類・集計を進めており、今年度は遺物実測図作成、遺物写真撮影、図版作成、観察表作成、報告書原稿編集までを外部に委託して行った。そのうち遺物実測図面デジタルトース・図版編集・本文編集作業を市下不二出版に、それ以外の作業を吉田建設に委託した。

平成27年度調査分は本発掘調査終了後基礎整理を行った。

整理作業の成果 平成23~26年度調査では、細池寺道遺跡の古代に関する知見が多く得られた。平成23年度第38次調査では河床から8~9世紀代の土器、木製品がまとめて出土し、水辺の祭祀が行われていたと考えられる。平成26年度第44次調査では掘立柱建物、堅穴状遺構、井戸、カマド状遺構に伴って8~9世紀代の土器がまとめて出土しており、当時の拠点集落と考えられヌラ多文化の内容が明らかになった。

中世においては、井戸、掘立柱建物と水田が近接する  
町村形態の集落の存在が明らかになった。

第44次調査は、平成28年度に「細池寺道上遺跡VI」  
〔立木・奈良 ほか 2017〕として刊行した。(奈良佳子)

表4 平成27年度整理作業一覧

地名・学年名	選出回数	生年月日	両親現居	監修担当	主な作業内容
馬場町選出はなし	1・2・3	1980000112	西哲理	相澤千子・酒井和則	西哲理
道上町	6	2000003			
久保道連	3	200003			
鶴見町選出はなし	29・31	2000001・200003	益田智郎・鶴見義雄(吉川建設)	益田智郎	基礎整理・遺物実測・報告書作成・印刷刊行・収蔵作業
鶴見町選出はなし	32・38	201004・201401	鶴見義雄・石川信重・吉澤 博・北村和松・松本 哲(シマヤ辰恭子)	益田智郎	基礎整理・遺物実測・報告書作成・印刷刊行・収蔵作業
41・44・46		201002			
西江道連	3	201205			
仲ノ内道連	19・22	2000005・200704			報告書作成・収蔵作業・台帳作成
	24	200802			
半谷内道連	15・16	201011・201204	益田智郎・澤野 健子	益田智郎	報告書作成・収蔵作業・台帳作成
弓削町	8・9	200101・201202			
大沢内道連	15・17・19	2000001・201306	益田智郎	相澤千子・金田恵也	基礎整理・遺物実測
下新田道連	6・8・9	201208・201306	益田智郎監修	相澤千子	基礎整理・遺物実測・可寫整理・報告書作成
横山町選出	3	201303	益田智郎	横山智明	基礎整理・遺物実測・可寫整理・報告書作成
岸ノ内町	28・29	201112・201303	益田智郎・岸	益田智郎	基礎整理・遺物実測・可寫整理・報告書作成
鳥屋道連	4・5	2015138・201503	益田智郎監修	益田智郎	基礎整理・遺物実測・報告書作成
猪俣町・隣接農業	-	-	各務幸子	相澤千子・酒井和則	報告書作成・台帳作成
工事名・本取扱い(含管理事務)	-	-			

## 4 資料の収蔵・保管

各項の概要及び基本的事項の詳細は、「年報」第1号に記載されている（渡辺2014b）。

### (1) 収蔵方針

文化財センターでは、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面等の記録類を一括集中管理している。

なお、文化財センター開館前の発掘調査によらない考古資料や個人寄贈・寄託資料に関しては、各区の博物館や資料館等で保管・管理が行われている。

### (2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1（木製品）、2（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料収蔵庫は(6)に記載した。

**埋蔵文化財収蔵庫** 土器や石器等の比較的の周辺の環境で劣化のしづらい資料を収蔵している。平成28年3月末時点に1237箱収蔵している。

**特別収蔵庫1・2** 保存処理が完了した木製品や金属製品等を収蔵している。平成28年3月末時点に特別収蔵庫1に734箱（木製品）、特別収蔵庫2に191箱（金属製品103箱、骨・骨製品88箱）収蔵している。

**資料収蔵庫** 発掘調査の図面や写真フィルム・CD・DVD等の記録類を収蔵している。

### 図 書 室 Ⅲ 6 (6) に記載した。

### (3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内における全ての発掘調査（試掘・確認調査、本業振調査、その他に工事立会を含む）に対し調査番号を付けている。

### (4) 再整理作業

文化財センター開館以前の資料について、平成27年度も継続して作業を行っている。

**(5) 収蔵資料のデジタル化及びデータベース化**  
保存と活用のために、遺構に関する造構台帳を作成し、図面や写真等の記録類はデジタル化がされている。  
発掘調査図面は、殆どが業者に委託したデジタルデータ（CADデータ）が存在する。

写真に関しては、発掘調査終了後速やかにデジタル化を行っており、データ形式も汎用性を考えてtifデータとしている。

発掘調査報告書に関しては、印刷業者に編集データを入稿する前もしくはその後にpdfデータを作成している。

収蔵図書に関しても書誌データ（CSV形式）を継続して登録している。

## (6) 民俗資料等

民俗資料収蔵庫には、農具・漁労具・生活用具等の民具を中心収蔵している。非常勤職員を雇用し、整理作業や台帳作成を行っている。平成27年度も所蔵数に変化はなく、約3,000件が収蔵されている。

また、文化財センターに隣接する旧木場小学校校舎は、「大型民具収蔵庫」として利用され、敷地・建物を文化財センターが、収蔵品の民俗資料は歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理している。

### (7) 埋蔵文化財情報管理システム

埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的として、「埋蔵文化財情報管理システム」を活用している。遺跡管理のための地理情報管理システム（GIS）と発掘調査記録や収蔵品管理のためのデータベースの機能を併せ持ったシステムである。このシステムは新潟市の統合型GISのサブシステムとして構築されている。

平成27年度に新潟市役所のGeoBase版統合型GISのOSサポート期間が満了となることに伴い、GeognoSIS版の統合型GISに全庁のシステムを統合することが平成25年度に決定した。そこで、「埋蔵文化財情報管理システム」を含む全てのサブシステムについて、再構築を行うこととなり、再構築に向けての検討が進められた。そして、平成27年5月に「埋蔵文化財情報管理システム」の再構築が完了し、同年6月1日より運用を開始した。

システムの機能としては、以前の機能と同様に「遺跡管理」「発掘調査管理」「埋蔵文化財保護業務」「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品・金属製品検索」「図書検索」「地図表示」を備えている。一方、これまであった「定義表管理」は必要がないため盛り込んでいない。

運用は開始されたが、これまでとは異なり、利便性の向上のため記録類等をエクセルデータで一括取り込みが可能にできるようにするための準備ができず、「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品・金属製品検索」はまだ機能していない。そのため、「遺跡管理」「発掘調査管理」「埋蔵文化財保護業務」「図書検索」「地図表示」が機能している状態である。

平成27年度も前年度に引き続き、運用開始までは開始に向け、運用開始後は未機能の部分が機能するよう統合型GISを所管しているIT推進課と共同でシステム構築・運用を委託している業者と会議を行っている。

（金田拓也）

## 5 資料の公開・展示

### (1) 展示概要

「新潟市文化財センター条例」の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれら 활용を図る」主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。詳しい方針及び概要については、「半報」第1号に記載している(今井2014)。

平成26年度に文化財センターでは初めてとなる企画展を開催した。好評だったため平成27年度以降も企画展を開催することとした。内容については、市内8区の遺跡を順次紹介するシリーズとして中央区を取り上げた他、古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用開始に合わせて古津八幡山遺跡に開通するテーマで企画展を全5回中3回行った。また、初めての試みとして収蔵している民俗資料と考古資料で構成した企画展を1回行った。平成27年度の試みとしてもう一つあげられるのが、館外展示である。市内施設からの共催依頼等を受け、館外展示を行った。なお、この企画展と館外展示事業は、経費の50%について市の補助金「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を受けた。

**展示室1 導入展示室兼、展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器、陶器、繩文時代から近世の木製品を壁一面に展示している。また、縦立遺跡出土の網代や御舟戸遺跡の木柱などの大形木製品、市内出土の木彫レプリカ10点、近世新潟町出土の陶磁器をケースにて展示している。**

**展示室2 「新潟市文化財センターの活動」、「遺跡が語る新潟市の歴史」、「企画展示コーナー」の大きく3つの展示に分かれている。**

平成26年度から変更があったところは、弥生時代前期の展示資料を西郷遺跡から縦立遺跡に戻したことである。展示室中央の企画展示コーナーで、平成27年度は5

回の企画展を開催した。各展示詳細については次項((2)~(4))以降に記載する。なお、企画展1は史跡古津八幡山弥生の丘展示館(以下「弥生の丘展示館」)において開催された企画展、企画展2・5は新潟市新津美術館において開催された特別企画展を文化財センターにおいても開催したものである。そのため、企画展2・5については、特別企画展の詳細と合わせてIVで記載している。

**エントランス エントランスでは、大形品の展示の他、連報性のある出土品の展示を行っている。平成27年度には、平成26年度に調査を行った「下郷南遺跡」と「細池寺道遺跡」を速報表示した。また、平成26年度に保存処理を行った小坂駒付遺跡の木製品のうち下駄を展示した。**

**館外展示 平成27年度は文化財センター及び弥生の丘展示館の企画展以外に3か所の市内施設で館外展示を行った。1か所目は新潟日報社が主催で新潟日報情報館COMPASSに於いて開催していた「ふむふむタイムスリップ」の第3回展示「接着剤」への協力を行った。2か所目は新潟市江南区郷土資料館からの申し出による江南区郷土資料館での弥生の丘展示館企画展1の移動展示である。3か所目は小糸青山公民館からの共催依頼を受けで、小糸青山公民館で開催された「身近な歴史ギャラリー 新潟市の交流」である。各展示詳細については次項((5)~(7))以降に記載する。**

また、来館者からは、幅広い時代の企画展示が行われるようになってよかったとの声が多く聞かれる。また、来館者の動向を見てみると、企画展で取り上げた区の市民が若干多く来館している。取り上げた区について多くチラシを配布するといった工夫の成果もあるが、「地元の遺跡が展示されているから見に来た」という人が一定量あることが窺える。地元への愛着を育むことに、遺跡が有効であると言われとも言え、文化財センターがその役割を担えることは喜ばしい。(今井さやか)

表5 平成27年度文化財センター企画展一覧

年度 ごと の番号	企画名	会 員	企画担当	来館者数 (人)	開催場所・開催会・開催及びイベント			
					開 催 日 期 スケ ル名	開 催 場 所	講 師	来 館 者 数 (人)
1	縄文の丘Ⅲ 古津八幡山古墳と遺跡の発掘	2015/7/8(土) ~7/20(日)	羽林研究会	1860		-	-	-
2	史跡古津八幡山古墳の 発掘調査と保存修復の研究	2015/9/19(火) ~9/22(金)	溝通情報	1722	古津八幡山古墳群の 発掘調査と保存修復の研究 史跡古津八幡山(2000年の発見)	2015/5/31(日)	溝通情報	25
3	発掘された江戸時代の新潟 市近世の歴史	2015/7/17(金) ~7/18(土)	今井さやか	3291	古津新潟町のままで 夏祭りを体験! 開拓者たちの 歴史と文化を学ぶ	2015/6/27(日)	大槻第一会議室 (新潟市立三和中学校音楽室 名寄宿舎)	31
4	「見て見るかの日本」 ~早川町の歴史~	2015/10/14(水) ~10/23(火)	溝通情報	1331	開拓者たちの歴史と 文化を学ぶ	2015/7/25(火) ~8/25(土)	今井さやか	36
5	遺跡と民間から見る時代 新潟市の古代から 縄文時代の歴史 縄文時代遺跡と近世に残る歴史	2015/12/5(土) ~2016/3/27(日)	羽林研究会・ 本郷研究会 今井さやか	2771	コヨモ根祭の歴史の歴史 上部の石室アートキオ ワッカミアトリ	2015/12/31(日)	溝通情報	29
					小坂駒付遺跡の歴史について	2016/3/20(日)	郷土図書 郷土図書	9
						2016/3/13(日)	佐藤千子氏 (新潟県立文化会館)	30
						30日	新潟県立文化会館	-

(2) 企画展1 「蒲原の王墓」

古津八幡山古墳と豪族の屋敷」

会期 平成27年4月7日(火)～5月10日(日)

担当 相田泰臣

来館者数 1,060人

展示概要 本企画展は、弥生の丘展示館の企画展1及び特別企画展1と共に、平成27年4月17日に古津八幡山遺跡歴史の広場が全面供用開始されるのを記念して行った企画展である。

平成23年度から平成25年度に行なった発掘調査によつて、古津八幡山古墳は古墳時代前半から中期初頭頃に造られた直径60mの円墳であることが判明した。

県内最大規模の古墳であり、蒲原平野の各地域の豪族が共同して創立してた王(有力な豪族)の墓であった可能性が考えられている。

企画展では、既にあると推測される古津八幡山古墳を造った豪族の屋敷についての手がかりを探るべく、麓や周辺の古墳時代の遺跡について、これまでの調査成果や出土遺物について紹介、展示を行なった。

展示構成

- 1) 豪族の屋敷(居館)について
- 2) 新津丘陵麓の古墳時代の遺跡
- 3) 舟戸遺跡の調査成果
- 4) 古津八幡山古墳が造られた頃の周辺の遺跡
- 5) 中田遺跡・沖ノ羽遺跡・塩辛遺跡

主要展示 新津丘陵北西麓に位置し、古津八幡山古墳を造った豪族の屋敷の可能性が指摘されている舟戸遺跡について、これまでの調査成果をパネルで紹介すると共に、出土遺物を展示した。

舟戸遺跡では、これまでの本発掘調査範囲は狭いが、大量の土器や堅穴住居、掘立柱建物、杭列等が検出されている。杭は、堅穴住居の柱よりも直径が細く、また、柱の根元が平らに加工されるのに対し、杭の根元は尖らせる加工を行なう等の違いがある。これらの加工の違いが比較できるよう、柱と杭とを並べて展示了。

また、古津八幡山古墳が造られた頃の集落である秋葉区の中田遺跡と沖ノ羽遺跡の出土遺物を展示すると共に、舟戸遺跡が衰退した後に盛行したと考えられる塩辛遺跡の出土遺物も展示了。

まとめ 古津八幡山古墳を造った豪族の屋敷の所在を始め、古墳時代の丘陵麓の状況については不明な点が多く、展示も限られたものとなつた。古境地の復元や水田・畑等の生産基盤の実態も含め、今後明らかにしていく必要がある。  
(相田泰臣)



蒲原の王墓  
古津八幡山古墳と豪族の屋敷

会期 平成27年4月7日(火)～5月10日(日)  
休館日 毎週月曜日(月曜日の祝日の場合は翌日)  
開館時間 午前9時～午後5時

チラシ表



展示風景(展示室2)



舟戸遺跡出土の柱(3 舟戸遺跡の調査成果)



舟戸遺跡出土の柱(3 舟戸遺跡の調査成果)

III  
文化財センターの事業

(3) 企画展3 「発掘された江戸時代の渋町  
近世新潟町展」

会期 平成27年7月17日(金)～10月4日(日)

担当 今井さやか

来館者数 3,781人

展示概要 近世新潟町跡が周知化されてから10年経過し、調査資料も増えたことから、近世新潟町の成り立ちや性格について紹介する企画展を開催した。

展示構成

- 1) 近世新潟町の成立
- 2) 西通り道路と新潟町の発展
- 3) 鎮国政策と抜け荷
- 4) 発掘された新潟町
- 5) 出土品と伝世品

主要展示 新潟町は、長岡藩の公式記録から明暦元(1655)年に成立したことがはっきりしている。遺跡としての近世新潟町は成立当初の範囲としているが、本展では広く江戸時代全般の資料を扱った。

1では近世新潟町成立直前の阿賀野川流域の遺跡の紹介(荒山前遺跡・下郷南遺跡)と近世新潟町移転初期の遺物を展示了。2ではパネルで西通り軌路と新潟湊の移出入品について紹介。新潟は大坂への廻りという重要な役目の人、松前との交易も行っていた。また、「材料を入れて新潟町で加工して別の都市へ売る」といった交易も新潟湊の特徴であることを紹介した。3は、鎮国政策下にあっても新潟町では清朝磁器や輸出用に生産された「芙蓉手」と呼ばれる肥前磁器皿など特殊な陶磁器が出土しており、これらを展示し、新潟町の商人が裕福であったことを紹介した。4では、計7地点での発掘調査成果について展示了。古町通3地点では描いの食器が複数セット出土したが、当時の地割を見ると周間に遊女屋が立ち並ぶ一角であり、飲食業をしていたことが想定された。5では、遺跡から出土した破片資料とその全体像を提えてもらうために伝世品の資料を並べて展示了。伝世資料は鶴友会博物館より借用した。

関連講演会 企画展の関連講演会を1回開催した。

演目 近世新潟町の始まりと

繁栄を語る出土陶磁器

講師 大橋康二氏(佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問)

日時 平成27年9月27日(日)

午後1時30分～午後3時

参加者数 51人

長年肥前陶磁器の研究に携わってこられた講師より、肥前陶磁器の誕生から発展の歴史についてと、近世新潟町跡から出土している肥前陶磁器の特徴について解説し

ていただいた。この中で近世新潟町では、成立から明治まで一貫して高級陶磁器が出土している事が指摘され、江戸時代を通して近世新潟町が繁栄していたと結論付けられた。

展示解説 展示担当による展示解説を開催した。

日時 平成27年7月25日(土)

8月15日(土)、9月19日(土)

午後1時30分～2時30分

参加者数 16人(3日間の合計)

来館者の声 「また陶磁器に関する企画展を希望する」「出土土地点との解説が不十分に感じる。職員が解説した方が新潟町への理解が深まるのではないか」「伝世品も一緒に見られてよかったです」等の意見があった。

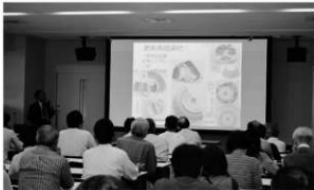
まとめ これまで、新潟市歴史博物館の企画展に出土新潟町の出土陶磁器の一部を貸出すことはあったが、150点以上の規模で展示することは初めての試みであった。市民の新潟町への关心が非常に高く反響のある展示になった。また、古陶磁に興味を持つ方にも多く来館していただき、これまで考古学に縁がなかった人達を取り込めたように思う。

一方で新潟町の発掘調査については、砂州に立地しており軟弱地盤のため、広範囲での調査が行われていない。そのため、出土遺物は多いものの遺構の確認が不十分であり、展示が遺物の紹介に偏りがちになったことが悔やまれる。

(今井さやか)



展示風景(展示室2)



関連講演会風景(近世新潟町の始まりと繁栄を語る出土陶磁器)

## (4) 企画展5 「遺跡と民俗から見る稻作」

新潟市の弥生時代から鎌倉・室町時代までの  
稻作関連遺跡と黒崎に伝わる農耕具】

会期 平成27年12月5日(土)

～平成28年3月27日(日)

担当 酒井和男・本間敏則・今井さやか

来館者数 2,771人

**展示概要** 新潟の主産業である稻作について、考古学と民俗学の双方から考えることを目的とした。普段民具収蔵庫で収蔵展示となっている民俗資料を展示室で展示了した。これは文化財センターで初めての試みであった。

## 展示構成

- 1) 春夏秋冬の農耕絵図と農具
- 2) 稲作のはじまり～定着
- 3) 発掘された新潟市の水田
- 4) 土器の狂痕に見える作物
- 5) 稲作と稻作
- 6) 稲作に関する民俗風習

**主要展示** 本展では「秋・冬の農耕」「春の農耕」「夏の農耕」と大形展示ケース3台を使用して、西蒲原地域の江戸時代の農耕の様子を描いた「農耕絵図」(個人所蔵)のパネルとそれぞれの季節の農作業で使用する道具を展示了した。また、黒崎に伝わる「サシコマエカケ」を女性から男性に伝る風習や、新潟で一般的に行われていた稻作に関連する「タノカミオクリ」や「マユダマカザリ」の風習について展示を行った。さらにこの風習について、「見た事があるか」を、来館者に尋ね、見た地域についてシールで回答してもらう参加型の展示を行った。

考古学からの視点としては、県内最古の西郷遺跡出土の炭化米(弥生時代前期から中期)の展示の他、小坂居付遺跡の「しきわせ」木簡、鍬や下田駄などの古代から中世の出土農具を展示了した。また下新潟遺跡の平安時代の土器表面に残る種実の狂痕レプリカを展示し、コメ以外にもアワ・キビ等の雜穀の狂痕があり、雜穀も積極的に栽培していたことを紹介した。

関連講座・講演会・イベント 企画展の関連講座・関連講演会・関連イベントをそれぞれ1回開催した。

演目 コメと雜穀の栽培の歴史

講師 渡邉明和

日時 平成27年12月13日(日)

午後1時30分～午後3時

参加者数 29人

稻作の起源や日本各地の稻作関連遺跡の紹介、雜穀栽培の役割について解説した。また、中国や韓国との農具の名称の違い等、幅広い話題から稻作を考えた。

演目 小坂居付遺跡の水田について

講師 佐藤友子氏(新潟県教育庁文化行政課)

日時 平成28年3月13日(日)

午後1時30分～午後3時

参加者数 30人

小坂居付遺跡の発掘を担当された講師から、遺跡の概要について発掘調査での体験談を交え、専門的な内容をわかりやすく解説していただいた。

イベント 土器の狂痕レプリカをつくってみよう

講師 龍田優子

日時 平成27年12月20日(日)

午後1時30分～午後3時

参加者数 9人

あらかじめ作成しておいた穀物や昆蟲の狂痕粘土版に歯科用シリコンを流し入れて型取りをし、それを顕微鏡で観察する体験を行った。

展示解説 展示担当による展示解説を随時開催した。

**来館者の声** 「依頼機械等、稻作に関する道具が懐かしかった」「マユダマカザリを久しぶりに見た」等、民俗資料を通して来館者同士で会話を生まれることが印象的だった。

まとめ 当館所蔵の黒崎地域の民具を使用した初めての企画展であった。当初は民俗資料の整形を考古資料に求める縦年的な展示を予定していたが、思うように資料が一致しなかった。そこで稻作の始まりから中世までを考古資料で展示をし、近世以降の稻作については民俗資料で語ることとした。考古資料では、新潟市内から県内最古の炭化米が出土していることが意外と知られておらず、もっとPRが必要だと感じられた。民俗資料では「来館者の声」でも述べたが、昭和初期まで使われていた農具について、来館者の多くが実際に使った、もしくは使っていたのを見たことがあると、その経験や思い出を同行していた子や孫に話して聞かせている光景が度々見られた。今後も民俗資料を活用した展示を行っていきたい。

(今井さやか)



マユダマカザリと参加型展示(6 稲作に関する民俗風習)

(5) 館外展示 ふむふむタイムスリップ第3回  
「接着剤」

会 期 平成27年7月1日(水)～7月31日(金)  
 会 場 新潟日報情報館COMPASS  
 主 催 新潟日報社  
 担 当 今井さやか  
 来館者数 2,392人

**展示概要** 新潟日報こども新聞「週刊ふむふむ」と県内行政機関が連携し、月替わりで様々な道具の昔から現在への変遷をたどる常設企画展示「ふむふむタイムスリップ」を行なった。そのうちの第3回「接着剤」について新潟市が遺物展示および解説パネルの作成を担当した。なお、この展示の観覧料は無料である。

**主要展示** 繁文時代から使用されている接着剤のアスファルト・漆・膠について紹介をした。アスファルトについては大沢谷内遺跡のアスファルトを溶かした繩文土器の深鉢やアスファルトを接着剤として実際に利用した痕跡のある石鍬等を展示了。漆は珠洲焼や近世陶磁器の修補(漆巻き)で使用しているものを展示了。一方膠については遺跡から出土したものが無く、現在文化財修復で使用している兎膠を展示了。

**まとめ** 展示会場の新潟日報情報館(新潟日報メディアシップ内)は、新潟市の中心繁華街にあり、県外からの観光客の利用が目立つ。また新潟日報こども新聞「週刊ふむふむ」は購読者が多く、毎回展示に来る熱心なファンもいたとのことである。現在文化財センターでは県外からの来館者は少なく、観光客の多くの集まる場所でアスファルトを通して新潟の特徴をPRできた事は意義深い。

(今井さやか)

表6 平成27年度館外展示一覧

展示番号	展開会場名	会期	日数	%	来館者数	実施期間
1	新潟日報情報館COMPASS	2015.7.1～7.31	31	100%	2,392	平成27年7月
2	新潟市立歴史博物館	2015.10.1～10.31	31	100%	2,008	平成27年10月
3	新潟市立歴史博物館	2015.11.1～11.30	30	100%	2,008	平成27年11月



展示風景（ふむふむタイムスリップ第3回）

## (6) 館外展示「古津八幡山古墳の築造と復元整備」

会 期 平成27年7月25日(土)～8月23日(日)

会 場・共催 新潟市江南区郷土資料館

担 当 相田泰臣

来館者数 2,008人

**展示概要** 新潟市江南区郷土資料館（以下「江南区郷土資料館」）の展示室を使用して行った弥生の丘展示館企画展1の移動展示である。なお、江南区郷土資料館の入館料は無料である。

展示概要や展示構成、パンフレット等については弥生の丘展示館の企画展1（N1②）と概ね同じ内容であるため省略するが、江南区郷土資料館の展示スペースが弥生の丘展示館よりも広いため、平成23年度から平成26年度に実施した古津八幡山古墳の発掘調査や復元整備工事の写真パネルを追加した他、弥生の丘展示館展示室内で視聴できる平成23年度から平成26年度にかけて実施した古津八幡山古墳の発掘調査や復元整備工事の記録映像を展示スペースの一角で放映した。また、弥生の丘展示館の企画展1や特別企画展1で一部表示した古津八幡山古墳中心部の断面剥ぎ取り土層の展示も行った。

**まとめ** 江南区郷土資料館は江南区文化会館の中にある。江南区文化会館は他に音楽演劇ホール、公民館、図書館を備えた複合施設である。そのため、館には



会場風景（古津八幡山古墳の築造と復元整備）



展示風景（古津八幡山古墳の築造と復元整備）

老若男女幅広い層が訪れ、来館目的も多岐にわたる。なお、平成27年度の江南区文化会館の来館者数は267,769人である。

このような展示は、普段道路に興味のない方が展示を見て遺跡等について興味を持ったり、また古津八幡山古墳が復元整備されている現地や弥生の丘展示館、文化財センターへ行くきっかけになることも期待される。今後も機会を見てこのような展示を行っていく方向で検討していきたい。

なお、本展示ではアンケートや展示解説等は行わなかつた。今後機会があれば実施したい。  
(相田泰臣)

#### (7) 館外展示「身近な歴史ギャラリー

##### 新潟市の交流

会期 平成27年11月5日(木)～11月11日(水)

会場 西新潟市民会館1階ギャラリー

主催 小針青山公民館

担当 今井さやか

来館者数 302人

**展示概要** 新潟市の交流の歴史について連続講座を行っている小針青山公民館（西新潟市民会館と同一施設）からの共催依頼を受け開催した。講座で紹介された実際の歴史資料を見ることによって、地域の歴史を身近に感じ地域を考えるきっかけを目的としている。なお、この展示の観覧料は無料である。

**主要展示** 綱文時代から近代までの地域間交流について、平成26年度まで文化財センター展示室で行っていた「交差・交じり合う文化」から小形展示ケース6個に集約して展示を行った。また、パネルのみの展示である「市内8区の気になる遺跡」コーナーと子どもたちが気軽に歴史に親しめるための「土器パズル」コーナーも併設された。

この展示は、小針青山公民館職員が企画したものである。西区小針という比較的文化財センターに近い場所であっても交通手段を持たないため実際の遺物を見に行け

ない歴史ファンが多くいることから企画したと聞く。実際に1週間という短期間ではあるが多くの来場者があり、「人の集まっているところに展示に行く」という重要性・効果を再認識した。一方で、1週間の展示期間というのは非常に短く展示ケースや遺物の搬出入の労力に見合っていないと感じた。展示ケースを含めての館外展示であれば1か月くらい展示期間が欲しい。(今井さやか)



会場風景（新潟市の交流）



展示風景（新潟市の交流）



表面剥ぎ取り展示（古津八幡山古墳の築造と復元整備）



人気の土器パズルも出張（新潟市の交流）



表9 平成27年度文化財センター体験学習参加者数

表10 平成27年度旧武田家住宅利用状況

年月日	研究会名	会 員	場 所
2015.5-13 (金) -5-17 (日)	講習会 「田中の植物園」	田中先生	
2015.6-29 (土)	西日本植物園会議 「植物の二面性」		
2015.6-27 (土) -28 (日)	筑波農業研究会 「筑波の農業と農業生産促進会議」		
2015.7-11 (水) -12 (木)	木工の会 北陸講演会 「木工、乾燥、プロトコル」	木工の会北陸幹事会 木工の会北陸幹事会	新潟県立中央植物園 新潟県立中央植物園
2015.9-5 (火)	新潟農業研究会 「農業研究会の志と会員登録制度」		
2015.10-6 (水) -7 (木)	研修会 「植物園」	植物園	

表12 平成27年度団体利用・研究会利用一覧

表11 平成27年度文化財センター来館者数

序 号	開業日 (日)	乗車者数(人)			小計
		個 人	團 体	合 計	
4	25	516	210	726	
5	27	775	384	1159	
6	25	695	271	966	
7	27	949	192	1141	
8	26	1,853	54	1,857	
9	26	1,107	473	1,580	
10	27	791	336	1,127	
11	25	692	196	888	
12	23	963	222	1,185	
1	24	600	193	793	
2	23	552	81	633	
3	27	719	58	777	
合計		9,425	2,580	12,005	

文化財センターの事業



刀鑄治工房見学



## ボランティアによる高橋の庭糸掛け作業

## (2) 施設利用

文化財センターでは、展示見学の他に「体験コーナー」として研修室の一部を使用して新潟や埋蔵文化財に関する体験学習ができるスペースを設置している（表9）。体験コーナーでは、「開館時間中であれば、いつでもだれでも予約なしでできる個人向け体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類がある。いずれも材料費相当の負担をいただいている。また、無料の体験として新潟市から出土した土器（馬屋遺跡2点、法華島屋遺跡1点、古津八幡山遺跡2点）と柏崎市内川遺跡出土王冠型土器1点と津南町沖ノ原遺跡出土火焔型土器1点を基に制作した「土器パズル」が7点ある。王冠型土器と火焔型土器の「土器パズル」は定期的に弥生の丘展示館と交互に入れ替えて利用している。

また、季節限定体験としてゴールデンウィークと夏休み期間は火起こし体験、冬休み期間には裂き織体験・縫切り体験を行った。今年度から個人向けの土器づくりを10月・1月・2月に行なった。参加者数は表9の通りであり、火起こし体験が294名、裂き織体験が48名、土器づくりが40名であった。

また、旧武田家住宅及び体験広場（芝生）の貸出（有料）を行なっている。利用状況は表10の通りである。

### (3) 来館者数

平成27年度の文化財センターの来館者数は表11の通りである。

平成26年度に比べておよそ390人減少した。団体利用の減少が要因として考えられる。

来館者のアンケートからは、「場所がわかりにくい」、「解説文が専門的すぎて難しい」、「マンガやイラストを入れてはどうか」、「市外にももっとPRして欲しい」等、要望やご指摘をいただいた。

開館から平成27年3月末までの累計来館者数は55,382人である。

### (4) 団体見学・施設見学

平成27年度の文化財センターの団体利用及び行政視察の一覧は表12の通りである。

小学校や子ども会等の子どもが主体の団体では、見学だけではなく体験活動を組み込むことが多い。特に小学校では社会科の授業として4月・5月には6学年の歴史で、1月は3学年の昔の暮らしの学習で利用する傾向にある。平成27年度では、小学校・中学校の利用は25校であり平成26年度より10校減少した。社会科の授業以外に、職場体験実習として利用する学校もある。

また、デイサービスセンターの見学利用が多いのが、文化財センターの特徴である。（今井さやか）



平成27年度新潟市遺跡発掘調査連絡会



小学校3学年団体利用（旧武田家住宅）



小学校3学年団体利用（洗濯板体験）



小学校6学年団体利用（土器にさわる）

## (5) 資料利用

### A 手続きに関する条例・規則

**特別利用許可** 文化財センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影等を行う場合:『新潟市文化財センター条例』及び『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を新潟市教育委員会宛に提出する。

**貸出許可** 考古資料の寄託・借用・貸出等をする場合:『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』により許可申請書等を新潟市教育委員会宛に提出する。

**寄附申込** 考古資料の寄附申し込みをする場合:『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を新潟市長宛に提出する。

**民俗資料** 民俗資料の利用・貸出をする場合:『新潟市物品管理規則』により許可申請書を新潟市長宛に提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続きは適用規則がないため、任意書式提出を依頼していたが、平成28年4月1日より写真データの提供及び掲載許可申請について『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』で対応することとした。

### B 利用件数

以下、平成27年度の各利用件数について記す(表14)。

**特別利用許可** 考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は12件である。

**貸出許可** 考古資料と民具資料の貸出許可は、博物館等での常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展等の短期間の貸出がある。前者は次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度毎に手続きを行っている。公民館等では地域の歴史に親しみを感じてもらう観点からその地域の道跡から出土した遺物の貸出を行っている。資料の貸出期間等は『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』に規定されている。常設展示に伴う長期貸出6件、企画展等に伴う短期貸出9件である。

**掲載許可** 文化財センターが保管する写真や報告書等掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物等で使用する場合がある。利用件数は19件であった。

**寄附申込** 昨年度同様0件である。

各利用件数とも前年度より増加している。中でも短期貸出は6件増、掲載許可は7件増である。

## (6) 図書の収蔵と閲覧

### A 収蔵

図書室の面積は89.33m<sup>2</sup>で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式移動7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書に関しては、隣接する埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きをし、登録が終わったものから順次配架を行っている。

図書の収蔵状況は、旧市町村で所蔵していた発掘調査報告書が合併に伴い集められた結果、新潟県内の発掘調査報告書は複本が多数生じることになった。複本があまり利用頻度の高い報告書は、文化財センター図書室の他、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。

書誌情報の入力作業は、司書(臨時職員)2名を雇用して、入力作業を継続して行っている。なお、書誌情報の入力は平成21年度に構築した埋蔵文化財情報管理システムを利用している。平成27年度にシステムの再構築が完了し、運用が行われており(Ⅲ4(7))、書誌情報の入力も再構築されたシステムで行われている。入力作業と併せ、図書の管理のために蔵贈者印・所蔵印を押捺し、3段ラベル・バーコードを貼る作業を行っている。平成28年10月末までの入力数は45,902冊である。

### B 利用状況

図書室では、2名分の閲覧スペースがある。大まかに配架作業が終了した平成24年6月から閲覧開始するとともに、著作権法の範囲内でコピーサービス(有料)も開始した。図書室の利用人数とコピーサービス利用人数は表13の通りである。前年度比では利用者数は21人減、コピーサービス利用人数は13人減である。平成27年6月6日~21日まで配架作業のため一時閉室とした。

なお、収蔵図書は、発掘調査報告書等の発行部数の少ない稀蔵本がほとんどそのため、館外貸出は行っていない。

(相澤裕子)

表13 平成27年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用(A人)	コピー利用(A人)
4	3	1
5	8	2
6	2	1
7	3	3
8	5	1
9	3	0
10	10	3
11	12	3
12	3	3
1	4	2
2	7	2
3	6	0
合計	60	21

表14 平成27年度資料対応件数一覧

件数	年譜題	件名	件数(冊)	調査日	備考
1	日本大学附属小学校・牛久市立幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	牛久市立幼稚園 午前会	12	2015/6/1(木)	点式本番用紙使用、郵便請求
2	日本大学附属小学校	駒込幼稚園 午前会	12	2015年6月(木)	点式本番用紙使用
3	上野動物園登録センター 動物園・園	西野動物園 犬・野鳥・小動物	1504	2015/3/1(木)～(水)	「動物園登録センター」の登録料金を支払った際の本番用紙
4	駒込幼稚園	駒込幼稚園	2	2015/5/2(火)	点式本番用紙使用
5	北千住幼稚園	北千住幼稚園	200	2015/5/2(火)～(水)	点式本番用紙使用
6	駒込幼稚園	駒込幼稚園 午前会	100	2015/5/22(木)～(金)	点式本番用紙使用
7	駒込幼稚園・小川町幼稚園	駒込幼稚園 午前会・駒込幼稚園	90	2015/5/18(火)～(水)	點式本番用紙使用
8	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 犬	328	2015/5/1(木)	点式本番用紙使用
9	駒込幼稚園	西野動物園 犬	23	2015/5/1(木)～(水)	点式本番用紙使用
10	人	小川町幼稚園・小川町	2	2015/5/19(水)	駒込幼稚園
11	上野動物園登録センター・駒込幼稚園・駒込小学校	西野動物園 犬・野鳥	13	2015/5/3(木)	點式本番用紙使用
12	駒込幼稚園・北千住幼稚園・駒込小学校	西野動物園 犬	20	2015/5/1(木)	点式本番用紙使用

件数	年譜題	件名	件数(冊)	調査日	備考
1	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 犬	3	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
2	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 犬・野鳥	31	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
3	駒込幼稚園・駒込小学校	西野動物園 大象・白熊	22	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
4	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 犬・野鳥	12	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
5	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 犬・野鳥	205	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
6	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 犬	48	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
7	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 ライオン	14	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
8	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 大象・白熊	27	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
9	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 犬	38	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
10	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 犬・野鳥	33	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
11	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 大象	4	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
12	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 狮子	59	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
13	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 狮子・白熊	13	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
14	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 狮子・白熊・大象	5	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙
15	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	西野動物園 狮子・白熊・大象	1	2015/5/1(木)～ 2015/5/3(水)	点式本番用紙

件数	年譜題	件名	件数(冊)	調査日	備考
1	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 DOGGO! 人魚・マーメイド実習	2	2015/4/1(木)	「博物館実習 選んでいい日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
2	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬・野鳥	2	2015/4/1(木)	「博物館実習 選んでいい日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
3	上野動物園登録センター・駒込幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	3	2015/4/1(木)	「博物館実習 選んでいい日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
4	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬・野鳥	8	2015/4/1(木)	「博物館実習 選んでいい日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
5	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	9	2015/4/2(金)	「博物館実習 選んでいい日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
6	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	4	2015/4/3(土)	「博物館実習 選んでいい日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
7	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬・野鳥	13	2015/4/3(土)	「博物館実習 選んでいい日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
8	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	2	2015/4/3(土)～ 2015/4/5(月)	「博物館実習 選んでいい日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
9	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬・野鳥	1	2015/4/3(土)～ 2015/4/5(月)	「博物館実習 選んでいい日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
10	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	8	2015/4/3(土)～ 2015/4/5(月)	「博物館実習 選んでいい日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
11	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	3	2015/4/27(火)	「博物館実習 選んでいい日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
12	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	2	2015/4/1(木)～ 2015/4/2(金)	「博物館実習 日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
13	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	1	2015/4/1(木)～ 2015/4/2(金)	「博物館実習 日本文化の実習」羽田空港の場内にて購入の合意書
14	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	36	2015/4/2(金)	「古代日本・文字の発明と漢字」羽田空港
15	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	41	2015/4/2(金)	「古代日本・文字の発明と漢字」羽田空港
16	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	2	2015/4/2(金)	「古代日本・文字の発明と漢字」羽田空港
17	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	4	2015/4/3(土)	「博物館文化探求サマーワーク」羽田空港
18	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	2	2015/4/3(土)	「博物館文化探求サマーワーク」羽田空港
19	駒込幼稚園・北千住幼稚園 附属大蔵小学校・駒込小学校	上野動物園 犬	1	2015/4/3(土)	「博物館文化探求サマーワーク」羽田空港

## 7 保存処理

### (1) 木製品の保存処理について

處理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG(ポリエチレングリコール)含浸法を中心に行っているが、PEG法では漆被膜が剥離し行えない漆器や、木質が丈夫で若干の強化ですむ近世遺跡出土の木製品についてはトレハロース含浸法を行っている。詳細な方針及び方法については「年報」第1号に記載されている〔今井2014〕。

平成27年度 平成27年度には24道路8調査分1,347点の木製品の保存処理を行った(表15)。発掘から20年が経過し劣化の著しい石動遺跡(1995003)等の他、県から譲りを受けた小坂村付道路(2009007)出土木製品の保存処理をPEG含浸法を行った。なお、厚みが5cm以下の小形木製品については、タッパーを使ったPEG含浸を行っている。

### (2) 金属製品・その他の保存処理について

處理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行うというサイクルで業務を行っている。保存処理を行う順序は、原則調査年次が古いものからとしている。詳細な方針及び方法については、「年報」第1号に記載されている〔今井2014〕。

平成27年度 平成27年度は、新五兵衛山遺跡(1994007)出土鉄製品を中心に8遺跡8調査分153点の保存処理を行った(表15)。なお、平成27年度は青銅製品の保存処理を行わなかった。次年度以降県から譲り受けた近世新潟町跡や市史調査のものを処理する必要がある。

### (3) 保存処理外部委託について

PEG処理法に向かない木製品等の文化財センターで保存処理ができないものについて、真空凍結乾燥法やアルコール・酢酸・アルミ合浸法等の処理法を有する業者に外部委託を行っている。平成27年度の外部委託した保存処理は表16の通りである。(今井さやか)



木製品 保存処理後(大沢谷内遺跡・2012009)

表15 平成27年度木製品・鉄製品保存処理一覧

遺跡名	調査年号	材 質	目 標	処理方法	点 数	備考
近江守護所	1991008	木製品	和紙・漆器類 他	PEG	4	
舟入遺跡	1993004	木製品	瓦 瓶	PEG	2	
石動遺跡	1995001	木製品	正丸下駄 他	PEG	31	
お城跡	1995004	木製品	木村 旗	PEG	6	
若山遺跡	1996005	木製品	神津寺製品 他	PEG	2	
御所山遺跡	1996006	木製品	板根木製品	PEG	1	
若山遺跡	1998002	木製品	木村 旗	PEG	2	
大沢谷内遺跡	1997004	木製品	高井松原製品 他	PEG	10	
大沢谷内遺跡	1997005	木製品	高井松原製品 他	PEG	11	
内山遺跡	1999001	木製品	御井松原 他	PEG	19	
越前村跡	1999002	木製品	下駄 旗	PEG	12	
東山遺跡	2000001	木製品	瓦 瓶	PEG	14	
弓削遺跡	2001001	木製品	吉川村井 旗	PEG	4	
越後守・足利	2002005	木製品	御井松原 他	PEG	2	
下高野遺跡	2002008	木製品	正丸下駄 他	PEG	10	
木門山遺跡	2004002	木製品	瓦 瓶	PEG	2	
井ノ頭遺跡	2005002	木製品	吉川村井 旗	PEG	118	
大沢谷内遺跡	2008005	木製品	瓦 瓶	PEG	197	
井ノ頭遺跡	2009005	木製品	吉川村井 旗	PEG	69	
井ノ頭遺跡	2007004	木製品	瓦 瓶	PEG	2	
三日山遺跡	2007010	木製品	御井松原 他	PEG	7	
手代山北遺跡	2008001	木製品	破破 旗	PEG	3	
船橋山遺跡	2008006	木製品	高井松原製品 他	PEG	8	
小坂村付道路	2009007	木製品	瓦 瓶	PEG	266	
大沢谷内遺跡	2010002	木製品	御井松原 他	PEG	19	
大沢谷内遺跡	2012001	木製品	御井松原 他	PEG	157	
大沢谷内遺跡	2012002	木製品	御井松原 他	PEG	157	
大沢谷内遺跡	2013001	木製品	津野柄 旗	トレハロース	21	
大沢谷内遺跡	2013002	木製品	津野柄 旗	トレハロース	2	
越後守・足利	2013003	木製品	瓦 瓶	PEG	2	
越後守・足利	2012006	木製品	御井 杯	PEG	52	
柳原・河内遺跡	2013001	木製品	下駄 旗	PEG	11	
柳原・河内遺跡	2013002	木製品	瓦 瓶 丸	トレハロース	4	
柳原・河内遺跡	2014002	木製品	ショウガん 旗	PEG	4	
三日山遺跡	2015016	木製品	円柱形 旗	PEG	2	
三日山遺跡	2015116	木製品	旗	トレハロース	1	
越後守・足利	2015111	木製品	津野丸	トレハロース	1	
越後守・足利	2015148	木製品	下駄 旗	PEG	2	
越後守・足利	2015148	木製品	津野柄 旗	トレハロース	9	
青銅鏡面鏡	2015183	木製品	津野柄	パラオキドリツ	1	
合 計						1347

遺跡名	調査年号	材 質	目 標	処理方法	点 数	備考
大沢谷内遺跡	1991005	鉄製品	棒状鉄製品 他	クリーニング・ 熱風乾燥	2	
近江守護所	1991008	鐵	鐵	クリーニング・ 熱風乾燥	2	
上土居鬼面	1992008	鉄製品	不明	クリーニング・ 熱風乾燥	3	
船橋山遺跡	1992002	鐵	鐵	クリーニング・ 熱風乾燥	1	
新五兵衛山遺跡	1994007	鉄製品	打 旗	クリーニング・ 熱風乾燥	136	
神明社・真上遺跡	1995006	鉄製品	不明	クリーニング・ 熱風乾燥	2	
若山遺跡	1997005	鉄製品	打 旗	クリーニング・ 熱風乾燥	1	
小阪付村遺跡	2000007	鉄製品	刀子 旗	クリーニング・ 熱風乾燥	6	
合 計						152

表16 平成27年度外部委託保存処理一覧

遺跡名	調査年号	日 標	点 数	施設名	金額(万円)	会社(万円)
舟入遺跡	1993004	瓦	3	元町 2	22,277.640	
北東部墓地	1993003	瓦, 旗, 鉄器, 鎌	3	文部省研究室		4,267.897
小坂付村遺跡	2000002	打 旗	1	文部省		
船橋山遺跡上遺跡	2000005	打 旗	1	文部省	3660.249	文部省研究室
大沢谷内遺跡	2012001	旗, 鉄物, 旗,	9	文部省		
	2013002	打 旗, 旗	6			

## 8 新潟市文化財センター運営協議会

**概要** 文化財センターでは、文化財センターの運営について、市民・学校教育関係者・学識経験者からの幅広い意見を聴取することを目的として、新潟市文化財センター運営協議会（以下「運営協議会」）を平成25年度から開催している。運営協議会を開催にあたっては、開催要項を定め（平成24年12月1日施行）、委員10名を市長が選任し（表17）、事務局は文化財センターに設置している。この運営協議会は原則公開としている。

**第3回運営協議会** 平成27年5月21日（木）に新潟市新津美術館1階レクチャールームに於いて開催した。

第3回運営協議会では、平成26年度事業及び平成27年度事業計画について事務局から報告が行われ、その内容を踏まえて委員による意見交換が行われた。

平成26年度事業報告では、主に文化財センターと古津八幡山遺跡歴史の広場の来館者数や講座・イベント等の実施した事業、実施した本発掘調査及び整理作業、組織目標とその結果等について触れている。

平成27年度事業計画では、文化財センターと古津八幡山遺跡歴史の広場で実施予定の事業、実施予定の本発掘調査及び整理作業、組織目標について説明した。古津八幡山遺跡歴史の広場は平成27年度に全面供用開始されたため、それまでに行われた古津八幡山古墳の発掘調査成果と復元整備の概要や今後の課題についても触れている。

委員からの意見では、運営協議会開催年度の事業計画が議題に挙げられていても、事業計画が決まった後では、意見等を事業計画に改めて反映する事は難しいのではないかという指摘があり。今後は、委員から出される幅広い意見を文化財センターの事業に反映できるように、運営協議会の開催時期等も検討していく必要がある。

運営協議会閉会後は、史跡古津八幡山遺跡を事務局が委員に案内した。

今後も運営協議会を開催し、その意見を参考に文化財センターの活動が市民に浸透し、より活発になるように取り組んでいく必要がある。（金田哲也）

表17 文化財センター運営協議会委員名簿（平成27年度）

委員長	高橋裕子 新潟市立長谷川小学校長・全国公民理事会 事務局長 (元) 加賀市立柏原文化園企画委員会議長
委員	長井久美子 新潟市立長谷川小学校会員 三ツ丸耕子 「古跡」新潟県埋蔵文化財調査委員会議長 野中健彦 新潟市立豊島南小学校校長 井井良二 新潟市立黒崎中学校校長 渡邊直人 新潟市立黒崎南小学校PTA会長 小林也男 木場地区連合自治会長 渡辺順子 新潟市埋蔵文化財ボランティア 田澤朝夫 云雀丘会員

## 9 決算額

平成27年度における文化財センター決算額は表18の通りである。（福地康郎・上田俊哉）

表18 平成27年度文化財センター決算額

■歳入 (一般会計)	区 分	決算額 (円)
○施設利用料及び手数料		955,400
文化財センター設備使用料		7,800
行政手数料		948,600
○国庫支出金		50,333,000
市内道府県調査等補助金事業費		12,586,000
補助金文化財保護費		6,475,500
両替地(川崎場整備施設調査会費)		465,000
両替地(川崎場整備施設調査会費)		17,841,000
両替地(川崎場整備施設調査会費)		125,000
佐渡町会(川崎場整備施設調査会費)		585,000
古津八幡山遺跡史跡保存管理計画策定事業費		2,000,000
古津八幡山遺跡及びデザイン施設設計・活用事業		2,720,000
文芸財センター音楽・芸術事業		7,631,000
○譲受料		358,678,800
渋谷地(川崎場整備施設調査会費収取人)		8,370,000
両替地(川崎場整備施設調査会費収取人)		321,488,000
足利地(川崎場整備施設調査会費収取人)		2,250,000
佐渡町会(川崎場整備施設調査会費収取人)		10,530,000
小堀根祭急発掘調査会費収取人		16,580,000
○補助		113,660
合 計		411,303,860
■歳出 (一般会計)	区 分	決算額 (円)
○市内道府県調査等補助金事業費		27,435,989
○補助文化財本体充換調査会費		396,912,000
渋谷地(川崎場整備施設調査会費)		9,300,000
両替地(川崎場整備施設調査会費)		356,832,000
足利地(川崎場整備施設調査会費)		2,500,000
佐渡町会(川崎場整備施設調査会費)		11,700,000
小堀根祭急発掘調査会費		16,580,000
○古津八幡山遺跡史跡保存管理計画策定事業費		4,000,000
○WTA古津八幡山遺跡及びデザイン施設管理運営費		18,722,579
○文化財センター管理運営費		78,801,426
合 計		525,872,035



新潟市文化財センター外観

## IV 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」には、ガイダンス施設である「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」と堅穴住居等が復元されている「史跡公園」がある。平成26年度に古津八幡山古墳及び周辺の復元整備工事が完了し、それまで古津八幡山遺跡歴史の広場は一部供用されていた状態であったが、平成27年4月17日より全面供用開始となった。

全面供用開始に合わせて、交通量の多い国道403号線から古津八幡山遺跡歴史の広場へ行くための交差点に道路標識を設置した（平成27年3月）。さらに、交差点沿いに看板を設置し、通行者の目に触れるようにした。その後、看板は後述する企画展の宣伝に利用している。

史跡古津八幡山遺跡の概要や整備の概要、古津八幡山遺跡歴史の広場の詳細な施設情報については、「年報」第1号に記載されている（渡邊2014c）。また、これまでの経過も「年報」第1～3号の通りである（渡邊2014cほか）。



看板設置状況

表1 平成27年度弥生の丘展示館企画展一覧

企画見 の番号	企画名	会 期	企画担当	参加者数 (人)	開催場所・講師会・イベント		
					開 催 日	講 師	参加者数 (人)
1	古津八幡山古墳の復元と復元整備 －4月28日(日)－	相田春代	20257		古津八幡山古墳の復元と復元整備 －歴史的背景と今後の展望－	吉井 雅氏 (新潟市古津八幡山遺跡歴史委員会文化財部会員)	47
2	古津八幡山の墓 －30・4月(火・水)－	相田春代	34377		墓における古墳時代 墓室空間復元模型「ひづて」	吉井 雅氏 (新潟市立大学文学部准教授)	35
3	古跡古墳の復元 －22・23・24(土・日)－	高瀬慎和	3554		古跡・古墳をめぐる古津八幡山古墳 －古代の埋葬地の「土器から見る－	吉井 雅氏 (新潟市古津八幡山遺跡歴史委員会文化行政課)	32
4	新潟古跡の復元2 －古文のあらまき土器 －新潟県立(「何習む」)の復元－	2016/4/5 (火) -3/27 (日)	高瀬慎和	4280	古跡古墳をめぐる古津八幡山古墳 －古代の埋葬地の「土器から見る－」 －いろいろかわせて あたる 新潟県立(「何習む」)の復元－	吉井 雅氏 (新潟市古津八幡山遺跡歴史委員会)	38
特別企画展							
企画見 の番号	企画名	会 期	企画担当	参加者数 (人)	開催場所・講師会・イベント		
					開 催 日	講 師	参加者数 (人)
1	古津八幡山古墳の復元と復元整備の紹介 －4月21・22(土・日)－	2015/4/21 (土) -22 (日)	高瀬慎和	1,200	吉井 雅氏 (新潟市古津八幡山遺跡歴史委員会文化行政課)	15	
2	結でぬくむかしの日本 －平川昭子原風景－	2015/9/15 (火) -9/27 (日)	高瀬慎和	1119	セリフカード 吉井 雅氏 『くまくまノイズ』 吉井 雅氏(プロゼン)	19 13 11 28 3	

(2) 企画展1「古津八幡山古墳の築造と復元整備」

会期 平成27年4月7日(火)～6月28日(日)

担当 相田泰臣

来館者数 20257人

展示概要

平成23～25年度に行なった復元整備のための発掘調査の結果、古津八幡山古墳は直径60mで、墳丘斜面ほどに幅約4～5mの平坦面(テラス)が巡る新潟県最大の大形円墳であることが明らかとなった。古墳が造られた年代は、出土遺物や築造方法等から、約1,600年前(古墳時代中期初頭前後)と推測されている。

また、古墳の南西部に巨大な周濠を掘って出た土を、主に古墳の盛土として利用し、墳丘の中心には小丘を、墳丘の外縁には土手状盛土を水平面を形成しながら墳丘を高くする築造方法等が判明した。

企画展では、調査で明らかとなった古津八幡山古墳の築造方法に焦点を当て、土地の選地から完成までの流れや、築造方法の特徴等について展示・解説を行った。

展示構成

- 1) 古津八幡山古墳の調査経過
- 2) 復元整備のための確認調査
- 3) 古津八幡山古墳が造られる以前
- 4) 古津八幡山古墳の造り方
- 5) 古津八幡山古墳の剥ぎ取り土層
- 6) 古津八幡山古墳の復元整備工事

**主要展示** 古津八幡山古墳の築造方法について、墳丘断面図の模式図を使い、古墳が造られる前の地形から、古墳が完成していくまでの変遷を示した。

また、場所による盛土の特徴や、利用した土の違い等について解説を行った。

なお、平成24年度の発掘調査で剥ぎ取りを行った古墳中心部の剥ぎ取り土層については、当初、特別企画展1で展示をしていたが、特別企画展1が終了した5月7日以降は、本企画展で展示した。ただし、スペースの都合もあり、土層の一部のみの展示となつた。また、弥生の丘展示館展示室入口前に常設で展示している古津八幡山古墳の剥ぎ取り土層と併せて、企画展の中で解説を行った。

**関連講演会** 企画展の関連講演会を1回開催した。

演目 古津八幡山古墳の過去と未来

－歴史的意義と保存活用－

講師 若狭 徹氏(高崎市教育委員会)

日時 平成27年4月29日(水・祝)

午後1時30分～午後3時

会場 新潟市新津美術館レクチャーノーム

参加者 67人

**展示解説** 展示担当による展示解説を開催した。

日時 平成27年5月6日(水・祝)

午後1時30分～午後3時30分

参加者数 15人

**弥生の丘展示館**で企画展の解説を行った後、新潟市新津美術館市民ギャラリーへ移動して、特別企画展1で展示中の剥ぎ取り土層を見学しながら解説を行った。

**来館者の声** 企画展関連講演会では、企画展に加え、講演会場の新潟市新津美術館で開催中であった特別企画展1の展示を同時に見ることができ、古津八幡山遺跡についての理解が進んだという意見があった。

また、古墳中心部分の剥ぎ取り土層については、当時の人々の土木技術や様々な工夫がうかがえるといった感想があった。剥ぎ取り土層は、他の広い場所で展示することを検討したらどうかという意見もあった。

**まとめ** 現在、古津八幡山遺跡歴史の広場では、復元整備された古津八幡山古墳を見学したり、古墳の頂上に登ったりすることができるが、企画展は、普段外からは見ることのできない古墳内部の土の状況や築造方法に焦点を当てた展示であった。

なお、弥生の丘展示館のガイドダンスシアターにおいて、平成23～26年度にかけて実施した古津八幡山古墳の確認調査や復元整備工事の記録映像を平成27年度から新たに追加したが、この映像の中でも、古津八幡山古墳の築造方法についてC.G等による解説を行っている。

展示了古墳中心部分の剥ぎ取り土層については、合計約11mもあることから展示場所が限られている。また、剥ぎ取りは十字方向で行っており、まだこれまでに展示をしていない剥ぎ取り土層も存在する。剥ぎ取り土層は当時の土木技術や盛土の違い等を直接見ることのできる資料であり、今後、展示の方法等について検討していきたい。

(相田泰臣)



展示風景(展示室)

### (3) 企画展2 「蒲原の王墓

#### 古津八幡山古墳と豪族の屋敷】

会期 平成27年7月7日(火)～10月4日(日)

担当 稲田泰臣

来館者数 34,377人

展示概要 文化財センターで平成27年4月7日から5月12日にかけて開催した企画展1（Ⅱ5(2)）と概ね同じ展示内容・構成である。

#### 展示構成

- 1) 豪族の屋敷(居館)について
- 2) 新津の陵墓の古墳時代の遺跡
- 3) 舟戸遺跡の調査成果
- 4) 古津八幡山古墳が造られた頃の周辺の遺跡
- 5) 中田遺跡・沖ノ羽遺跡・塙字遺跡
- 6) 古津八幡山古墳の復元整備工事

関連講演会 企画展の関連講演会を1回開催した。

演目 越佐における古墳時代豪族居館関連遺跡について

講師 橋本博文氏(新潟大学人文学部教授)

日時 平成27年7月18日(土)

午後1時30分～午後3時

会場 新潟市新津美術館レクチャーノム

参加者 85人

展示解説 展示担当による展示解説を開催した。

日時 平成27年8月16日(日)

午後1時30分～午後3時30分

参加者数 15人

来館者の声 関連講演会では、近くに豪族居館があるかもしれない。大変興味深いという意見があった。また、佐渡の遺跡についても知ることができ良かった、佐渡に前期古墳があるとおもしろい等の意見もあった。他に、県内または県外の古墳の日帰り見学ツアーを企画して欲しいという要望もあった。

まとめ 古津八幡山古墳は県内で最も大きく、蒲原平野の各地域の豪族が共同して推し立てた王(有力な豪族)の墓であった可能性が考えられている。

また、各地の事例から、古墳を造った豪族の多くは古墳の近くに屋敷(居館)を構えていたことが分かっている。古津八幡山古墳を造った豪族の屋敷の所在は確定していないが、古津八幡山古墳は丘陵の北端に造られており、古墳を望むことのできる北側の麓に存在する可能性が高い。

古墳を造るには多くの労力が必要で、完成までに長い期間を要する。そのため、多くの古墳は将来被葬者となる豪族が生前から造り始め、完成後には古墳の上から自

分が治める土地や人民を眺め、褒め称えたとされる。

平成26年度に古津八幡山古墳の復元整備工事が完了し、平成27年4月17日より歴史の広場は全面供用が始まっている。古墳の頂上に登ると、北や北西方向の眼下に越後平野が広がり、西の方向では角田山、弥彦山、北方では信濃川や阿賀野川の河口付近まで見渡せる。条件が良ければ佐渡の輪郭も見ることができる。古津八幡山古墳を造った豪族も、生前にこのような風景を眺めていた可能性がある。

(相田泰臣)



## 蒲原の王墓 古津八幡山古墳と 豪族の屋敷

■■■ 2015年 7月7日㈬～10月4日㈰ ■■■  
■■■ 7月18日㈯ 8:30～10:30 240円 ■■■ 9月14日㈯ 8:30～10:30 ■■■  
■■■ 7月18日㈯ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月14日㈯ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月16日㈮ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月15日㈰ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月17日㈯ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月16日㈪ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月18日㈯ 16:00～18:00 240円 ■■■ 9月17日㈫ 16:00～18:00 ■■■  
■■■ 7月19日㈰ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月18日㈬ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月20日㈭ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月19日㈭ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月21日㈮ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月20日㈮ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月22日㈯ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月21日㈯ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月23日㈰ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月22日㈰ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月24日㈪ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月23日㈫ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月25日㈫ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月24日㈬ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月26日㈬ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月25日㈭ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月27日㈭ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月26日㈮ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月28日㈮ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月27日㈯ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月29日㈯ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月28日㈰ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月30日㈰ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月29日㈪ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月31日㈪ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月30日㈫ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月32日㈫ 13:30～15:30 240円 ■■■ 9月31日㈬ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月33日㈬ 13:30～15:30 240円 ■■■ 10月1日㈭ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月34日㈭ 13:30～15:30 240円 ■■■ 10月2日㈮ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月35日㈮ 13:30～15:30 240円 ■■■ 10月3日㈯ 13:30～15:30 ■■■  
■■■ 7月36日㈯ 13:30～15:30 240円 ■■■ 10月4日㈰ 13:30～15:30 ■■■

ボスター



展示風景（展示室）



関連講演会風景（越佐における古墳時代豪族居館関連遺跡について）

IV

新潟市古津八幡山古墳  
歴史の伝承

(4) 企画展3 「邪馬台国の時代1  
北陸と会津を結んだ古津八幡山  
—東北南部(会津)の世界—」

会期 平成27年10月6日(火)～12月27日(日)

担当 渡邊朋和

来館者数 8,554人

**展示概要** 会津では弥生時代後期後半になると、東北系(天王寺式)に対し、北陸系土器の比率が徐々に増えている。また堅穴住居の平面形も円形や楕円形から北陸と同じ隅丸方形に変化する。福島県桜町遺跡で多数発見されている方形周溝墓や前方後方形周溝墓・前方後円形周溝墓等の墳墓も北陸に起源があると考えられる。

弥生時代後期の新潟県では、阿賀野川以南では北陸系土器や隅丸方形の堅穴住居があり、阿賀野川以北では東北系土器や円形や楕円形の堅穴住居が造られていた。古津八幡山遺跡はちょうどその中间点にある。検出された約50棟の堅穴住居は全て隅丸方形であるが、北陸系・東北系土器が共に出土しており、方形周溝墓・前方後方形周溝墓も見つかっている。交通の要衝になった古津八幡山遺跡が北陸と会津を結ぶ役割を果たしたと考えられる。

**展示構成** 会津の弥生時代後期初頭から古墳時代初頭の土器を古いものから順に展示了。中でも桜町遺跡出土の土器・堅穴住居・墳墓の変遷等に着目した。桜町遺跡は古津八幡山遺跡と同じように、北陸系・東北系・折衷系の土器が出土し、弥生時代後期初頭から古墳時代初頭まで長期に継続した特異な変遷である。桜町遺跡で提出された桜町1・2式・3式が(福田2011)、概ね八幡山2期・3・4期・5期に併行することを確認するとともに、桜町1式以後、東北系に対し北陸系土器の比率が徐々に増えている。桜町3式になると北陸系土器が9割に達することを示した。また、桜町遺跡等の会津で検出に達することを示した。また、桜町遺跡等の会津で検出に達することを示した。

最後に、新潟・会津の弥生時代後期終末から古墳時代前期の文化の起源と考えられる富山市千坂山遺跡群・向野塚墳墓等のパネルを比較資料として展示了。

**主要展示** 会津における古津八幡山遺跡併行期の弥生時代後期から古墳時代初頭の土器を福島県文化財センター白河館・会津坂下町教育委員会から借用し展示了。

八幡山0期併行 開津台畠遺跡・和泉遺跡

八幡山1期併行 能登遺跡・細田遺跡

八幡山2期併行 屋敷遺跡・館ノ内遺跡

八幡山2期～5期併行 桜町遺跡構造一括資料

八幡山5期併行 福井塚遺跡

八幡山5期併行以降 宮東遺跡

当該期の喜多方市・富山市の周溝墓・墳墓のパネル。

**関連講演会** 企画展の関連講演会を開催した。

演目 北陸と会津を結んだ?古津八幡山遺跡

～弥生時代後期の村・土器から探る～

講師 滝沢規則氏(新潟県教育庁文化行政課)

日時 平成27年10月25日(日)

午後1時30分～3時30分

会場 新潟市新津美術館市民ギャラリー

参加者数 52人

講演は、考古学の特性から始まり、弥生文化とは何か、古津八幡山遺跡の状況、会津の状況と丁寧な説明で一般的な参加者にも分かり易く好評だった。新潟と会津の関係に関しては、新潟にある大規模な環濠集落の終焉と、北陸系土器が会津に入ってくる時期が同時期であり、古津八幡山遺跡で環濠が埋まり遺跡が衰退する澁澤3期頃(澁澤2013)から桜町遺跡では北陸系の比率が徐々に増し、次の澁澤4期になると東北系と北陸系の比率が逆転するから、古津八幡山遺跡は、むしろ富山等の北陸東部と会津の交流を制御していたのではないかとした。

**展示解説** 展示担当による展示解説を開催した。

日時 平成27年12月6日(日)

午後1時30分～午後3時30分

参加者数 7人

参加者は北陸と会津の関係について熱心に聞き入っていました。

**来館者の声** 新潟と会津との交流ということもあり、会津からの来館者が多かった。桜町遺跡のある福島県河沼郡湯川村から来たの方々は桜町遺跡の重要性について再認識されたようだった。

**まとめ** 弥生時代後期から古墳時代初頭の北陸東部と会津の関係を考える際に、古津八幡山遺跡の存在を看過することはできないが、どのような役割を担っていたのか解明するためにはさらなる調査・研究が必要である。(渡邊朋和)



展示風景(展示室)

(5) 企画展4 「邪馬台国の時代2  
縄文のある弥生土器  
—新潟県北部（阿賀北）の世界—」

会期 平成28年1月5日（火）～3月27日（日）

担当 渡邊朋和

来館者数 4,780人

**展示概要** 弥生時代中期後半には、新潟県北部（阿賀北）では秋田系（宇津ノ台式）、北陸系（小松式系）、会津系（川原町口式）の3系統の土器が主に使われていた。各系統の要素を併せ持った折衷土器も多く作られた。日本海を中心に北陸と秋田・会津をめぐらしていたのが主に阿賀北の海岸部から砂丘地帯や、内水面地帯だったと推測される。後期になると、このような社会情勢を背景として、各系統の要素を取り入れた日本海側の天王山式土器として「砂山式」が成立した。

阿賀北では、遅くとも中期後半には北陸系土器と共に農耕がもたらされる。しかし、後期になると東北系（天王山式系）が主体となり、北陸系土器が少なくなると共に、農耕の痕跡を見られなくなる。一方で、後期になると富山県や石川県等でも天王山式系土器が出土するようになる。中期後半には北陸と秋田の人々が阿賀北で交流をしていたが、後期になると阿賀北の人々が直接北陸へ向けて交流をするようになったものと考えられる。阿賀北で見つかっている縄文土器、ガラス玉、鉄器・青銅器等は広域の交流を物語る。北陸系土器が主体になり、この地域の社会が大きく変化するのは、古津八幡山遺跡が廃絶される古墳時代早期（八幡山5期）以降のことである。

**展示構成** 阿賀北の弥生時代中期後半から後期、古墳時代初頭の弥生土器、縄文土器・石器、金属製品等を、新潟市教育委員会・胎内市教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・村上市教育委員会から借用して展示了。遺物キャビションには系統毎に異なる色の丸いシールを貼り、来館者にも分かり易いよう配慮した。また、中期後半に農耕文化が伝わることを大形石版丁・耕直土器を展示することで紹介した。

**主要展示** 中期後半の資料として狐塚遺跡・道端遺跡・六百地遺跡・長松遺跡・中曾根遺跡・砂山遺跡。そして、標識遺跡である山草荷遺跡の写真、系統毎のパネル及び隣接する王子山遺跡の土器・石器。

後期の資料として砂山遺跡・堂の前遺跡・松影遺跡・山元遺跡・渟ノ前遺跡。終末期の資料として正尺C遺跡・狐森遺跡・衣田遺跡・大塚遺跡等の土器等である。

発見された遺構は、写真パネル・遺構平面図で展示した。

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演目 古津八幡山遺跡から見た卑弥呼の時代の阿賀北－いろいろわかつてきた弥生時代  
後期の新潟県北部－

講師 野田豊文氏（村上市教育委員会）

日時 平成28年3月6日（日）

午後1時30分～3時30分

会場 新潟市新津美術館レクチャールーム

参加者数 68人

弥生時代・弥生土器とはどのようなものかという概説があり、その後、当時の生活について「魏志倭人伝」の詳しい説明があった。「魏志倭人伝」に書かれた内容は西日本のことではあるが、弥生時代の姿を具体的にイメージするには大変に有効であった。その後、東日本・新潟県・阿賀北と順に説明がなされた。

阿賀北では後期前半には住居形態・土器等が殆ど東北系で占められるか、北陸との関係は少ない。一方、古津八幡山遺跡は隅丸方形の住居形態や北陸系・東北系土器があり、折衷土器（八幡山式）も見られることから北陸との関係が強かった。その後、後期後半になると阿賀北でも北陸系土器が出土するようになるため、阿賀北の人々はそれまでの山に依存していた暮らしから、砂丘にて海路を使って色々な情報交換をしたり、物々交換をしたりするようになったと締めくくられた。

**展示解説** 展示担当による展示解説を開催した。

日時 平成28年1月24日（日）

午後1時30分～3時30分

参加者数 2人

真冬日で雪が降るあいにくの天候だったため、参加者は少なかったが、熱心に聞き入っていた。

**来館者の声** 阿賀北をテーマにした展示だったために、特に村上市からの来館者が多かった。古津八幡山遺跡と山元遺跡の関係について関心があるようだった。

**まとめ** 新潟県内の弥生時代中期後半から後期、古墳時代初頭の社会・文化の動向はダイナミックであり、広域の調査研究が不可欠である。  
(渡邊朋和)



関連講演会風景（古津八幡山遺跡から見た卑弥呼の時代の阿賀北）

- (6) 特別企画展1 「史跡古津八幡山遺跡の発掘調査と復元整備の歴史」
- 会 場 新潟市新津美術館市民ギャラリー
- 会 期 平成27年4月21日(火)～5月6日(水)
- 担 当 渡邊朋和
- 来館者数 1,200人
- 展示概要 古津八幡山遺跡が発見されてから30年、新潟県内最大の古津八幡山古墳の公開、古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用開始に合わせた企画展である。
- 古津八幡山遺跡は1987(昭和62)年に金津丘陵で計画された大規模な土取り工事に伴う確認調査で発見された。日本海側最北の高地性環濠集落と大規模な製鉄遺跡群が発見され、全国規模の遺跡保存運動や地元を中心とする遺跡保存運動により遺跡の主要範囲が現状のままに保存され、2005(平成17)年に国の史跡に指定された。そして堅穴住居や環濠、古墳等の復元整備工事が行われ現在に至っている。今では年間何万人もの来場者が訪れる史跡公園となっているが、ここに至るまでは多くの方々のご尽力に掛けるところが大きい。古津八幡山遺跡が発見されてから現在に至る歴史を、関係者の皆様への感謝の気持ちを込めて企画展を開催した。
- 展示構成 主要展示 発掘調査・遺跡保存運動・国史跡指定・史跡の復元整備工事、そして日々の保存管理や活用事業等。古津八幡山遺跡が発見されてから現在に至るまでの歴史を辿り、これまでの発掘調査や復元整備等の記録を示した。保存されている公文書・図面・写真・遺物等を展示了した。
- なかでも、弥生の丘展示館では展示室の面積が狭く十分な展示ができなかった遺跡保存運動の歴史については、遺跡保存望書及び回答、各種団体からの保存署名簿・新聞報道等を展示することができた。また、全長10mもあり、なかなか展示する機会の少ない古津八幡山古墳の埴丘盛土の土層剥ぎ取りパネルを展示了。
- 併せて、古津八幡山遺跡山麓や近隣の金津丘陵製鉄遺跡群で調査された奈良・平安時代の鐵づくりの様子を出土遺物やパネルで展示すると共に、実物大で箱形炉の復元模型を展示了。
- 展示構成は以下の通りである。
- 1) 古津八幡山遺跡発見前史
    - ①古津八幡山遺跡・金津丘陵製鉄遺跡群の発見
    - ②柿田谷の造成(1972～1973年)
    - ③新潟県教育委員会による詳細分布調査(1985年)
  - 2) 開発計画と古津八幡山遺跡の発見(1986～1987年)
    - ①開発計画がおこる
    - ②古津八幡山遺跡の発見 - 弥生時代の高地性集落と古墳の発見 - (1986～1987年) 1・2次調査
    - 3) 発掘調査の進展と遺跡保存運動(1988～1990年)
      - ①発掘調査の進展 3・4・5次調査
      - ②遺跡保存運動の高まり
      - ③現状保存範囲の決定 6・7次調査
    - 4) 遺跡の保存と「花と遺跡のふるさと公園」事業(1991～1992年)
      - ①記録保存のための発掘調査 8次調査
      - ②新潟大学による古津八幡山古墳の測量調査
      - ③花と遺跡のふるさと公園整備事業
    - 5) 史跡指定と保存整備を目的とした発掘調査(1993～2013年)
      - ①遺跡範囲の拡大や新たな環濠・方形周溝墓の発見 9・10・13・14次調査
      - ②国指定史跡になる 15・16次調査
      - ③古津八幡山古墳の確認調査 11・12・17・18・19次調査
    - 6) 史跡保存整備事業のあゆみ(2004～2015年)
      - ①保存整備の基本計画
      - ②保存整備工事
      - ③史跡古津八幡山遺跡 弥生の丘展示館
    - 7) 金津丘陵製鉄遺跡群 - 「金津」の地名の由来 -
      - ①鉄製品ができるまで
      - ②金津丘陵の鉄づくり
      - ③さわってみよう - 磁石につくものはどれ? -
    - 8) 未来に向けて - 史跡の保存・活用と調査・研究 - 展示解説 展示担当による展示解説を開催した。

日 時 平成27年5月3日(日)  
午後1時30分～3時30分

参加者数 16人

来館者の声 歴史の広場としてきれいに復元整備されている古津八幡山遺跡の歴史がわかった。当初の予定通りに開発計画が進めば、土取りによって何も無くなつたかもしれない。保存運動等の成果で遺跡が残され、史跡に指定された本当に良かったという声が多數あった。

ま と め 発掘調査に参加された作業員の方々等の苦労された関係の方々が大勢来て下さった。また、古津八幡山遺跡の歴史を、多くの方々から理解していただけて良かった。

遺跡保存運動の歴史は、史跡古津八幡山遺跡の根幹に関わることであり、本来弥生の丘展示館の常設で展示しなければならないものであることを、企画展のための調査で再認識した。今後、展示やガイドブックのような形で紹介する必要があろう。また、発掘調査は1987年に始まった第1次調査から2013年の第19次調査まで行われ

ているが、まだ、解明しなければならない課題も多く残されている。

文化財センター企画展 企画展は第2会期として会場を文化財センターに移し、規模を縮小して展示を行った。

会 場 新潟市文化財センター

会 期 平成27年5月19日（火）～7月12日（日）

担 当 渡邊朋和

来館者数 1,722人

文化財センター企画展関連講座 企画展の関連講座を開催した。

演 目 古津八幡山遺跡の

発掘調査と復元整備の歴史

- 史跡古津八幡山2,000年の歴史 -

講 師 渡邊朋和

日 時 平成27年5月31日

午後1時30分～午後3時

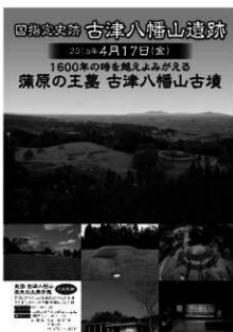
会 場 新潟市文化財センター研修室

参加者数 25人

展示構成に沿って、弥生時代に古津八幡山遺跡に人々が暮らすようになってから現在に至る2,000年の歴史を話した。

おわりに 史跡古津八幡山遺跡は、大勢の方々の努力で現状のまま保存され今に至っている。新潟県内最大の古津八幡山古墳が復元整備され、弥生時代から古墳時代の移り変わりが一つの遺跡で分かるようになった。古津八幡山遺跡は未調査部分があり、今後の調査で新たな環濠が発見される可能性がある。また、古津八幡山古墳を築いた豪族の屋敷（居館）の場所が未定であり課題である。

（渡邊朋和）



チラシ表（全画面用開始）



IV

新潟市古津八幡山遺跡  
史の伝承

公 告 平成27年5月19日～7月12日

休 開 日 年末年始～例年同様の場合は翌日  
開設時間 午前9時～午後3時  
料金無料

チラシ表（文化財センター企画展）



展示風景（新潟市新津美術館市民ギャラリー）



展示解説風景（新潟市新津美術館市民ギャラリー）

(7) 特別企画展2 「絵で見るむかしの日本  
—早川和子原画展—」

会 場 新潟市新津美術館市民ギャラリー

会 期 平成27年9月15日(火)～9月27日(日)

担 当 渡邊朋和

来館者数 1,119人

**展示概要** 弥生の丘展示館では、小さなお子さんにもイメージしやすいように展示ケース全面に早川和子さんの復元画を展示しており大好評である。

特別企画展2は史跡古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用開始に合わせて、早川和子さんが描かれた日本全国の主要な復元画と共に、遺跡や遺物の写真パネルと一緒に展示了。子供から大人までの広い世代の方々に遺跡や歴史に親しみを抱き、興味を持つきっかけになることを意図した企画展である。

早川和子さんの復元画には発掘調査の成果を手がかりに当時の人々が生活していた様子が分かりやすく具体的に描かれている。日本の歴史を視覚的に理解するために描かれた復元画であるが、早川和子さんの描く各時代に生きた人々の姿は私たちをその時代へ誘ってくれる。

**展示構成・主要展示** 早川和子さんからお借りした原画207点や各機関より提供を受けたデジタルデータより出力した原画98点の合計305点を概ね時代順に展示了。併せて復元画をつくる基になった遺跡・遺物の写真パネルを展示了。その他新聞に掲載されたイラスト原画も展示了。デジタル出力画を含めているが、これまでに各地で行われた早川和子さんの原画展ではおそらく最大規模と考えられる(表2)。

展示構成と主な遺跡は下記の通りである。

1) 古石器時代・縄文時代

三内丸山遺跡・馬高遺跡等

2) 弥生時代・「考古学的なしいの2・3」原画

吉野ヶ里遺跡・西谷墳墓群・古曾部・芝谷遺跡等

3) 古墳時代

今城塚古墳・新池埴輪製作遺跡

4) 飛鳥時代

飛鳥池遺跡・藤原宮跡等

5) 奈良時代・平安時代・近世

平城宮跡・長屋王邸宅跡・諸侯国分寺跡等

6) ドイツ展・新聞イラスト

7) 教科書・各種書籍などの原画

「よみがえる古代の日本」原画等

8) 古津八幡山遺跡

**主要展示** 早川和子さんが描かれた各時代のイラストを展示了が、特に吉野ヶ里遺跡と同時代の弥生

時代・古墳時代のイラストをできるだけ多く展示するよう心がけた。また、弥生の丘展示館の展示で使用している12枚の原画を初めて展示了。

復元画ではないが、弥生時代をテーマに書かれた『考古学はたのしい2 海をわたって来た人々』・『考古学はたのしい3 戦争が始まった』(小学館)の原画を展示了。2冊の絵本は西日本の弥生時代を題材に描かれており、弥生文化が朝鮮半島から九州に伝わったことや、ムラとムラの戦争の様子がいきいきと描かれている。この原画によって古津八幡山遺跡の頃の弥生時代の生活や防衛の集落の様子がイメージできたのではないかと思われる。

**関連イベント**

イベント ギャラリートーク(展示解説)

日 時 9月20日(日)

午前11時～12時、午後3時～4時

参加者数 19人

早川和子さんに発掘調査された遺跡からどのように昔の生活をイラストにしていくのか、作品を解説しながら、その裏話も語っていた。

イベント 絵本づくり・ぐるくるアニメ

日 時 9月21日(月・祝日)

午前10時～12時、午後1時～3時

参加者数 14人(絵本づくり)、28人(ぐるくるアニメ)

早川和子さんの指導により、クレバスを使って絵本づくりやぐるくるアニメを作りました。

イベント 似顔絵プレゼント

日 時 9月20日(日)、9月21日(月・祝日)

参加者数 13人(20日)、5人(21日)

早川和子さんの絵本を買っていただいた方に、早川さんが似顔絵を描いて差し上げた。

**来館者の声** 優しく親しみのある絵で、「見て見いるのはのどのとする。遺跡や歴史に触れるきっかけになった」「当時の人々の暮らしの様子がよく分かった」という感想を多数いただいた。

**まとめ** 企画展ではデジタル出力画も展示したが、原画が持つクレバスの発色の素晴らしいさや迫力と比較すると見劣りがし、全て原画で展示できなかったのが残りであった。また、復元画とともに遺跡・遺物写真をパネルで示したが、遺物そのものの展示が古津八幡山遺跡出土資料に限られたことも残念であった。

**文化財センター企画展** 第2会期として会場を文化財センターに移し、規模を縮小して展示了を行った。

会 場 新潟市文化財センター

会 期 平成27年10月14日(水)～11月23日(月)

来館者数 1,334人

(渡邊朋和)

表2 絵で見るむかしの日本—早川和子原画展— 展示資料リスト

表2 絵で見るむかしの日本—早川和子原画展— 展示資料リスト

#### ● 重要事項



展示場所：(新潟市新津美術館市民ギャラリー)



ギャラリートーク風景（新潟市新津美術館市原ギャラリー）



絵本づくり（新潟市新津美術館レクチャールーム）



似顔絵プレゼント（新潟市新津美術館市民ギャラリー）

## 2 教育普及活動

### (1) 体験学習

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでも体験できる事前申し込み不要の体験学習メニューを毎月に決めている（表3・4）。平成27年度は新たに有料の屋内体験として弥生染めを始めた。

平成27年度の体験学習の参加者数は、個人9,827人（前年度比4,035人増）、団体1,937人（前年度比14人減）、全体会11,764人（前年度比4,021人増）であり、平成26年度よりも個人の参加者数が大幅に増加しており、結果全体の参加者数も増加している。この理由は、弥生の丘展示館の来館者数が大幅に増加したためであり、(3)で後述する。団体の体験学習参加者数は平成26年度と大きく変化していない。

団体の利用については、概ね10人以上の団体の場合には事前に申し込みをお願いしている（表5・6）。平成27年度は団体利用件数101件（前年度比17件増）、利用人数3,278人（前年度比319人増）であった。団体利用が多い小学校の利用も平成26年度より増加（前年度比団体利用件数2件、利用人数267人増）しており、古津八幡山遺跡とその教育普及活動の知名度が徐々に増加し、団体利用する機会も増加していると言える。その他、公民館や自治会、町内会等（前年度比団体利用件数4件、利用人数86人増）や勤く市政教室（前年度比団体利用件数6件、利用人数131人増）も増加してきており、市民の古津八幡山遺跡の知名度と同時に高くなってきてている。

### (2) イベント等

平成27年度は、イベントや体験学習、企画展の情報等をまとめた年間スケジュールを作成し、配布した。また、新潟県教育庁文化行政課が作成しているまいぶんナビにも、イベント等の情報を提供して、掲載してもらっている。

イベントは市報やホームページ等で広報して、事前募集して行うイベントを月に1回から2回程度実施している（表7）。イベントの来館者数の関係からも、40人以下と少人数ではあるが、好評な企画が多い。自然観察等は季節毎に観察対象が異なり、何度もイベントに参加する常連者が多い。弥生時代の米づくりも通年の企画であり、子供を含めた家族での参加も多く、子供が体を動かしながら自然や農業に触れる良い機会と高評価を頂いており、2・3か年にわたりて参加する家族もある。複数回や通年のイベントでは、イベント毎に別のイベントの広報を行なっており、イベント情報を聞いて、別のイベントにも参加する人もいる。

また、当日受付のものでは、例年大規模なイベントと

して、まず6月に新潟県立植物園をメイン会場として行う第14回にいつ花ふるフェスタの協賛イベントとして、複数の体験学習等を行った。平成27年度は歴史の広場が全面オープンしたため、特別に古津八幡山古墳の解説も行っている。体験学習参加者等の延べ人数が9,314人（前年度比345人増）と好評だった。次に、9月には新潟県立植物園で植物園主催の秋の植物園祭りや秋葉区役所主催のアキハアウドアスポーツフェスタと同日開催して、新潟県埋蔵文化財センターと連携してまいぶん祭りを開催し、こちらも延べ人数716人（前年度比92人増）と平成26年度より増加している。

なお、1月には弥生の餅つきを行い、686人（前年度比148人減）と500人を超える参加者がおり、自分達が揚いた餅に舌鼓を打っていた。

### (3) 来館者数

平成27年度の弥生の丘展示館来館者数（表8）は、個人67,960人（前年度比34,554人増）、団体3,278人（前年度比314人増）、全体会1,238人（前年度比34,873人増）であり、平成26年度よりも個人の来館者数が2倍近く増加しており、結果全体の来館者数も大幅に増加している。

この理由としては、隣接する新潟市新津美術館で開催された「山本二三展」と「魔法の美術館展」に多くの観覧者がおり、この観覧者のうち弥生の丘展示館にも来館する人がいたためである。特に「魔法の美術館展」は家族連れを中心に大好評であり、この家族連れのなかで弥生の丘展示館を利用し、体験学習も行う人達が多くいたと考えられる。

一方で、冬季（12～3月）の来館者は6,393人（前年度比11,110人減）と来館者が少なかった。これまでも課題として取り上げられており、対応を行なっているが、なかなか改善が困難である。イベントの開催日や来館者増につながる企画等今後も継続して改善に取り組む必要がある。

（金田拓也）



弥生時代の米づくり（石臼丁や木臼丁での稲刈り）

図3 平成27年度先生の伝承示教体験学習（事前申し込み不要）一覧

表4 平成27年度弥生の丘展示館体験学習参加者数

表8 平成27年度改修の丘展示館来館者数

月	日	日平均			日平均 温度
		晴	阴	雨	
4	26(3)	4,005	327	186	111.07
5	26(3)	6,222	563	740	199.62
6	26(3)	6,222	563	740	200.00
7	26(3)	12,056	363	12,392	202.67
8	26(3)	16,045	169	16,940	203.00
9	26(3)	16,045	169	16,940	203.00
10	26(3)	17,031	202	17,396	203.00
11	26(3)	17,031	202	17,396	203.00
12	26(3)	1,307	36	1,343	96
1	26(4)	1,307	36	1,343	111.00
2	26(4)	1,307	36	1,343	111.00
3	26(4)	1,307	36	1,343	111.00
4	26(4)	1,307	36	1,343	111.00

表5 平成27年度弥生の丘展示館団体利用一覧

1

### 3 古津八幡山古墳復元整備の概要

#### (1) はじめに

平成26年度に古津八幡山古墳を中心とする復元整備工事が完了したことを受け、平成27年4月17日に国史跡古津八幡山遺跡の全面公開開場式が行われ史跡古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用が開始された。なお、古墳等の復元整備工事の詳細については、整備報告書〔相田・渡邉(2015)〕や前号〔川田(2016)〕を参照頂きたい。

また、弥生の丘展示館のガイダンスセンターにおいて、平成23~26年度にかけて実施した古津八幡山古墳の確認調査や復元整備工事の記録映像を新たに追加した。

#### (2) 現状

史跡公園内にある古津八幡山古墳の頂上からは、越後平野や角田山、彌彦山を望むことができ、天候が良ければ佐渡も確認できる。また、新潟県立やサッカースタジアムのビッグスワン、信濃川や阿賀野川の河口周辺に位置する朱鷺メッセや新潟東港等の建物を目視できる等、田園都市新潟を象徴するような景観が広がっている。

弥生の丘展示館の平成27年度の来館者数は約71,000人で、平成26年度に比べて倍近く増加した。これは隣接する新潟市新津美術館の催しによる影響が主な要因と考えられるが、歴史の広場の全面供用が始まりテレビや新聞、市報等で取り上げられたことや、新たに企画展、特別企画展を行ったことも影響したと推測される。

なお、弥生の丘展示館の開館前後や、開館時でも弥生の丘展示館に来館せずに史跡公園へ行く利用者が一定数いることから、史跡公園の利用者数の実態を把握するため、平成28年3月より弥生の丘展示館の史跡公園へ至る通路に新たにセンサー式の計数機を設置している。

#### (3) 今後の課題

古墳の復元整備工事では、土砂の流出を防止すると共に古墳の形状を分かりやすくする目的で、古墳斜面部分にコクマザサを植栽したが、一部で生育の悪い場所が存在する。今後、改善していく必要がある。

また、古墳の北から北西方向の丘陵斜面の民有地には植林された杉木が広く群生する。高木が多いため、平野部から古墳を目視できる場所が非常に限られている。

古墳は当時、お墓であると同時に集落内外へ見せる役割もあった。古津八幡山古墳も平野側の丘陵北端部に造られており、当時は平野から良く見えたと考えられる。平野から古墳を目視できれば史跡の周知にもつながり、活用面における利点も大きい。将来、平野部に古墳のビュースポットを設ける等し、平野から古墳を目視できるような整備を行っていく予定である。(相田泰臣)



復元整備後の古津八幡山古墳



国史跡古津八幡山遺跡全面公開開場式



古墳斜面のコクマザサの状況



平野から見た古津八幡山古墳

## V 研究活動－資料紹介・研究ノート等－

### 1 新潟市文化財センターの来館者数から見た現状と課題

#### (1)はじめに

文化財センターは平成23年7月30日に開館してから、平成27年度で5年目を迎えている。

文化財センターの基本的な施設情報や年度毎の概要については、既刊の『年報』に記載されている。

文化財センターは開館当初から、常設の展示室を備えしており、また、体験学習を行なう等の教育普及活動を展開している。そのため、開館当初から現在まで文化財センターの来館者数等の統計情報を記録している。開館から5年が経過することで、この統計情報もある程度蓄積されてきたため、この機会に開館当初から平成27年度までの来館者数の推移についてまとめ、今後の文化財センターの事業の参考としたい。

#### (2)来館者数の推移

平成23～27年度までの文化財センターの来館者数をまとめたものが、表1である。来館者数は個人と団体に分かれており、個人が予約等をせずに個々で文化財センターに来館した人である。一方団体は、事前に予約し、展示解説や体験学習等も事前に依頼して、ある程度の人数でまとめて来館した人である。この個人と団体の入数を合計したものが全体の入数となる。

文化財センターが開館した平成23年度は、平成23年7月30日から平成24年3月末日で9,779人が来館した。次年度以降よりも開館日数が圧倒的に少ない状況であるにもかかわらず、次年度以降の年間来館者数に匹敵する入数である。現に、一日の平均来館者数は、季節的な入数差はあるが平成23年度は総じて多い傾向であった。特に、7～9月の開館始めの3ヶ月間は、平成27年度までの一日の平均来館者数の中で1～3番目に多かった月である。これは、文化財センターが開館当時からある程度評判があり、常設展示等も初めて公開されて新鮮であるため、来館者が多くなったと言える。その後、10月になると、文化財センターに興味や関心が高い人々が既に来館てしまい、季節的にも寒くなり外出が控えめになることから、来館者数はある程度減少し落ちていいったと考えられる。

その後、平成24・25年度は年間来館者数が10,000人を少し超える入数で落ちちいでいる。そして、平成26・

27年度には年間来館者数が12,000人を少し超える入数になっており、平成25年度から平成26年度を境に2,000人近く来館者が増加したことになる。この大きな要因としては、平成26年度から新たに企画展を開催したことが挙げられる。1年間の来館者数に変化があれば、一過性の現象とも考えられるが、2年継続している点と特に個人来館者数が平成26年度から1,500人前後増加した点等から企画展の効果の可能性が高い。企画展は年間に4回開催されているが、開催回数と来館者数が比例しているかどうかは、現状では不明である。今後は、開催回数及び会期と来館者数の関係を確認していくことで、開催にかかる経費や労力を見極め、適切な年間の企画展回数及び会期を検討していくことも必要である。

季節的な来館者数の比率の変化は比較的類似している。個人では8月を中心としたその後の月に来館者が多い。これは、夏休みなど学校の長期休暇で小学生を中心個人の来館者が増加するためと考えられる。そのため、3月も前後の月に比べて来館者が増加している。このように、個人の来館者数は8月を中心とした夏季に突出しているため、相対的に冬季は低くなる。一方で、団体の来館者は個人の傾向とは異なり、春季と秋季が多くなっている。これは、文化財センターの団体利用は小学校が多いためである。小学校6学年から社会科で本格的な歴史の授業が始まる。そのため、比較的古い時代を取り上げる春と夏休み明けの秋季に団体利用が集中している。また、文化財センターの特徴として民俗資料も収蔵・管理していることから、小学校3学年の社会科の昔の暮らしを取り上げる秋季から冬季前半にかけても、来館者数が増加している。団体利用は小学校等の授業計画によって、同じ小学校でも利用する年としない年がある。そのため、年度毎に団体の来館者数は増減するが平均的には年々増加傾向である。

#### (3)まとめ

文化財センターの来館者は企画展で増加したが、傾向としては横ばいである。これは、各種事業を展開することで維持できているものであると言える。そのため、事業を継続し現状を維持することは重要である。しかし、可能な範囲で来館者数が微増傾向になるように考えていく必要がある。現状では新規事業を展開することは困難であるため、継続事業に対する広報活動等に力を入れる方法等が考えられる。

（金田拓也）

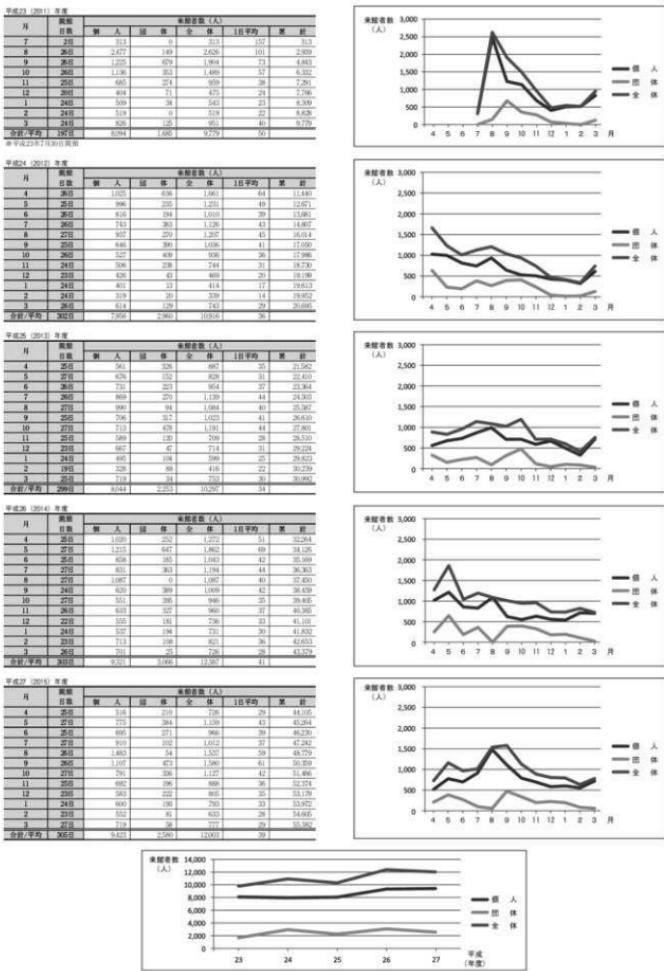


表1 文化財センター来館者数(平成23~27年度)

## 2 チューブ・デコレーション技法の再現実験 —縄文時代前期終末の土器に見られる環状浮線文の施文法について—

### (1) はじめに

平成28年度センター企画展「水辺に栄えた绳文社会」で、角田山麓に分布する前期終末～中期前葉遺跡群を多角的に紹介した。時間軸の設定と空間的な位置づけを意図した土器の展示コーナーでとりわけ目を引いたのは、前期最終に現われる環状の粘土紐貼付土器であった（写真2・1）。環状の粘土紐は、太さ1mm足らず、直径4mm前後の纖細かつ端正なリングをなすことから、指先での製作が難しく特殊な施文法の存在を窺わせた。

前期最終の東日本に分布する「十三普提式土器」では、ソーメン状の粘土紐を器面に貼り付ける手法が発達する。その中には北海道北部の「オホツク式土器」で指摘される「チューブ・デコレーション技法」と同様の手法で製作された資料が存在する可能性が指摘されてきた〔今村1974など〕。一方、オホツク式土器の粘土紐貼付文については、革などを素材とした袋から絞り出す上記の技法自体に否定的な意見がある〔青柳1996〕。現在に至るまでの具体的な再現実験も行われていないようである。

本稿は、この環状の粘土紐貼付文が絞り出しによって製作された可能性が高い、という見通しのもとに行なった実験の結果を示し、十三普提式期に存在したチューブ・デコレーション技法の一端を明らかにしようとするものである。

### (2) 縄文時代前期終末の粘土紐貼付土器

前期終末に盛行する粘土紐貼付土器について概観し、本稿で取り上げるこの浮線文の特異性を明確にしておく。

角田山麓では豈原遺跡〔小野・前山1994〕、重畠遺跡群〔前山1994〕、南赤坂遺跡〔前山2002〕から前期終末「十三普提式期」のまとまった資料が得られている。遺跡ごとに認める様相の違いから、これらは1～3期に大別でき、さらに2期と3期は古段階・新段階の細分が可能である。細い粘土紐の貼付手法は全期間を通じて盛行する

が、施文法には次のようなバリエーションがみられる（写真1）。

A種は太さ3mm前後の粘土紐を貼り付けた後、そのまま同一幅の多載竹管工具で押引くものである。連続的な刺突を加えながら押引く「結節状浮線文」をA1種、刺突が欠落するものをA2種とする。前者は全期間を通して存在するが、後者は3期に限定される。

B種は、太さ3mmほどの粘土紐を貼り付けた後に両端を竹管背面でなぞるもので、2期の新段階から3期にかけてみられる手法である。

C種は、太さ3mmほどのソーメン状の粘土紐を貼り付けるだけのものである。2期から3期にかけて多用される手法であるが、2期では波状をなし、3期では短く直線的な鋸歯状文に変化する。軟らかな状態で粘土紐を貼付したためか、表面に押圧痕を残す資料もみられる。

D種は、径4mmほどの円形粘土を貼付した後、棒状工具の先端で刺突を加える資料である。刺突が器面に達することから、軟らかな状態で貼付したことが窺える。南赤坂遺跡の2期古段階資料に1点確認できるのみである。

E種は、本稿で問題とする環状浮線文である。3期古段階の重畠遺跡群と3期新段階の豈原遺跡で、それぞれ複数資料が出土している。粘土紐の径は1mm前後に過ぎず、A～C種に比べて明らかに纖細である。表面は概ね平滑であるが、粘土紐に沿って連なる数列の平行条線や弱い棱を形成する資料が一部に見られる。剥落箇所には環の痕跡が明瞭に残り、環の一部に破損するものが含まれる点も特徴である（写真2・3・4）。本稿では、様々な名前で呼ばれるこの文様を「環状浮線文」と呼ぶ。

### (3) 環状浮線文の製作実験

前項で指摘した特徴から、環状浮線文は押し出しもしくは、絞り出しによって粘土紐を製作したのち乾燥工程を経て器面に押圧貼付したことを示していくと考えた。以下は、そうした認識に基づき行った再現実験である。

#### A チューブ・デコレーション技法の再現

平成28年2月19日に前山が市販の備前粘土を用いて

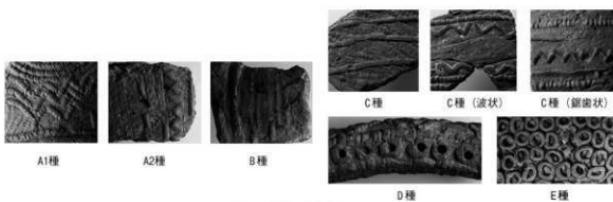


写真1 漢字文の施文バリエーション

再現実験を試みた。最初に着目した素材は、虫喰痕をもつクリの殻である。半削した殻に軟質化させた粘土を詰めて粘土紐の押し出しを試みた。しかし指先での加圧は容易でなく、短く太い直線的な粘土紐がかろうじて作成できるのみであった。その後、対案として素材をポリ袋に変え、針先で小孔をあけて粘土を押し出したところ、太さ1mmほどの粘土紐が弧を描きながら絞り出されることを知った。しかし端正な環の作成は難しく、紙の上に弧状の粘土紐を付着させた後、ヘラで整形することによって類似品を作成するにとどまった。

#### B 環状粘土紐作成法の改良（写真4）

前山による実験から、龍田は縄文時代に存在した素材として動物の腸など伸縮性のある絞り袋を想定した。そして、代替品としてゴム手袋の指部分を使用して平成28年3月24日に実験を試みた。先端にディバイダーで孔をあけ、粘土は前述のものを使いした。先のポリ袋同様に先端を下に向けて絞り出すと、細い粘土紐は自然と丸まって環状になった。環が壊れないよう細心の注意を払って平らな場所に置こうと試みるが、なかなか思うようにいかない。ゴム手袋の先端にできた環状粘土紐は柔らかいと形が崩れ、固まると置くときに壊れてしまう。そこで、竹串の上に乗せるように絞り出してみた。すると、いくつもの環状粘土紐が次々と出来上がった。この日の試行錯誤を繰り返した実験は、約6時間費やして環状粘土紐が20個ほど完成した。実際の縄文土器にみられる環状浮線文に比べると拙いが、これが環状の粘土紐を量産できる方法と考えた。

#### C 自然素材を用いた実験

上記のような初步的実験を通じ、軟質素材に入れた粘土を絞り出して環状浮線文を製作できることを確認したが、縄文時代に存在した素材に基づく再現が不可欠な課題となった。以下に前山・龍田が平成28年7月4・6日と11日に行った実験作業を要約する。粘土は3月24日に作成したものを軟化させて使用し、環状粘土紐採取方法は龍田案に従った。

##### (a) チューブの素材

ポリエチレンやゴムのような柔軟かつ十分な強度をもち、土器製作の適季とされる春や秋（後藤1980）の使用が可能な自然素材を考えるにあたり、環状浮線文の分布状況（図1）は手がかりとなる。現時点で管見にのぼった出土遺跡は17か所を数える。分布域は、能登半島から山形北部までの日本海沿岸、内陸部の山野・山梨、東京湾岸・相模湾岸の神奈川に加え、太平洋の孤島八丈島にまで及ぶ。日本海沿岸・東京湾岸・相模湾岸・八丈島に位置する11遺跡は、海産物の入手が容易な環境にある。い

ずれの遺跡も海産魚類が有力候補になり、富山湾の周辺では海鷹（イルカ）の利用も想定できる。ちなみに、角田山麓の豊原遺跡では前期終末の層準から海産魚類（タイ類・サメ・ヒラメ・サバなど）と淡水産魚類（コイ科など）が出土しており、多種にわたる魚が候補となる。一方、長野・山梨や新潟の内陸部では6遺跡で環状浮線文が出土しているが、円形刺突文を口端や体部に施す最終末（3期）の土器も分布する。施文部位や形状が環状浮線文と類似する点から、竹管工具を用いた置換文様とみなされる資料である。前期終末の中部日本では遊動的な居住形態が指摘されており（今村2010）、環状浮線文施文土器が海岸部から搬入されたことも考えられる。チューブに適した素材を入手しにくい環境を背景に円形刺突文が現われた可能性や淡水産魚類（コイなど）・鳥類（カモ類の一部やキジなど）を利用した施文法が内部にみられる遺跡から想定できる。今回行った実験では、手近に入手できる素材として海産魚類と鳥類の内臓を使用した。前者はスーパーの鮮魚売場で購入した体長31cmのマダイを用い、鳥類は遠藤恭堪（文化財センター）から提供を受けたニワトリで代用した。

##### (b) 穿孔具（写真3）

チューブに設ける小孔の作成にあたり、黒曜石で製作したドリル状の刺突具、サンショウ・ノバラの棘、ヒシの実を用意した。ドリル状の刺突具は樹枝棘やヒシの実の棘に比べ先端部の鋸歯に欠け、ヒシの実の棘は先端に逆棘をもつことから、微細な孔の作出には向きがあった。そこで、穿孔にはサンショウの棘を使用し、粘土紐の絞り出しに適した微細な孔の作出に成功した。なお、ノバラの樹枝棘も類似した形状・硬度を備えることから使用可能な素材となる。

##### (c) ニワトリの内臓を用いた実験（写真5）

小腸と盲腸の内部を洗浄した後、生（最大径：小腸9mm、盲腸18mm）の状態と1分間の煮沸後（小腸：8mm、盲腸14mm）とで7月4・6日に実験を試みた。小腸は煮沸の有無に関わらず強度が不足しており、使用に耐えなかつた。一方、盲腸はある程度の強度をもつことから、煮沸前の両者で環状粘土紐の絞り出しが可能であった。しかし、生の状態では弾力に欠けるためか環の大きさが実資料の半分ほどの2mm弱にとどまった。煮沸後の盲腸は少し収縮したが、強度を増してゴム状になり、径4mm前後の環状粘土紐8点を絞り出すことができた。

##### (d) マダイの内臓を用いた実験（写真6）

生（最大径15mm）および30秒煮沸後の腸（最大径10mm）で7月11日に実験を試みた。両者はともに柔軟であるが、生の状態の方が弾力に富んでおり、一端を結んで作成し

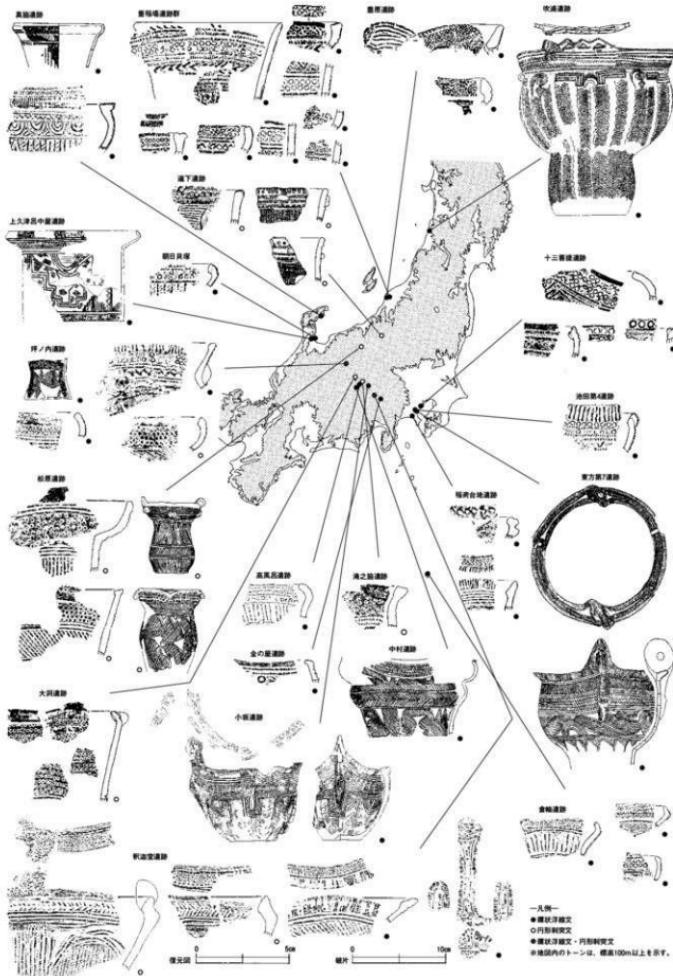


図1 環状浮線文と円形刺突文の分布

た袋状のチューブから径4mm前後の環状粘土紐12点を容易に絞り出すことができた。しかし、加熱後は弾力が低下し、絞り出し時に破損した。

#### (4)まとめ

5日間にわたる実験を通じ、縄文時代前期終末の「十三菩提式壺」にみられる環状浮線文が魚類・鳥類の内臓を用いた「チューブ・デコレーション技法」によって再現できることを確認した。しかし、今回作成した環状の粘土紐は実質と同一とは言い難い。絞り出しの直跡が出土土器に不明瞭な点がその理由のひとつである(写真2-2~4)。十三菩提式土器の内臓に貼付される環状浮線の数は、1個体あたり数百個にのぼる。自然素材を用いた3日間の試みでは粘土紐の量産に至っておらず、再現実験として十分でない。また、想定されるチューブの素材は多岐にわたる。さらに今回は市販の粘土を使用したが、粘土の違いによって表面の状態が変化することも予想され、様々な条件のもとで実験を重ねる必要がある。

本稿作成にあたり、米村衛氏(網走市博物館)からオホーツク式土器、総田弘実氏(長野県埋蔵文化財センター)から十三菩提式土器の施文法についてご教示いただいた。お礼申し上げます。(前山精明・龍田優子)

#### 追記

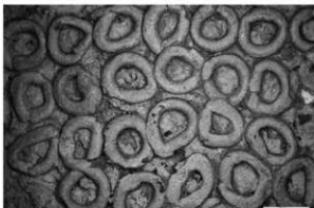
本稿の主題異なるが、環状浮線文の広がりが同時期に製作された「の字状垂面」(前山2004)の分布域と類似することを執筆時に知った。環状浮線文の成立・伝播の過程や文化史的位置づけなど今後の課題としたい。

#### 引用・参考文献

- 青柳文吉 1996「オホーツク文化の貼付浮文土器について」『古代文化』第48巻第5号 古代学協会
- 伊那市教育委員会 1998「中村遺跡」
- 今村啓爾 1974「とけっぱら遺跡」登原遺跡調査会 奥多摩町教育委員会
- 今村啓爾 2010「土器から見る縄文人の生態」同成社
- 小野 昭・前山精明 1994「豊原遺跡」『巻町史 資料編1 考古』巻町
- 金子直行 1999「縄文前期終末土器群の関係性一十三菩提式土器と集合沈線文系土器群の関係を中心として一」『縄文土器論集—縄文セミナー10周年記念論文集—』縄文セミナーの会
- 菅野和郎 1995「川崎市十三菩提遺跡の土器—川崎市市民ミュージアム所蔵資料の紹介」『川崎市市民ミュージアム紀要』第8集 川崎市市民ミュージアム
- 公益財團法人富山県埋蔵文化振興財團ほか 2013「上久津呂中屋遺跡発掘調査報告—能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告X—(第一分冊 縄文時代編)」埋蔵文化財発掘調査報告第55集
- 小島俊彦 1985「朝日貝塚の朝日下層式土器再見」『大境』第9号 富山考古学会
- 後藤和民 1980「縄文土器を作る」 中央公論社
- 島田哲男 1990「松本市坪ノ内遺跡」松本市文化財調査報告No80
- 茅野市教育委員会 1986「高風呂遺跡」
- 茅野市教育委員会 1993「窓ノ脇遺跡」
- 津南町教育委員会2000「道下遺跡 縄文時代中期—地再編整備事業に伴う遺跡発掘調査報告書一」津南町文化財調査報告第31輯
- 東京都八丈町教育委員会 1987「東京都八丈町倉輪遺跡」戸田哲也 1996「縄荷台地遺跡群発掘調査報告書(C-D地点・F地点・S地点)」藤沢市縄荷台地遺跡群発掘調査団
- 長野県教育委員会ほか 1987「大洞遺跡」「中央自動車道長野線 埋蔵文化財発掘調査報告書1」財團法人長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書1
- 長野県教育委員会 1998「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書一—長野市内その2— 松原遺跡 縄文時代中期長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書27
- 能登町教育委員会ほか 1986「石川県能登町 真駒遺跡—農村基盤総合整備事業能登地区真駒工区に係る発掘調査報告書一」
- 前山精明 1994「重福塙遺跡群」『巻町史 資料編1 考古』巻町
- 前山精明 2004「「の」字状石製品」『季刊考古学』第89号 雄山閣
- 前山精明 2002「南赤坂遺跡」巻町教育委員会
- 山形県教育委員会 1985「吹浦遺跡第2次緊急発掘調査報告書」
- 山梨県教育委員会 1986「秩堂1号」山梨県中央自動車道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書「山梨県埋蔵文化財センター調査報告第17集
- 山梨県教育委員会 1987「金の尾遺跡・無名墳(きつね塚)」山梨県埋蔵文化財センター調査報告第25集
- 山梨県教育委員会 1991「小坂遺跡」山梨県埋蔵文化財センター調査報告第63集
- 横浜市埋蔵文化財調査委員会ほか 1974「池辺第4遺跡」「港北ニュータウン地域内文化財調査報告Ⅳ」
- 横浜市埋蔵文化財調査委員会ほか 1974「東方第7遺跡」「港北ニュータウン地域内文化財調査報告Ⅳ」



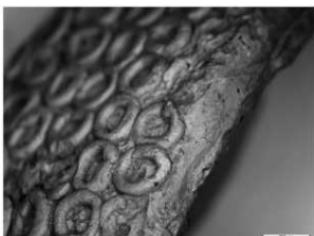
1 漆状浮線文土器破片（豊原遺跡出土）



2 土器破片拡大写真①



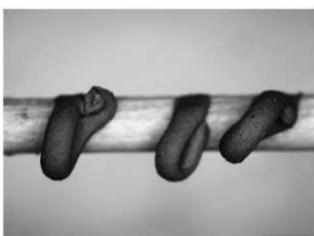
3 土器破片拡大写真②



4 土器破片拡大写真③



5 魚の鱗で作成した漆状粘土絵拡大写真

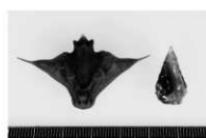


6 鳥の首輪で作成した漆状粘土絵拡大写真

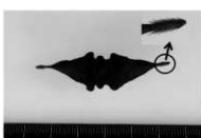
写真2 漆状粘土絵



植物の葉（左：サンショウ、右：ノバラ）



左：ヒシの実、右：石頭



上から見たヒシの実

写真3 想定する穿孔素材



課状粘土紐作成

作成した環状粘土紐①

作成した環状粘土紐②

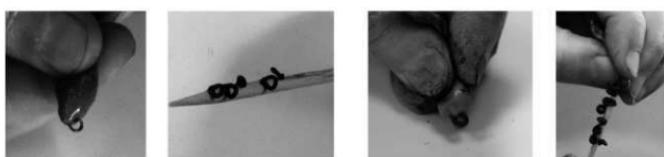
写真4 ゴム手袋を使用した実験



実験前の小腸・盲腸（加熱前）

加熱される盲腸

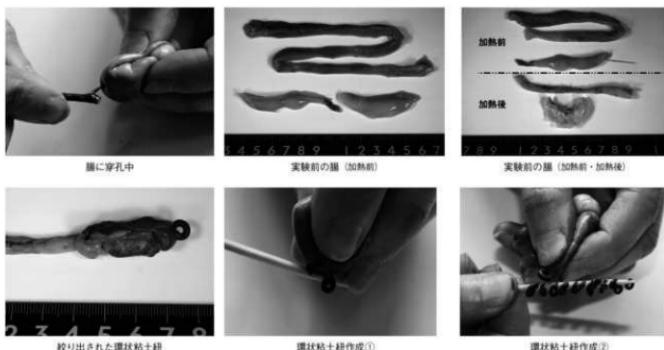
実験前の小腸・盲腸（加熱後）



加熱前の盲腸で作成した環状粘土紐

加熱後の盲腸で作成した環状粘土紐

写真5 鳥（ニワトリ）の羽を使用した実験



鱗に穿孔中

実験前の鱗（加熱前）

実験前の鱗（加熱前・加熱後）

切り出された環状粘土紐

環状粘土紐作成①

環状粘土紐作成②

写真6 魚（マダイ）の鱗を使用した実験

### 3 西蒲区大沢遺跡の縄文時代遺物

#### (1)はじめに

平成28年度企画展「水辺に栄えた縄文社会」において、角田山麓に形成された前期終末～中期前葉遺跡群をとりあげた。日本海の「ランドマーク」角田山にちなんだ遺跡群の特異性に焦点をあてたものである。そのなかで中期前葉後半段階の中核的集落として大沢遺跡を紹介したが、展示遺物の一部に種々の理由で実測図が提示されていないものや未報告資料があった。本稿ではこれを示し、本道跡に備わる特性を考える一助としたい。

#### (2) 大沢遺跡の概要

大沢遺跡は、越後平野の西縁を日本海に接して連なる山地帯の北端「角田山」の北東麓に位置する。遺跡は昭和20年代に上原甲子郎氏によって発見された（上原1966）。遺跡の実態については山林に覆われることから永らく不明であったが、1971年に行われた樹柵の造成に際し大量の遺物が出土したことからおおよその範囲が判明した。造成直後に行われた巻史学会の踏査によれば、遺物は「大沢」・「ワゴ谷」・「明後沢」に開闢された二つの尾根上の東西450m・南北300mあまりに分布し、その状況から北部尾根高城部のA地区、南部尾根低城部のB地区、北部尾根低城部のC地区に区分された。

1979年～82年には、B地区東方の尾根先端部（B'地区）を中心とした発掘調査が新潟大学考古学研究室によって行われた。弥生時代後期の高地性集落の把握に主眼を置いていた学年調査であったが、B地区に形成された縄文時代の捨場の一角落にも小規模なトレンチを設定し、中期前葉から中葉の遺物が多数出土した（新潟大学考古学研究室1981）。1989年には、A地区で計画される農道舗装工事に伴う小規模な発掘調査（100m）を巻町教育委員会が実施し、中期前葉土器群の埋蔵や洞片石器の石材組成、生業復元などに関する良好な情報がえられた（巻町教育委員会1990）。大沢遺跡これまで行われた発掘調査は広大な遺跡のごく一部にすぎず、全体像は不明と言わざるをえないが、これまでえられた見知りを総合すると、前期終末～中期中葉の造構や包含層が良好に遺存しており、A～C地区の捨場に対応する形で中規模集落が形成された可能性が高いことや、黒曜石の流送拠点としてA地区が機能したことが明らかになっている。

#### (3) 前期終末～中期中葉の土器と土製品

資料の記述に先だち、本道跡で製作されたと考えられる土器および土製品における含有物の特徴を記しておく。角田山麓北東台地は、山腹から供給された土石流堆積層を基盤とし、その含有率や層厚が沼沢の沢砂は安山岩、

玄武岩などの角礫や破碎粒子が主体を占める。そのため、本道跡で製作された土器や土製品は破碎岩石を何らかの形で含有する。これに加えて、搬入花崗岩を母材とした石英の破碎粒子を混和材として用いる個体が半数弱を占める点も特徴である。

前期終末の土器 1は1989年発掘調査にあたり1号住居床面から出土した円筒下層d式系土器で、本道跡の成立段階にあたり主要資料の一つである。「巻町史」（巻町1994）324頁の土器観察表で2号住居出土と誤記されたためここに訂正するとともに、これまで提示しなかった拓影を示す。

中期前葉の土器 4は1989年調査に際し中期前葉4期の「捨場下層」から出土した。底径4.7cmを測るミニチュア土器の下半部で、円形突起を伴う横位竹管平行沈線によって下半部文様帶と口縁下の無文帶に分けられる。竹管文の幅は4mmで、この時期としては櫛の工具を使用する。下半部文様帶には縦位集合沈線を施し、爪形連續刺突を加えた平行沈線を等間隔に配す。底面には中期前葉土器に稀な木葉模（広葉樹）が観察できる。器壁内には微細な破碎石英を多量に含む。磨耗度の高いチャート粒子を伴うことから、搬入品の可能性が高い資料である。

5は1989年調査地に接した農道の法画から八木静江氏が1992年に採集した資料である。巻町教育委員会が寄贈をうけ、現在当センター所蔵品となっている。発掘調査時の層位と対比すれば、捨場上層（中期前葉5期）に包含されていたものとみられる。本例は外輪器形をなし深鉢の上半部文様帶から下半部繩文帶にかけての体部資料で、現存部最大径35.5cmを測る比較的大形の土器である。器面には幅7mmの竹管工具による平行沈線を2～3条一單位で施し、縦位沈線によって上半部を4分割、下半部を8分割する。下部沈線の上端には縦帶を伴う溝状文様を配す。多段に区画された上半部には、竹管工具の先端刺突と縦位沈線を複合させた「華文」を無文帯を挟んで2段にわたって充填する。下半部に施す繩文は、横位回転による単節LRである。破碎石英とともに磨耗した岩石粒子を多く含むことから、搬入品とみられる。

3は樹柵造成時に巻史学会が採集した当センター所蔵品。出土地区は明らかでない。外反する深鉢の口縁部破片で、端部に二つの山形小突起を付す。幅9mmの竹管平行沈線で横位に区画し、上段区間に単節繩文LRと縦位沈線を施す。下段の無文帯以下には緩やかにカーブした縦帶を縦に貼付し、連續爪形文を加えている。泥岩とみられる軟質岩石の磨耗、破碎粒子を多量に含み、本

遺跡の中では異質な胎土である。

**中期中葉の土器** 2は口縁部が扇形をなした円筒上層c式系土器。柿畠造成時に巻史学会が採集した当センター所蔵品である。採集地区は明らかでない。口縁部が外反し、著しく肥厚した端部が左上に残る。口端と器表に太さ5~6mmの粘土紐を貼付し、幅4mm台の刺突穴を粘土紐に沿って施す。粗大な破砕石英や磨耗岩石とともに微細粒子を多量に含み、搬入品とみなされる。

**土 瓶** 「ワゴ社」に接した地区から角田山安成氏が1994年に採集したもので、現在巻町土器資料館に展示されている。採集地は捨場の一場が削平された路頭下に位置する。中期前葉後半段階を中心とする多量の土器が同一地点から採集されていることから(新潟大学考古学研究部1984)、これと同時期の製品と考えられる。本例は上端が欠損するがそれ以下が完存し、最大径7.1cm・現存高7.2cmを測る。製作法としては、球状をなした粘土塊の内部を1cm弱の均一な厚さで削り抜き、上部に粘土を接着するために小孔を穿つ。上端の欠損は、「ツケット」から洞落したものである。全体の形状・サイズは手のひらで保持しやすく作出される。底面には、直立を意図して最大幅1.4cmの窪みを設けている。器面上半は熱によって剥落するが、放射状をなした入念な整形痕が下半部に観察できる。側面上部に設けた孔は縦1.6cm・横2.2cm。横長の楕円形をしており、角度を変えるながら息を吹き込むと、1オクターブ以上の音色を奏でることがができる。石英・チャート・土器片などの破碎粒子や角閃石・雲母・海綿骨片を含み、搬入品と考えられる。

#### (4)まとめ

大沢遺跡は、角田山麓縄文時代遺跡群の中で日本海に最も近く、本稿で示した遺物の中には日本海沿岸地域との活発な交流を示す資料がみられる。1の円筒下層d式系土器は、北海道南部から東北北部に中心をもつ。新潟県内では角田山麓の重畠遺跡群・豊原遺跡(巻町1994)などでも類例が出しているが、本例は最も変形度が少ない資料にある。本遺跡では、後続の円筒上層b式や2に示す円筒上層c式系土器も出土しており、長期にわたる北方地域との交流を伝える稀な事例となる。角田山麓は日本海沿岸部で長野県産黒曜石が多量に出土する最北の地と位置づけられる(大工原2002)。青森県三内丸山遺跡では長野県産石材が黒曜石全体の3%を占めており(薬科2005)、その供給に本遺跡居住集團が関与した可能性がある。6の蓮華文施土土器は、北陸の新崎II式段階を特徴づけるものである。類似土器は柏原平野以南の海岸部を中心に分布するが(寺崎2009)、角田山麓では本遺跡にのみ高い割合で存在する。大沢遺跡では中期

前葉1期の土器にも同様の現象が確認でき、海路によつて北陸への往来が行われたことをうかがわせる。近隣の豊原遺跡で出土した黒曜石は、本遺跡から供給された可能性が高い。その中に含まれる陰岐ノ島産石材(金山1995)は、北陸集團との接触をつうじ入手したことを考えられる。4は佐渡小木半島の長者ヶ平遺跡でまとまった類例が出土している(小木町教育委員会1983)。本遺跡で利用される石器石材の中には、佐渡産とみられる鉄石英・玉髓や黒曜石が存在する。その一方で、前期終末～中期前葉の佐渡には長野県産黒曜石が流通している(巻町・東村1988)。当地は越後のなかで佐渡との最短地点に位置し、越佐海峡を渡る物流の拠点をなしたことを物語る。特殊な土器や土製品も遺跡の性格に関わる遺物と言える。4は中期前葉としては稀な有文ミニチュア土器である。本遺跡A地区では100mたらずの発掘区から30点ほどの土偶が出土しており、越後平野周辺での多出例の一つとなる(新潟県立歴史博物館2011)。土笛は長岡市山下遺跡出土の球状土製品(中村1966)と酷似する。信濃川中流域との緊密な社会関係を示す搬入品と考えられる。

(前山精明)

#### 引用・参考文献

- 上原甲子郎 1956 「弥彦角田山周辺古文化遺跡概観」
- 「弥彦・角田山周辺総合調査報告書」 新潟県
- 小木町教育委員会 1983 「長者ヶ平」
- 金山喜昭・鈴木正男・前山精明 1995 「縄文時代の日本海沿岸部における黒曜石の交流」『日本考古学学会 第61回総会研究発表要旨』 日本考古学協会
- 大工原豊 2002 「黒曜石の流通をめぐる社会」『縄文社会論(上)』 同成社
- 寺崎裕治 2009 「新潟県における新崎式系土器」
- 『新潟県の考古学II』 新潟県考古学会
- 中村孝三郎 1962 「先史時代と長岡の遺跡」 長岡市
- 新潟県立歴史博物館 2011 「にいがたの土偶」
- 新潟大学考古学研究室 1981 「大沢遺跡 B・C地区の調査概報」
- 新潟大学考古学研究部 1986 「角田山東麓および佐渡周辺の遺跡調査報告Ⅱ」『FIELD NOTE』第4号
- 巻町教育委員会 1990 「大沢遺跡」
- 巻町 1994 「巻町史 資料編1 考古」
- 薬科哲男・東村武信 1988 「佐渡島内遺跡出土の黒曜石遺物の石材产地同定」『佐渡考古歴史会報』第12号
- 佐渡考古歴史会
- 薬科哲男 2005 「三内丸山遺跡出土の黒曜石製石器・洞片の原材料产地分析」『特別史跡三内丸山遺跡年報』
- 8 青森県教育委員会

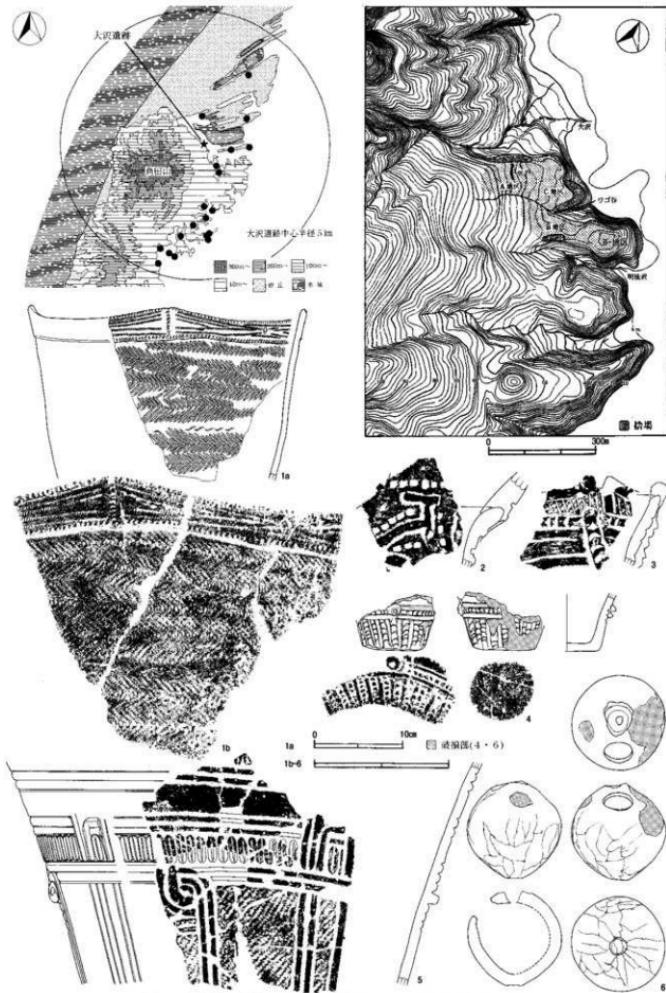


図1 大沢道路周辺の地形と縄文時代の遺物（左上のドットは前期終末～中期前葉の道路）

## 引用・参考文献

- 相澤裕子 2015 「Ⅱ 開発事前審査 2 平成25年度の事前審査に係る試掘・確認調査の概要 (2) 下郷南道路 第1・2次調査 (2013.06 - 2013.12)」『新潟市文化財センター年報-平成25(2013)年度版-』第2号 新潟市文化財センター
- 相田泰臣 2016 「Ⅳ 史跡古津八幡山道路歴史の広場 3 古津八幡山古墳復元整備の概要』『新潟市文化財センター年報-平成26(2014)年度版-』第3号 新潟市文化財センター
- 相田泰臣・渡邊朋和 2015 「Ⅳ史跡 古津八幡山道路 保存整備事業報告書2~1600年の時を越え よみがえる蒲原の王墓-』新潟市教育委員会
- 今井さやか 2014 「Ⅲ 文化財センター事業 8 保存処理』『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 上野一久・春日真実 1997 「横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷道路Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第87集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 瀬田幸季 2014 「『細池寺道上道路Ⅱ 第25次調査-県営は場整備事業(扱い手育成型)両新地区に伴う第11次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 遠藤圭壇・橋本博典 2016 「鳥島灘遺跡 第3次調査-県営は場整備事業(経営体育基盤整備型)卷東町地区に伴う第3次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 春日真実 2014 「古代遺跡-動植物-西蒲原地域を事例として-』『郷土史Ⅹ』第7号 燕市教育委員会・燕市郷土史研究会連合会
- 木田拓也・早田 鞍 2017 「舟戸道路Ⅱ 第25次調査 宅地造成工事に伴う舟戸道路2次発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 川上直雄 1993 「山人冢遺跡 暫急発掘調査報告書』横越村文化財調査報告② 横越村教育委員会
- 小村一太・中村信隆 1990 「新潟市史』資料編2 近世Ⅰ 新潟市
- 浦沢規矩 2013 「阿賀北における弥生時代後期の北陣土器について』三面川流域の考古学』第11号 奥三面を考える会
- 龍田俊子・長澤洋生 2015 「下新田道路 第6・8・9次調査-県営は場整備事業(経営体育基盤整備型)道上地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子 2014 「細池寺道上道路Ⅲ 第26次調査-県営は場整備事業(扱い手育成型)両新地区に伴う第12次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・細井浩治 2015 「『細池寺道上道路V 第32・38・41次調査 西江浦遺跡 第6次調査-県営は場整備事業(扱い手育成型)両新地区に伴う細池寺道上道路第15・17・18次 西江浦遺跡第4次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 橋本博文・平形杏里 2016 「新潟県新潟市牡丹山漱芳神社古墳第2次発掘調査報告書』『新潟大学考古学研究室調査研究報告』第16集 新潟大学人文学部
- 岸野哲哉 2014 「Ⅱ 開発事前審査』『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 福田秀生 2011 「第3章 まとめ 第1節 弥生時代の遺物について』『会津坂東北道路発掘調査報告10 桜町遺跡(2次)』福島県文化財調査報告書第47号 福島県教育委員会・財団法人福島県文化振興事業団・国土交通省東北地方整備局郡山河川事務所
- 前山裕明 2014 「Ⅲ 文化財センターの事業 4 平成24年度の本発掘調査・工事立会 (6) 細池寺道上道路第38次調査(201206)』『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和・八藤後智人 2014 「新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014a 「I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について』『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014b 「Ⅲ 文化財センターの事業 6 資料の収蔵・保管』『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014c 「Ⅳ 史跡古津八幡山道路歴史の広場 1 史跡古津八幡山道路保存活用事業の概要』『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター

平成27年度刊行免振調査・整備事業報告書一覧

書名	調査名	発行年月日	執筆者
中谷内道路Ⅰ 第12・15・16次調査 内野道路Ⅱ 第8・9次調査	県営は場整備事業(前い手官成型) 満日地区に伴う 中谷内道路第3・5・6次、内野道路第3・4次免振調査報告書	平成27年9月30日	遠藤恭雄・芦澤史史はか
細池寺道上道路Ⅴ 第32・35・40次調査 西江(沖道路) 第6次調査	県営は場整備事業(前い手官成型) 西江地区に伴う 細池寺道上道路第5・17・18次、西江(沖道路)4次免振調査報告書	平成27年9月30日	立木宏明・細井信浩はか
新岡上町道路 第3次調査	因田800m線改修工事に伴う神岡上町道路第3次免振調査報告書	平成27年12月25日	前山耕明・斎藤繁人はか
下新田路 第6・8・9次調査	県営は場整備事業(前い手官成型) 道上地区に伴う第3・5・6次免振調査報告書	平成27年12月25日	鷹田慶子・長澤誕生はか
沖ノ舟道路Ⅶ 第19・22・24次調査	県営は場整備事業(前い手官成型) 浜田地区に伴う沖ノ舟道路第12・15・17次免振調査報告書	平成28年2月12日	遠藤恭雄・津野優子はか

平成27年度文化財センター・歴史文化課隸屬文化財担当職員名簿

文化財センター		
所長	中野 後一	統括
所長付佐	福地 雄郎	事務
所長補佐(学芸員)	波瀬 朝和	埋蔵文化財
主任	本間 敏明	事務
主任(学芸員)	遠藤 恭雄	埋蔵文化財
主任(学芸員)	立木 宏明	埋蔵文化財
主幹	上田 後哉	事務
主幹(文化財専門員)	今井 さちか	埋蔵文化財
主幹(学芸員)	相原 春臣	埋蔵文化財
主幹(文化財専門員)	鹿田 勝子	埋蔵文化財
主幹(文化財専門員)	相澤 純子	埋蔵文化財
主幹(学芸員)	前山 樹明	埋蔵文化財
更員(文化財専門員)	金田 雄也	埋蔵文化財
非常勤嘱託	土佐 夕美子	事務
非常勤嘱託	宮下 佐賀子	先生の丘展示部
非常勤嘱託	酒井 和男	民俗文化財
非常勤嘱託	津野 優子	埋蔵文化財
非常勤嘱託	八幡後 賀入	埋蔵文化財
非常勤嘱託	磯部 保衛	先生の丘展示部
非常勤嘱託	奈良 佳子	埋蔵文化財
主幹(学芸員)	前田 進幸(宮城駅へ派遣)	埋蔵文化財

歴史文化課隸屬文化財担当		
主幹(文化財専門員)	廣野 鑑造	埋蔵文化財
主幹(文化財専門員)	津山 えりか	埋蔵文化財
主幹(文化財専門員)	朝岡 政康	埋蔵文化財
非常勤嘱託	新井 順	埋蔵文化財

平成27年度文化スポーツ部の組織機構図

0-1880

新潟市文化財センター年報 第4号  
—平成27（2015）年度版—

2017年3月29日印刷・発行

編集・発行 新潟市文化財センター  
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1  
電話 025-378-0480

印刷 株式会社ウイザップ  
〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1-25